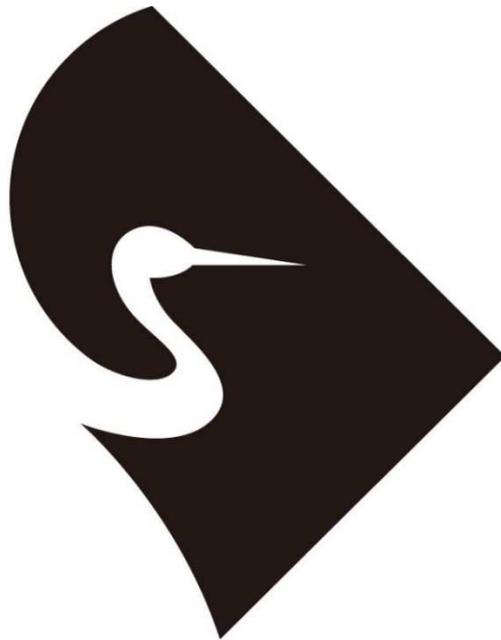


令和3年度

運営協議会報告書



鶴岡高専

National Institute of Technology(KOSEN), Tsuruoka College

令和4年3月

独立行政法人国立高等専門学校機構

鶴岡工業高等専門学校

巻 頭 言



一昨年の冬から続いている新型コロナウイルス感染症への対応のため、令和3年度も時間割りの変更や部活動の制限など従来と異なる形での学校運営が続きました。本校の特徴である地元ものづくり企業と連携したCOOP教育や長期インターンシップも、限定的な範囲での実施となりました。首都圏への工場見学も見合わせる事となりました。国際交流の面では、ニュージーランドやシンガポールへの短期学生派遣やタイ、ベトナムなどからの留学生受入れが叶わず、グローバル教育では苦戦を強いられました。一方で、モンゴルからの留学生受入れは令和3年度も進められました。モンゴルからの留学生は国内での厳しい選抜をくぐり抜けた先鋭であり、日本語での授業というハンデがある中でも首席で卒業するものもいます。彼らが在校生に良い刺激を与え、学問に対して、また自身の成長に対し貪欲な姿勢を示してくれたことに感謝します。

新型コロナウイルスへの感染予防では、関係幹部の献身的な対応も含め、学生、教職員が一致団結をして感染予防に取り組み、キャンパス内での感染を防いできました。また、その間、近隣の山形大学農学部における職域接種への参加など、本校だけの力でなく、医療関係者を始め多くの方々や機関の支援や善意に支えられました。幸いにも今年度も教育活動の中断はなく、お世話になった全ての関係者に御礼を申し上げます。

さて、教育活動に関しては、今年度も教員の間での改善活動（ファカルティデベロップメント）が続けられ、より良い授業の実施に向けて様々な試みがなされました。今年度は対面授業が中心でしたが、大人数での授業や新たな指導法を試行する授業の一部は今年度もオンラインで行われました。学生の進路については、進学、就職共に順調で本校の教育に対する社会的な信頼の高さに感謝したいと思います。研究活動、地域連携活動に関しては、コロナ禍の制約はあるものの、参加者数を絞って来場型の研究発表会や各種セミナーが開催され、多数の方にご来場いただきました。本校の研究力は全国の高専の中でもトップクラスであり、今年度に獲得した競争的な研究資金などの外部資金も一億円規模です。

一方で、本校には受験生の減少という大きな課題があります。今年度、受験者数が初めて募集人数を下回り、3月に二次募集を行うこととなりました。来年度は、今年度の取組についての検証を基として受験生増加に向けて戦略的に取り組む所存です。

2月17日に開催された運営協議会では、以上の内容を委員の皆様にお伝えし、受験生確保を含め様々な運営の改善に向けた貴重なアドバイスを頂戴しました。関係各位にあっては、引き続きご指導、ご支援を頂けますようよろしくお願い申し上げます。

令和4年3月

鶴岡工業高等専門学校 校長 森 政 之

目 次

	ページ
◆巻 頭 言	1
校長 森 政 之	
目 次	2
I 令和3年度鶴岡工業高等専門学校運営協議会	3
1 開催概要	4
2 令和3年度運営協議会 委員名簿	5
3 本校関係者 出席者名簿	6
4 会議風景	7
5 議事要旨	9
6 外部評価シート	14
II 資料編	16
令和3年度鶴岡工業高等専門学校運営協議会 議事・日程及び概要	
運営協議会委員名簿、本校関係出席者名簿、席次表	【資料 1】
評価・コメント等記入用紙（委員用）	【資料 2-1】
令和3年度自己点検・評価表	【資料 2-2】
学校運営の概要（説明資料）	【資料 3-1】
基準別対応状況 説明資料	【資料 3-2】
令和2年度運営協議会における各委員からの意見、要望等とその対応状況等について	【資料 4】
入学試験実施状況（本科・編入学・専攻科）（平成29～令和3年度）	【資料 5】
入試説明会等実施状況（平成29～令和3年度）	【資料 6】
卒業生・修了者の進路状況（本科・専攻科）（平成28～令和2年度）	【資料 7】
関係規程等	
・本校 運営協議会規程	【資料 8-1】
・本校における自己点検・評価に関する実施基本方針	【資料 8-2】
・本校 自己点検・評価委員会規程	【資料 8-3】

I 令和3年度
鶴岡工業高等専門学校 運営協議会

1 運営協議会 開催概要

日 時： 令和4年2月17日（木） 13時30分から16時30分まで

場 所： 鶴岡工業高等専門学校 8号館3階「講義室1・2」
及び、zoomによるオンライン配信

次 第：

開 会	総務課長（進行）
本校出席者紹介	総務課長
運営協議会委員紹介	総務課長
校長挨拶	校 長
日程説明及び配付資料の確認	総務課長
委員長（議長）選出	総務課長
委員長 挨拶	委 員 長

趣旨説明

総務課長

【学校運営の概要】

校 長

【基準1】教育の内部質保証システム

【基準2】教員組織及び教員・教育支援者等

【基準3】学習環境及び学生支援等

【基準4】財務基盤及び管理運営

以上、教務主事

学生主事・寮務主事

事務部長

◇ 質疑応答 ◇

～～ 休 憩 ～～

【基準5】準学士課程の教育課程・教育方法

【基準6】準学士課程の学生の受入れ

【基準7】準学士課程の学習・教育の成果

【基準8】専攻科課程の教育活動の状況

【選択的評価事項A】研究活動の状況

【選択的評価事項B】地域貢献活動の状況

以上、教務主事

専攻科長

以上、地域連携センター長

◇ 質疑応答 ◇

委員長まとめ

委 員 長

校長謝辞

校 長

閉 会

事務連絡

総務課長

2 令和3年度 運営協議会委員名簿

(敬称略)

区分	No	所属・職名	氏名	備考
1号委員	1	株式会社エル・サン 代表取締役会長	早坂 剛	対面出席
	2	山形県庄内総合支庁長	高橋 正美	オンライン出席
	3	田川中学校長会 副会長 (庄内町立余目中学校長)	佐藤 義徳	対面出席
2号委員	4	国立大学法人長岡技術科学大学長	鎌土 重晴	オンライン出席
	5	慶應義塾大学先端生命科学研究所 所長	富田 勝	欠席
3号委員	6	鶴岡高専技術振興会 会長 (鶴岡市長)	皆川 治	オンライン出席
		【代理】鶴岡高専技術振興会 理事 (鶴岡市商工観光部長)	佐藤 正胤	
	7	鶴岡高専峰友会 副会長	齋藤 満	対面出席

3 本校関係者 出席者名簿

No	職 名	氏 名
1	校 長	もり まさゆき 森 政之
2	副校長（総務担当・教務担当）／教務主事／創造工学科長	さとう つかさ 佐藤 司
3	副校長（学生担当）／学生主事	おの でら りょうじ 小野寺 良二
4	副校長（寮務担当）／寮務主事	やまだ みつあき 山田 充昭
5	副校長（専攻科担当）／専攻科長	わたなべ せいじ 渡部 誠二
6	副校長（研究・地域連携担当）／地域連携センター長	かみじょう としお 上條 利夫
7	基盤教育グループ長	たなべ えいいちろう 田邊 英一郎
8	電気・電子コース長	うちやま きよし 内山 潔
9	情報コース長	ししど みちあき 宍戸 道明
10	総合メディアセンター長	さとう じゆん 佐藤 淳
11	保健センター長	もとほし はじめ 本橋 元
12	教育研究技術支援センター長	せ がわ とおる 瀬川 透
13	国際交流支援室長	きむ じえいぶん 金 帝演
14	情報広報室長	さいとう なつみ 斎藤 菜摘
15	事務部長	たなか もとひさ 田中 基久
16	総務課長	すずき ひろゆき 鈴木 浩幸
17	学生課長	かねこ まこと 金子 誠
18	総務課課長補佐（総務担当）	しょうじ ゆきひこ 庄司 由紀彦
19	総務課課長補佐（財務・施設担当）	おおやま もと 大山 元
20	学生課課長補佐（兼 学生係長）	なかじま なおき 中島 直樹
21	総務課企画・連携係長	なりた あつし 成田 敦史
22	総務課企画・連携係 主任	うえの さとこ 上野 理子

4 会議風景



会場全景



早坂 剛 委員長



佐藤義徳 委員



齋藤 満 委員



オンライン出席いただいた委員の皆さま

(←↑：高橋正美 委員、 ←↓：佐藤正胤 委員代理、 →↓：鎌土重晴 委員)

4 会議風景



本校執行部



佐藤副校長（教務主事）



森 校長



小野寺副校長（学生主事）



山田副校長（寮務主事）



渡部副校長（専攻科長）



上條副校長（地域連携センター長）



列席した本校関係者

5 議事要旨

議事に先立ち、総務課長（進行）から学校関係者紹介の後、委員が紹介された。次いで、森校長から挨拶があった。

【委員長（議長）の選出】

本校運営協議会規程第4条第1項で、委員長は「委員の互選により選出」することとなっているが、事務局から早坂委員を候補とする提案があり、全会一致で同委員が選出された。

引き続き、委員長に選出された早坂委員から挨拶があった。

【学校運営の概要について説明】

森校長から、学校運営の方針及び令和3年度の具体的活動内容、並びに校長としての所感の説明があった。

【基準別対応状況について説明（前半部分）】

佐藤教務主事から「基準1 教育の内部質保証システム」「基準2 教員組織及び教員・教育支援者等」について、小野寺学生主事及び山田寮務主事から「基準3 学習環境及び学生支援等」について、引き続き、田中事務部長から「基準4 財務基盤及び管理運営」について、それぞれ説明があった。

次いで、ここまでの説明に関する質疑応答が行われた。

なお、質疑応答の概要は次のとおり。（●：質問・コメント、→：回答）

- 基準4で「5（期待を上回る実施）」と自己評価したのはどういう理由か？
→ 「観点4-1-④」について、財務に関する監査は、内部監査、監事監査、及び監査法人による監査を行っているが、それ以外にも「高専間相互監査」の形で補足的な制度も取り入れており、より厳密な監査制度を採用している点
「観点4-2-①」については、規程に沿った組織上の役割分担がなされている以外に、副校長組織とセンター組織のすみ分けが明確になされており機能的に活動できている点
「観点4-2-③」については、かなり早い段階から校内の採択経験者らを講師に「科研費セミナー」を開催し、科研費応募書類作成の早期着手と採択経験者らによる申請書ドラフト版の校内査読を実施し、採択経験者の知見を校内で共有して次の採択に繋げる活動を積極的に行っている点、がそれぞれ「5」と評価した理由である。
- 在籍学生の96.5%が県内出身者、庄内地域出身者も73.6%を占める一方で、県内就職率が20%台というデータもある。庄内総合支庁としても「庄内地域若者定着促進会議」を開催して県内定着の促進を図っているが、県内及び庄内

地域企業の生産性向上に貢献するためにも地元定着の取り組みなどを行っていただければご紹介願いたい。

→前年度、就職希望者の4割近くが県内就職したのに対し、本年度は2割台に低下しているのは事実である。この点は重く受け止めたい。

それに対する取り組みとして行ってきたのは、各社の協力を得て県内企業に限りインターンシップを実地で開催したこと。また、企業研究セミナーなどの各種説明会も本校技術振興会会員企業を中心に地域の企業も多数お招きして開催してきた。今後、より一層工夫を凝らして実施していきたい。

- 学生は2年次に各コースへ配属し、4年次から各専門分野へ配属する教育組織となっているが、この場合の教員組織はどうなっているのか？指導の観点から難しい部分はないのか？

→4～5年次の各専門分野は、3年次の終わりに選択することになっている。

「材料工学」などの融合複合分野を希望する学生の場合、授業は学生が所属する基礎コースの科目が多くを占めるが、その中のうち選択科目として分野に相当する授業を受けるよう定め指導が混乱しないようにしている。複数コース学生が同時に学ぶ分野必修科目ではその科目を担当することができる教員を各コースから適宜選択している。

- 仮に「材料工学分野」に関連する授業を行う場合、各コースに所属する学生と一緒に授業を受けられる体制になっていないのか？

→各コースの学生が同時に受けられる科目は分野必修科目であり2～3科目程度と教員に過度な負担とならない様に設定している。それを授業時間割の中で選択・受講してもらうようにしている。

- 科目数が多くなってしまいうような印象だが、教員への負担は大きくなるのか？

→従来から実施している科目群の中から分野毎に科目を割り振っている。分野によっては重複している科目もある。むしろ、同時間で実施しなければならない科目が増えたため時間割の編成の方が大変な作業である。

- 間接経費を35万円以上獲得した場合の報奨金は、研究費として配分するのか給与の一部として支給するのか？また、支給割合はもっと高くてもいいと思うが。

→「給与」の一部として支給する。なお、支給割合は高専機構本部が定めているものである。

- 学習・生活支援等に関連して、高専では夏休み前などに保護者との懇談があったと記憶しているが行っているのか？なお、高専にとって保護者は重要なステークホルダーであり、保護者との良好な関係づくりは今後の受験生獲得等に

も影響するものなのでしっかりやっていただきたい。

→保護者懇談会は、5年生の場合は4月中旬に、1～4年生は10月中旬にそれぞれ実施している。その他、適宜必要に応じて行っている。

● 入学生の大半が庄内地区からのようで、人口の多い内陸地区からの学生が少ないようだが何か理由があるのか？

→かつて4割程度が内陸出身の学生だった時代もあるので、その時代と比較するとだいぶ減っているのは事実である。考えられる理由としては、特に山形市周辺は仙台市に行くのと距離的に大差なく、寮に入るのであればより交通の便がいい仙台方面が選ばれているのではないか。

● 校長の「学生の声を聞く」という方針に惹かれた。そのひとつ授業アンケートはどのように活用しているのか？

→授業アンケートの結果については、各教員本人に通知すると共に、結果を掲示して学生が見られる状態にしている。また、執行部でもその結果を共有している。

なお、他に学生の声を聞く機会としては、学生会や寮生会との懇談の機会を設けている。

【基準別対応状況について説明（後半部分）】

暫時休憩をはさんだ後、佐藤教務主事から「基準5 準学士課程の教育課程・教育方法」「基準6 準学士課程の学生の受入れ」「基準7 準学士課程の学習・教育の成果」について、渡部専攻科長から「基準8 専攻科課程の教育活動の状況」について、引き続き上條地域連携センター長から「選択的評価事項 研究活動及び地域貢献活動の状況」について、それぞれ説明があった。

次いで、ここまでの説明に関する質疑応答が行われた。

なお、質疑応答の概要は次のとおり。（●：質問・コメント、→：回答）

● 選択的評価事項で「5（期待を上回る実施）」と自己評価したのはどういう理由か？

→まず「研究」に関して、ひとつの指標である「外部資金獲得額」については、各高専の規模が違うため「教員一人あたりの獲得金額」で集計したデータを見ることになるが、令和2年度は全国2番目であった。本年度は年度途中のため結果は出ていないが、東北・北海道地区の高専では現在トップの実績である。

また「地域連携」については、各イベントで行った参加者アンケートでも高い評価を受けており、参加者の満足度が極めて高いことが挙げられる。特に「科学フェスタ」については、回収率100%で100%の満足を得た。

- 特に研究分野は成果も出しており頑張っている印象である。今後それらを論文化することが必要になると考える。「Gear5.0（マテリアル分野）」においては、各校と連携してネットワークを更に強くして欲しい。
地域連携についても活発に行っている印象であり、地域企業との連携を強化すると同時に、地域企業の技術者と一緒になって協働教育に取り組み課題解決を図っていくことも学生の育成にはますます重要になってくると考えている。
「鶴岡で働きたい」と思わせるような地域の魅力づくりに貢献することも高専の重要なミッションのひとつだと思う。今後もいい循環を期待したい。
- 研究・地域連携活動の継続に努力していることに敬意を表したい。鶴岡市とは「鶴岡高専技術振興会」、「地域連携センター」、「K-ARC」等で繋がりが強いが、地域との連携活動、また資金調達についても高く評価している。前校長が地元就職者 60 人を目指す具体的な数字を示して話していたこともあり、この連携した成果が若者の地元就職に結びつき、更なる地元定着に繋がることを期待したい。
- 志願倍率の低下が課題として挙がっていたが、苦勞している様子がよく分かった。同時に、鶴岡高専の取り組みなどを中学生が理解していないのがポイントなのかと思った。学校説明会などでも理解できている中学生は意外と少ないのかも知れず、もっと早いうちから地元の中学生への啓蒙活動を強化してもらうと、高専に適した生徒が自分の方向性を決められるのではないかと思う。
- 志願者数がここ 2 年くらい下がっている。どのような理由が考えられるか？
→地域ごとに減り方に違いがあり、その分析を今後行いたいと思う。本年度約 60 の中学校に出向き学校紹介をさせてもらったが、限られた時間でもあり、どういう資料でどのような内容の説明だと短時間でも本校の取り組みなどに共感してもらえるかを考えていきたい。また、「科学フェスタ」のような大人気のイベントがあるにも関わらず志願者数の増加に結びついていないことに鑑みて、人気のあるイベントを志願者数の増加に繋げるためにどのような改善を行っていく必要があるのかについても一緒に考えていきたい。
- 大学が説明会などを開催すると学生とほぼ同じ数の保護者も参加する。その保護者をいかに掴めるかが大きいと考えている。特に中学生の年代は親の影響が非常に大きいので、同様に、子供たちだけではなく保護者にも理解してもらうことが大切であり、保護者にも高専の魅力を伝えるつもりで広報活動を進めて欲しい。

【委員長の総括】

早坂委員長から、学校関係者に対し、約 400 名を擁する学寮で、ここまで新型コロナウイルス感染のクラスターを発生させることなく運営してきたことへの賞

賛と、本運営協議会に向けて説明資料の準備等にあたった労いのコメントが寄せられた。

また、各委員に対し、本日の議事進行に協力いただいたことに関する謝意が述べられた。

【評価及びコメントの記載】

「資料 2-1」に委員から評価及びコメントを記載願うために時間が設けられた。なお、オンラインで出席の委員には、2月28日(月)までに同記入用紙を事務局あて提出願うこととした。

【閉会】

森校長から、出席いただいた委員へ感謝の言葉が述べられ、運営協議会が閉会した。

(以上)

6 評価・コメント集計表

「外部評価」欄

- 5：期待を上回って実施している
- 4：十分に実施している
- 3：実施している
- 2：十分には実施していない
- 1：実施していない

(1) 評価点集計結果

基準	点検項目	報告者	各観点の 自己評価 平均点	A	B	C	D	E	F	委員 平均
基準1	教育の内部質保証システム (3つの方針[DP,CP,AP]に関する項目、及び校内PDCAサイクルに関する項目を含む)に関すること	教務主事	4	4	4	5	4	4	4	4.2
基準2	教育組織及び教員・教育支援者等に関すること	教務主事	4	4	4	4	4	4	4	4.0
基準3	学習環境及び学生支援等に関すること	学生主事 寮務主事	4	4	4	4	4	4	4	4.0
基準4	財務基盤及び管理運営に関すること	事務部長	4	5	4	4	4	4	4	4.2
基準5	準学士課程の教育課程・教育方法に関すること	教務主事	4	4	4	4	4	4	4	4.0
基準6	準学士課程の学生の受入れに関すること									
基準7	準学士課程の学習・教育の成果に関すること									
基準8	専攻科課程の教育活動の状況に関すること	専攻科長	4	4	4	4	4	4	4	4.0
選択的 評価事項 A	研究活動の状況	地域連携 センター長	5	5	4	5	5	5	4	4.7
選択的 評価事項 B	地域貢献活動の状況									

(2) 評価コメント

基準	点検項目	報告者	委員コメント
基準1	教育の内部質保証システム (3つの方針[DP,CP,AP]に関する項目、及び校内PDCAサイクルに関する項目を含む)に関すること	教務主事	<p>◆ [全体として] 全ての基準等を十分に達成している。さらに研究活動及び地域貢献活動は全高専の中でもモデルケースとして発信できるほどの優れた成果を発出している。そのことをステークホルダーとなる中学生及び保護者に向けて情報発信し、優秀な学生確保に努めてほしい。高専であれば、コロナ禍でもICTを活用した素晴らしい発信もできるはず。中学生には高専生を、保護者には教員が対応するという考え方も必要かもしれません。頑張っていたと思います</p> <p>◆ バイタリティのある学生の育成</p> <p>◆ 自己評価以上の取り組みがなされていると感じました</p>
基準2	教育組織及び教員・教育支援者等に関すること	教務主事	(コメント等なし)
基準3	学習環境及び学生支援等に関すること	学生主事 寮主事	◆ 内陸からの学生募集を強化する。そして地元就職へ力を入れる
基準4	財務基盤及び管理運営に関すること	事務部長	(コメント等なし)
基準5	準学士課程の教育課程・教育方法に関すること	教務主事	◆ 学生教育の目的をしっかりと持たせる
基準6	準学士課程の学生の受入れに関すること		◆ 鶴岡高専の特色ある教育活動や就職状況については保護者・中学生から見ても好印象になるものとする。今年度の入学志願者数の減少については説明会を多数開催されたとのことだったが、PR方法等の見直しが必要なのではと考える。県外学生もいる中、地域コミュニティ等で県・市についての知見を得る機会もあり、地元就職への一助となるものとする。引き続き高専卒業生の地元定着増に期待したい
基準7	準学士課程の学習・教育の成果に関すること		
基準8	専攻科課程の教育活動の状況に関すること	専攻科長	(コメント等なし)
選択的 評価事項 A	研究活動の状況	地域連携 センター長	<p>◆ 起業家の育成へ力を入れて欲しい</p> <p>◆ 学生の外部発表や外部資金獲得に向けた体制構築など、さまざまな活動を通じて学生の能力向上と学校の活性化に取り組んでいることに敬意を表します。今後は、「魅力ある学校として鶴岡高専の10年ビジョン」の「地域に貢献する高専」にも掲げられている「卒業生の地元就職」についても、さらなる取り組みを期待します</p> <p>◆ 特色ある取り組みがなされており、大変参考になりました。今後の進路指導に生かせればと思います</p>
選択的 評価事項 B	地域貢献活動の状況		<p>◆ 科研費セミナーや科研費申請数、外部資金申請数の増加により、積極的に研究費を獲得し、研究活動の充実を図る姿勢や外部資金獲得状況が東北管内でもトップであることは高く評価できる。このような積極的な研究活動への取組は高専学生に対しての教育活動にも繋がるものとして期待できる。また、市民サロン等のセミナーについても満足度の高いものを開催されており、各セミナーでの参加者層に合わせた内容を講演されているものとする。今後も高専が身近に感じられる活動を期待する</p>

II 資料編

令和3年度 鶴岡工業高等専門学校運営協議会 議事

日 時： 令和4年2月17日（木）13時30分から16時30分まで

場 所： 鶴岡工業高等専門学校 8号館3階 講義室1・2

及び、zoomによるオンライン配信

議 題： 1 委員長（議長）の選出について

2 鶴岡高専の概要説明、及び基準別対応状況と自己評価について

3 その他

配付資料一覧

- | | |
|--|----------|
| 1 運営協議会委員名簿、本校関係出席者名簿、席次表 | 【資料 1】 |
| 2 評価・コメント等記入用紙 | 【資料 2-1】 |
| 令和3年度自己点検・評価表 | 【資料 2-2】 |
| 3 学校運営の概要説明資料、各所管事項説明資料 | 【資料 3】 |
| 4 令和2年度運営協議会における各委員からの意見、要望等とその対応状況等について | 【資料 4】 |
| 5 入学試験実施状況（本科・編入学・専攻科）（平成29～令和3年度） | 【資料 5】 |
| 6 入試説明会等実施状況（平成29～令和3年度） | 【資料 6】 |
| 7 卒業者・修了者の進路状況（本科・専攻科）（平成28～令和2年度） | 【資料 7】 |
| 8 関係規程等 | |
| 本校 運営協議会規程 | 【資料 8-1】 |
| 本校における自己点検・評価に関する実施基本方針 | 【資料 8-2】 |
| 本校 自己点検・評価委員会規程 | 【資料 8-3】 |

（注： 以降の資料は外部委員のみに配付（送付））

- 9 学校総覧 2021
- 10 令和2年度運営協議会報告書（令和3年3月）
- 11 College Profile 2020-2021
- 12 令和3年度 学生便覧
- 13 令和4年度 学生募集要項
- 14 令和4年度 専攻科学生募集要項

日 程 及 び 概 要

開 会	総務課長（進行）
本校出席者紹介	総務課長
運営協議会委員紹介	総務課長
校長挨拶	校 長
日程説明及び配付資料の確認	総務課長
委員長（議長）選出	総務課長
委員長 挨拶	委 員 長

進 行 順 序	予定時刻	説明事項等	説明者等
趣旨説明	13:40		総務課長
説 明 ①	13:45	学校運営の概要について	校 長
説 明 ②	14:00	【基準 1】教育の内部質保証システム 【基準 2】教員組織及び教員・教育支援者等	教務主事
	14:15	【基準 3】学習環境及び学生支援等	学生主事 寮務主事
	14:25	【基準 4】財務基盤及び管理運営	事務部長
	14:35	【 質疑応答 】	

14:55 ～ 15:05 休 憩 （10分）

説 明 ③	15:05	【基準 5】準学士課程の教育課程・教育方法 【基準 6】準学士課程の学生の受入れ 【基準 7】準学士課程の学習・教育の成果	教務主事
	15:20	【基準 8】専攻科課程の教育活動の状況	専攻科長
	15:30	【選択的評価事項 A】研究活動の状況 【選択的評価事項 B】地域貢献活動の状況	地域連携 センター長
	15:40	【 質疑応答 】	

（16:00 頃～）

委員長まとめ	委 員 長
校長謝辞	校 長
閉 会	
事務連絡	総務課長

資料 1-1

令和4年2月17日
鶴岡高専運営協議会

令和3年度鶴岡工業高等専門学校運営協議会 委員名簿

区分	No	職 名	フリガナ 氏 名 ※敬称略	備考
1号委員	1	株式会社エル・サン 代表取締役会長	ハヤサカ ツヨシ 早 坂 剛	対面 出席
	2	山形県庄内総合支庁長	タカハシ マサミ 高 橋 正 美	Online 出席
	3	田川中学校長会 副会長 (庄内町立余目中学校長)	サトウ ヨシノリ 佐 藤 義 徳	対面 出席
2号委員	4	国立大学法人長岡技術科学大学長	カマド シゲハル 鎌 土 重 晴	Online 出席
	5	慶應義塾大学先端生命科学研究所 所長	トミタ マサル 富 田 勝	×
3号委員	6	鶴岡高専技術振興会 会長 (鶴岡市長)	ミナカワ オサム 皆 川 治	Online 出席
		【代理】 鶴岡高専技術振興会 理事 (鶴岡市商工観光部長)	サトウ マサツグ 佐 藤 正 胤	
	7	鶴岡高専峰友会 副会長	サイトウ ミツル 齋 藤 満	対面 出席

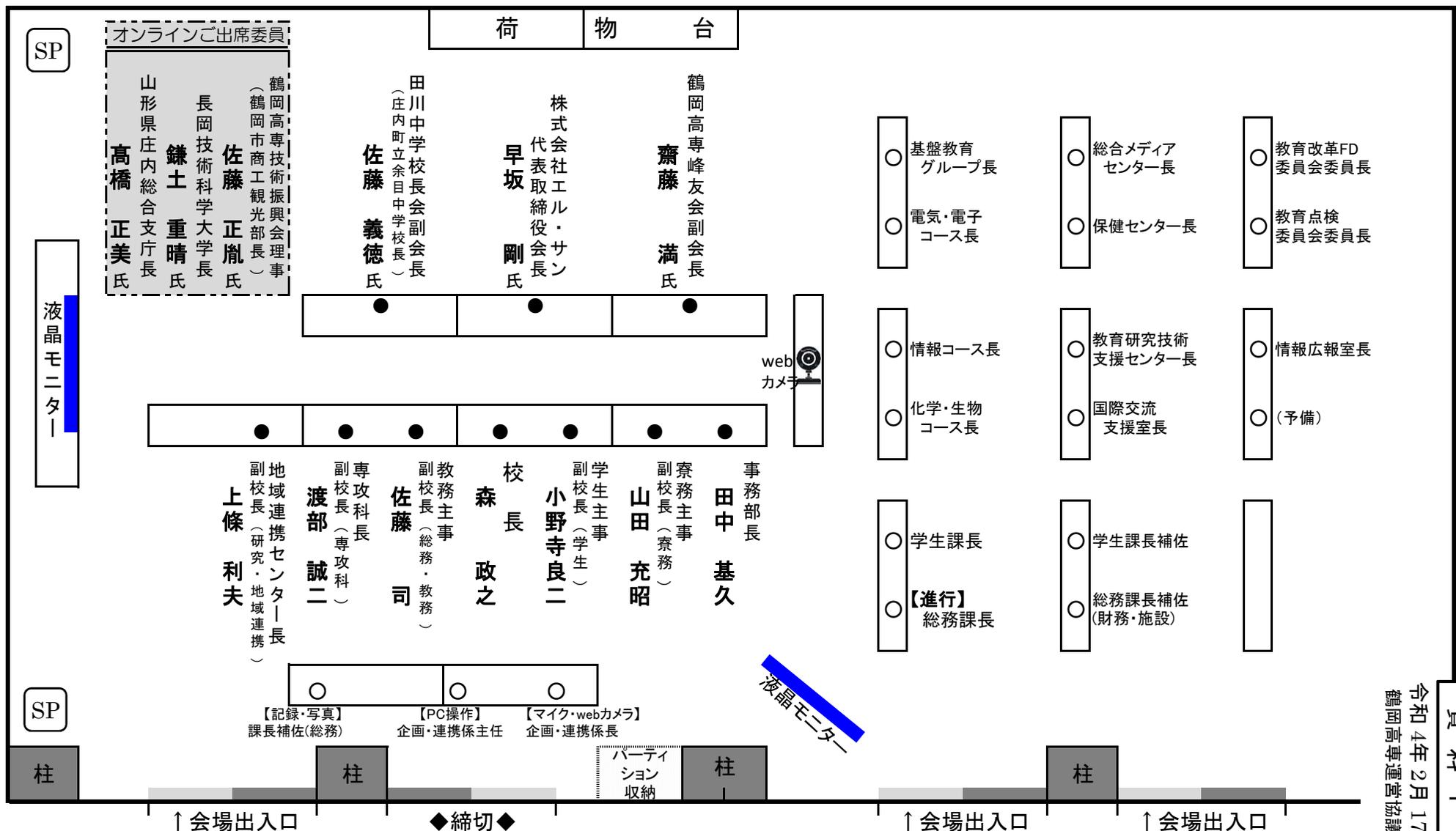
本校関係者 出席者名簿

No	職 名	氏 名	備考
1	校 長	森 政 之	
2	副校長（総務担当・教務担当）／教務主事／創造工学科長	佐 藤 司	
3	副校長（学生担当）／学生主事	小 野 寺 良 二	
4	副校長（寮務担当）／寮務主事	山 田 充 昭	
5	副校長（専攻科担当）／専攻科長	渡 部 誠 二	
6	副校長（研究・地域連携担当）／地域連携センター長	上 條 利 夫	
7	基盤教育グループ長	田 邊 英 一 郎	
8	電気・電子コース長	内 山 潔	
9	情報コース長	宍 戸 道 明	
10	化学・生物コース長	南 淳	
11	総合メディアセンター長	佐 藤 淳	
12	保健センター長	本 橋 元	
13	教育研究技術支援センター長	瀬 川 透	
14	国際交流支援室長	金 帝 演	
15	教育改革F D委員会 委員長	森 永 隆 志	
16	教育点検委員会 委員長	戸 嶋 茂 郎	
17	情報広報室長	斎 藤 菜 摘	

No	職 名	氏 名	備考
18	事務部長	田 中 基 久	
19	総務課長	鈴 木 浩 幸	
20	学生課長	金 子 誠	
21	総務課課長補佐（総務担当）	庄 司 由 紀 彦	
22	総務課課長補佐（財務・施設担当）	大 山 元	
23	学生課課長補佐（兼 学生係長）	中 島 直 樹	
24	総務課企画・連携係長	成 田 敦 史	
25	総務課企画・連携係 主任	上 野 理 子	

令和3年度「鶴岡高専運営協議会」席次表

会 場： 8号館3階(講義室1・2)



令和4年2月17日
鶴岡高専運営協議会

資料 1-2

【委員用】 評価・コメント等 記入用紙

資料 2-1

令和4年2月17日
鶴岡高专 運営協議会

委員氏名

「外部評価」欄

- 5: 期待を上回って実施している
- 4: 十分に実施している
- 3: 実施している
- 2: 十分には実施していない
- 1: 実施していない

協議会での活動状況報告及び資料等に基づき、「外部評価」欄に**5段階評価**と、必要に応じて**コメントの記載**をお願いいたします。なお、自己評価平均点が妥当であれば、空欄で構いません。

◆2月28日(月)までにご提出ください◆

基準	点検項目	報告者	各観点の自己評価平均点	外部評価	委員コメント
基準1	教育の内部質保証システム (3つの方針[DP,OP,AP]に関する項目、及び校内PDCAサイクルに関する項目を含む)に関すること	教務主事	4		
基準2	教育組織及び教員・教育支援者等に関すること	教務主事	4		
基準3	学習環境及び学生支援等に関すること	学生主事 寮務主事	4		
基準4	財務基盤及び管理運営に関すること	事務部長	4		
基準5	準学士課程の教育課程・教育方法に関すること	教務主事	4		
基準6	準学士課程の学生の受入れに関すること				
基準7	準学士課程の学習・教育の成果に関すること				
基準8	専攻科課程の教育活動の状況に関すること	専攻科長	4		
選択的評価事項 A	研究活動の状況	地域連携センター長	5		
選択的評価事項 B	地域貢献活動の状況				

「自己評価」欄

- 5: 期待を上回って実施している
- 4: 十分に実施している
- 3: 実施している
- 2: 十分には実施していない
- 1: 実施していない

- ・・・完了しているもの
- △・・・作成中または実施中のもの
- ・・・未整備のもの

基準	点検項目	現状確認 (令和3年度末 ※見込含む)	自己評価	次年度改善・見直し予定事項
基準1 教育の内部保証システム				
1-1	教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み(以下「内部保証システム」という。)が整備され、機能していること。			
1-1-①	教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。	○ 自己点検・評価基本方針の策定 ○ 自己点検・評価委員会の設置 ○ 中期計画・年度計画に基づく点検項目の設定	4	
1-1-②	内部保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	○ 自己点検・評価実施計画の策定 ○ データや資料の収集・保管と点検・評価 ○ 本校Webサイトでの公表	4	
1-1-③	学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。	○ 会議、委員会での意聴取 ○ 学生アンケートの実施 ○ 年度計画に基づく点検項目への反映	4	
1-1-④	自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。	△ 自己点検・評価実施計画に基づく定期点検・評価の実施	3	
1-2	準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)(以下「三つの方針」という。)が学校の目的を踏まえて定められていること。			
1-2-①	準学士課程の卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	○ ディプロマ・ポリシーを定めている	4	
1-2-②	準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)が、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	○ ディプロマ・ポリシーとの整合性を持って、カリキュラム・ポリシーを定めている	4	
1-2-③	準学士課程の入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	○ アドミッション・ポリシーを定めている	4	
1-2-④	専攻科課程の修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	○ 専攻科ディプロマ・ポリシーを定めている	4	
1-2-⑤	専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)が、修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	○ 専攻科ディプロマ・ポリシーとの整合性を持ってカリキュラム・ポリシーを定めている	4	
1-2-⑥	専攻科課程の入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	○ 専攻科アドミッション・ポリシーを定めている	4	
1-3	学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。			
1-3-①	学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。	○ 自己点検・評価実施計画に基づく定期点検・評価に基づいて実施	4	
基準2 教育組織及び教員・教育支援者等				
2-1	学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。			
2-1-①	学科の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。	○ DPと整合性が取れており適切である	4	
2-1-②	専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。	○ DPと整合性が取れており適切である	4	
2-1-③	教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。	○ 運営会議、教務委員会において教育活動等に係る重要事項を審議	4	
2-2	教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。			
2-2-①	学校の目的を達成するために、準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。	○ 一般科目、専門科目担当教員を適切に配置している	4	
2-2-②	学校の目的を達成するために、専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。	○ 適切な研究実績・研究能力を有する専攻科担当教員を適切に配置している	4	
2-2-③	学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため、教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。	○ 教員の年齢構成等も考慮して措置している	4	
2-3	全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。			
2-3-①	全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われており、その結果が活用されているか。	○ 教員業績評価委員会が人事管理データベースに基づいて評価を行っている ○ 校長による面談を実施している	4	
2-3-②	教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用されているか。	○ 教員選考委員会が教員選考規定、内部昇任規定、教員選考基準に基づいて実施している	4	

基準	点検項目	現状確認 (令和3年度末 ※見込含む)	自己評価	次年度改善・見直し予定事項
2-4	教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。			
2-4-①	授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究(ファカルティ・ディベロップメント)が、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業アンケートの実施と結果を受けた授業改善 <ul style="list-style-type: none"> → アンケート結果個別可視化シートの提示と授業改善状況の点検(年度末「教員教育評価アンケート」)実施 → 「教育改善に関わる学生アンケート」の実施による授業改善状況に対する学生評価の集約 ○ 相互授業参観と相互アドバイスの授業改善 <ul style="list-style-type: none"> → 授業参観報告書を活用した意見・アドバイス交換 ○ 教務、学生支援窓口との連携による研修会 <ul style="list-style-type: none"> → 研修資料や映像等の学内アップによる情報共有の徹底 → 昨年度の認証評価対応のフォローアップ研修 ○ 新任教員への指導研修 <ul style="list-style-type: none"> → 個別に指導教員を配置する指導体制により実施 	4	
2-4-②	学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事務部では、事務部長を筆頭として、総務課及び学生課の2課を設置し、それぞれに役割分担して管理運営体制を整えている。 また、技術職員については、教育研究技術支援センターを設置して、技術部長を筆頭として技術職員を3班に編成し、それぞれに役割分担して教育支援業務を行っている。 	4	
2-4-③	教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事務職員、技術系職員対象の外部研修等へ積極的に参加させている。 また、必要な研修を開催し積極的に参加させている。 	4	
基準3	学習環境及び学生支援等			
3-1	学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。また、ICT環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。			
3-1-①	学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の教育研究組織運営及び教育課程実現のために、高等専門学校設置基準を満たした校地(面積110,243㎡)、校舎(教室・研究室・実験室・演習室・L教室)、機械実習工場、熟練実習室、総合メディアセンター、旧総合情報センター、運動場、体育館等の各種施設(延べ面積31,441㎡)が整備されている。それぞれの施設には、教育・研究に必要な設備が設置されているほか、運営費交付金による教育研究設備維持管理費により各コース・基盤教育グループの中心となる設備の整備をしている。 各施設には不動産供用責任者、不動産供用補助者が置かれ、安全面を含めた管理を行い、安全衛生・環境保全委員会では、月1回作業環境チェックシートによる実験室、研究室の作業環境点検のチェックを行っている。 教室、演習室及び実験室等の過当たりの利用率は、一般教室(過当たりの利用時間/週クラス毎授業時数)については50%強である。特別教室、演習室、実験室等(過当たりの利用時間/29時間(1クラスあたり週平均授業時間数))についても、50%強の利用率である。 また、体育館や運動場は、正規の授業以外の課外活動にも有効に活用されている。 バリアフリー化については、建物の数箇所への入り口にスロープを設けるなどの配慮をしているほか、エレベーターを5か所設置し、車椅子での移動を可能としている。また、各トイレ内に車椅子での利用も可能な多目的トイレを設けている。 	4	
3-1-②	教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合メディアセンターでは、ネットワークに接続するすべてのパソコンユーザーにアンチウイルスソフトの導入を義務付けている。情報セキュリティ管理委員会、情報セキュリティ推進委員会等を設けてセキュリティ管理及び情報ネットワーク管理と運営を行っている。総合メディアセンター情報メディア部門員は、情報ネットワークシステムの問題点や課題について話し合うとともに、学生・教職員から寄せられた要望に応えるべく検討を重ねている。また、学生へのネットワーク利用におけるモラルやエチケットの啓蒙活動を行っている。情報技術専門部員は、学生・教職員に情報技術を提供すると共に、ネットワークに関する相談に応じている。 センター内演習室のパソコンは、昼休みや放課後には学生に開放され、レポート作成、情報検索等に活用されている。また、校内には無線LAN環境が整備され、講義等に活用されている。 その他、長岡技術科学大学・高等専門学校統合図書館システムのウェブページから本校総合メディアセンターの蔵書を検索、及び貸出状況を確認することも可能である。 毎年実施している教育改善アンケートにおいても、総合メディアセンターの設備は更新されており、利用満足度は満足が不満を上回っている。 以上のように、教育内容、方法や学生のニーズを満たすICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されている。 	4	
3-1-③	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 蔵書は、工学分野、自然科学分野が中心となっているが、総記、哲学、歴史、社会科学、産業、芸術、語学、文学を網羅している。 学生用図書費は、コース及びグループ別に予算配分し、教員推薦図書として整備しているほか、学生の学習・研究を支援する図書や雑誌を計画的・系統的に選定し、購入している。加えて、クラス単位での学生が選書する希望図書等の充実も図っている。 館内の図書は日本十進分類法に従い、雑誌は外国雑誌、国内雑誌、寄贈雑誌に分類し、分野別に系統的に配架し、学生、教職員、学外者に有効に活用されている。また、郷土資料、資格試験や就活関連、参考図書等の図書コーナーを設置して、学生が利用しやすいように配慮している。 視聴覚資料は、授業での利用が可能な著作権処理済の資料を購入しており、授業や自学自習に活用されている。 図書館は、平日夜間20時まで、土曜日も開館し、学生、教職員へ開放している。(令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、平日夜間19時までとし、学外者への開放は行っていない。) さらに、校内からオンラインで蔵書検索が行え、また、本校以外の図書館蔵書検索や電子ジャーナル・データベースのオンライン検索サービスにより、必要とする論文等の目次データやフルテキストにアクセス可能な環境を整えている。 以上により、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されている。 	4	
3-2	教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。			
3-2-①	履修等に関するガイダンスを実施しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育を実施するうえで必要なガイダンスを実施している。 	4	
3-2-②	学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生の自主的学習について、低学年向けに授業内容を補完する学習支援室の整備、担任制・指導教員制やオフィスアワーを設け支援体制を整備している。 ○ 定期的な学生会・寮生会との懇談を行っている。 	4	

基準	点検項目	現状確認 (令和3年度末 ※見込含む)	自己評価	次年度改善・見直し予定事項
3-2-③	特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 留学生支援は、留学生対応の教務主事補、寮務主事補、国際交流支援室が一体となって、留学生指導教員・チューターによる支援を行っている。 ○ 編入学生支援は、編入学生ガイダンス及び担任・指導教員、社会人学生は指導教員による支援を行っている(令和3年度においては社会人学生は在籍なし)。 ○ 特別な支援が必要と判断される学生に対しては、保健センターを中心に教務主事・学生主事・担任・科目担当教員等で支援体制(支援チーム等)を構築し組織的に支援を行っている。 	4	
3-2-④	学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生生活は、学生主事を中心に生活指導・経済支援を行っている。また、保健センター内に相談室を設置し、担任教員・科目担当教員や看護師のほか、精神科医やカウンセラー、特別支援教育士、教育相談員を配置し対応している。 ○ いじめ等は年4回のいじめアンケートの実施、担任による面談などによりいじめの防止、早期発見に取り組み、いじめ防止等対策委員会において対応している。 ○ ハラスメント等は、「ハラスメントの防止等に関する規定」に基づき設置するハラスメント防止対策委員会において対応している。 ○ 学校保健計画に基づき、定期健康診断を実施している。 ○ 経済面での支援は、学生支援機構の奨学金制度、民間団体による各種奨学金制度、高専機構規則に基づく授業料免除や本校独自の「鶴岡高専創立50周年記念国際交流・学生支援金給付制度」により対応している。 	4	
3-2-⑤	就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域連携センター人材育成部門(キャリア教育とCO-OP教育を推進)と進路指導委員会が連携しながら体制を整備し、取組みを推進している。 ○ 模擬面接、就職関係講演会、卒業生の講演会、保護者懇談会における進路説明、学校内における独自企業説明会実施など、進学・就職に関する様々な取組みを実施している。 	4	
3-2-⑥	学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全クラブに顧問教員を配置し、学生会や寮生会にも担当教員を配置し、支援体制を整備し、機能している。また、その他の活動(正式なクラブ以外の競技、各種コンテスト等)についても、担当教員を配置し、教員の協力・支援が得られる体制のもと適切に対応がなされている。 ○ 大会運営やクラブの規模が大きいななど、業務過多となるクラブには協力教員を配置し、支援体制を整備している。 ○ 課外活動全般に対する「課外活動指導教員・課外活動安全管理指導業務の手引き」を定め、活動に対する安全管理も徹底されている。また、新型コロナウイルスの感染状況に合わせた対応を適宜定め、安全安心な活動のため支援体制を整備し、機能している。 	4	
3-2-⑦	学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生寮の生活マニュアル「寮生活のしおり」、また「鶴岡高専寮における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」を作成し、寮務主事補や担任教員・宿日直教員の助言等を受けながら、指導寮生を中心とした規律正しい有意義な共同生活が営まれており、教育寮として有効に機能している。感染症対策マニュアルは状況に応じて改変。 ○ 自習時間の設定や、指導寮生による学習会(1年生学習会)等の活動により勉学の場としても有効に機能している。 	4	
基準4 財務基盤及び管理運営				
4-1	学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。			
4-1-①	学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の経常的収入は、国から高専機構を通じて交付される運営費交付金のほかに、自己収入として学生からの諸納付金である授業料、入学検定料、入学料及び財産貸付料等の雑収入があり、例年、入学定員を確保しており諸納付金は確保されている。機構本部からの基盤的経費は毎年減少しているが、競争的資金を確保できるよう積極的に取り組んでいる。 	4	
4-1-②	学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各年度の予算に係る計画については、将来構想・戦略会議において予算配分方針を定め、その方針により策定され適正に配分しており、運営会議での審議を経て校長が決定し、教員会議、コース会議及びグループ会議で教員に周知している。 	4	
4-1-③	学校の目的を達成するため、教育研究活動(必要な施設・設備の整備を含む)に対しての資源配分を、学校として適切に行う体制を整備し、行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予算配分は、方針の明示が行われ、会議の議を経た上で決定されている。校長裁量による教育研究設備維持管理費は重点的に配分するなど、十分検討した上で決定し、適切な資源配分が行われている。施設・設備の整備については、施設・設備マネジメント委員会、将来構想・戦略会議で全学的な見地から審議し、概算要求等により高専機構本部に要求し予算の確保を図っている。 	4	
4-1-④	学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高専機構本部は、翌事業年度5月末日までに財務諸表を作成し、公表している。 ○ 本校における財務に関する会計監査は、直近では、平成28年度及び令和元年度に高専機構本部による内部監査・監事監査、平成30年度には監査法人による監査、を受けている。本校内部会計監査規程により、毎会計年度1回定期的に監査を実施することとしており、また、平成20年度から3年に2回程度の割合で、高専間相互監査を受け、内部会計監査規程により、毎会計年度1回定期的に監査を実施することとしており会計監査等は適正に行われている。 	5	

基準	点検項目	現状確認 (令和3年度末 ※見込含む)	自己評価	次年度改善・見直し予定事項
4-2	学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。			
4-2-①	管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	<p>○ 本校の管理運営の諸規程は、「鶴岡工業高等専門学校内部組織規程」を基本に、各種委員会等規程を制定、継続的に改善を加えて整備している。</p> <p>なお、新規制定又は改正が必要になった規程は、運営会議で審議し、校長決裁を経て、施行に付される。</p> <p>管理運営に関しては、副校長(総務担当)、副校長(教務担当)(教務主事兼務)、副校長(学生担当)(学生主事兼務)、副校長(寮務担当)(寮務主事兼務)、副校長(専攻科担当)(専攻科長兼務)、副校長(研究・地域連携担当)を配置し、それぞれ委員会及びセンター関連業務を所掌しており、各委員会等の主な所掌内容は規程により明確に規定している。また、各委員会等の構成メンバーは、令和3年度校務分掌表のとおりである。各委員会とも、必ず事務職員が委員または幹事として参画している。</p> <p>事務部では、事務部長を筆頭として、総務課・学生課の2課を設置し、それぞれに役割分担して管理運営体制を整えている。</p> <p>また、技術職員については、教育研究技術支援センターを設置して、技術長を筆頭として、技術職員による教育支援業務等を行っている。</p> <p>いずれの委員会も定期的あるいは必要に応じて開催されている諸規定を整備し、各組織が効果的に活動している。</p>	5	
4-2-②	危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	<p>○ 危機管理については、危機管理規程を整備し、リスク管理室を中心とした危機管理体制を確立しており、危機事象発生時には、危機対策本部を設置し、機構本部と連携して危機対応にあたる体制となっている。</p> <p>全教職員には、危機管理マニュアルを配布して危機事象発生時の対応を周知すると共に、防災訓練や新型コロナウイルス、インフルエンザ対策の際にはリスク管理室会議を開催し、危機管理体制の確認及び見直しを行っている。また、危機事象発生時には、緊急時に対応するために教職員の組織ごとに緊急連絡網を整備しているほか、学生・教職員の安否情報を迅速に集約するための安否確認システム(さくら連絡網)を導入した。</p> <p>なお、災害備蓄品については、機構本部から配備された毛布や簡易トイレ、飲料水等を備蓄し危機事象に備えているが、災害時に不足する場合は、東北地区高専間で備蓄品を支援し合うこととしている。</p> <p>年1回全本科生を対象とした防災避難訓練を実施している。学寮においては年2回全寮生を対象に防災訓練を実施している。</p>	4	
4-2-③	外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	<p>○ 地域連携センターが中心となり、文部科学省をはじめとする各省市、日本学術振興会及びその他機関が公募する各種競争的資金に積極的に応募している。</p> <p>科学研究費助成事業の採択件数にあっては、説明会(科研究費セミナー)の早期開催や応募時における教員相互によるチェックを行うことで調書の質的向上を図り、採択件数はここ数年堅調に推移している。</p> <p>また、令和元年から、第1ブロックの9高専合同で主に若手教員を対象とした「科研究費ワークショップ」を実施している。</p> <p>受け入れた外部資金の直接経費は学術研究と教育の推進に、また間接経費は本校の管理運営に有効に活用されている。</p>	5	
4-2-④	外部の教育資源を積極的に活用しているか。	<p>○ 地域の高等教育機関同士の連携協定として、県内の高等教育機関が単位互換に関する包括協定書を締結している。地域の企業経営者を客員教授に任命し、専攻科の授業で、特別講義を実施している。準学士課程の4年生と専攻科課程はインターンシップとして夏季休業期間の1～2週間企業で現場体験を経験している。また、3年から5年生の夏季・春季休業(夏季は中止、春季は実施予定)期間中には、企業において実施する長期就業体験学習「GO-OP教育」を行っている。</p>	4	
4-2-⑤	管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組(スタッフ・ディベロップメント)が組織的に行われているか。	<p>○ スタッフ・ディベロップメントの一環として事務職員及び技術職員を外部研修にも積極的に参加させている。</p>	4	
4-3	学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。			
4-3-①	学校における教育研究活動等の状況についての情報(学校教育法施行規則第172条の2に規定される事項を含む。)が公表されているか。	<p>○ 毎年、組織や学生の状況のデータを掲載した「学校総覧」、教員の教育研究分野や略歴などを紹介する「研究者紹介(研究シーズ集)」、学生や教職員、学寮などの活動を広く紹介する広報誌「鶴岡高専だより」を発行し、関係機関へ配布するとともに、電子データをホームページに掲載して、広く情報発信を行っている。各種行事については、積極的に報道機関へ取材依頼を行い、マスメディアを通じた情報発信にも力を入れるとともに、活動状況は逐次ホームページに掲載している。</p> <p>学校教育法施行規則第172条の2に規定される事項については、本校ホームページ上の「学校案内-教育情報の公表」にて公表し、毎年データの更新を行っている。一部の事項については、「学校総覧」に掲載の内容をホームページ上に公表している。</p>	4	
基準5	準学士課程の教育課程・教育方法			
5-1	準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。			
5-1-①	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	<p>○ 授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されている。</p>	4	
5-1-②	教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。	<p>○ 授業科目の内容については学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されている。</p>	4	
5-1-③	創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。	<p>○ 創造力を育む教育方法の工夫が図られている。</p>	4	
5-2	準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。			
5-2-①	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	<p>○ バランスは適切であり適切な学習指導上の工夫がなされている。</p>	4	
5-2-②	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。	<p>○ OPおよびモデルコアカリキュラムを踏まえて適切に設定した項目に基づくシラバスを作成し活用している</p>	4	

基準	点検項目	現状確認（令和3年度末 ※見込含む）	自己評価	次年度改善・見直し予定事項
5-3	準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。			
5-3-①	成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	○ GPIに基づいて成績評価・単位認定基準を策定し適切に実施している。 ○ 学生便覧等により学生周知 ○ シラバスに記載して学生に説明	4	
5-3-②	卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。	○ DPIに基づく卒業判定基準を策定し卒業認定を行っている。 ○ 学生便覧等により学生周知	4	
基準6	準学士課程の学生の受入れ			
6-1	入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。			
6-1-①	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	○ 入試委員会においてAPIに沿った適切な入試選抜方針を作成し適切に実施している。	4	
6-1-②	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。	○ 自己点検・評価実施計画に基づく定期点検・評価 ○ 入試分析を行い推薦選抜試験の口頭試問の見直しを行った	4	
6-1-③	実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	△ 入学定員を満たすよう2次募集等を実施する ○ 推薦選抜・学力選抜に加え、帰国子女特別推薦選抜を導入している	4	
基準7	準学士課程の学習・教育の成果			
7-1	卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育の成果が認められること。			
7-1-①	成績評価・卒業認定の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。	○ 卒業判定会議にてDPIに沿った学習・教育の成果を確認している	4	
7-1-②	達成状況に関する学生・卒業生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。	○ 学生・卒業生・進路先関係者等へのアンケート実施している ○ アンケート結果から学習・教育の成果等を確認している	4	
7-1-③	就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	○ 就職及び大学編入学状況から学習・教育の成果が認められる	4	
基準8	専攻科課程の教育活動の状況			
8-1	専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。			
8-1-①	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	○ 平成27年度に大学改革支援・学位授与機構から特例適用専攻科として認定されており、その際に、カリキュラムポリシーに基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されていることが確認されている。	4	
8-1-②	準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。	○ 平成27年度に大学改革支援・学位授与機構から特例適用専攻科として認定されており、その際に、教育課程は準学士課程の教育との連携及び当該教育からの発展等を考慮したものであることが確認されている。	4	
8-1-③	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	○ 授業形態は、一般科目とコース専門科目および共通専門科目がバランスよく配置されている。開講科目の講義、演習、実験実習はそれぞれのカリキュラムポリシーに適合した科目が適切に配置されている。 ○ 企業技術者、会社経営者、行政からの講師、大学教員などを継続的に招聘し、分野横断的な技術者教育を実施している。 ○ 企業でのインターンシップを必修科目とし、企業現場での技術者教育を実施している。	4	
8-1-④	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	○ 広い視野を持ち、多様な価値観を理解できる能力を育成するため、各コース共通として「日本学特論」、「技術者倫理」、「総合実践英語」などの一般科目を編成している。 ○ 自ら考え計画し、能力を総合的に発揮して問題を解決できる能力を育成するため、「専攻科研究Ⅰ」、「専攻科研究Ⅱ」を編成し、その分野で優れた実績を有する教員のもと、1人1テーマの取り組みで指導している。	4	
8-1-⑤	成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	○ 「鶴岡工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」を定めて成績評価・単位認定を適切に実施している。 ○ 新入生ガイダンス、シラバスや学生便覧等により、成績評価・単位認定について学生に周知している。 ○ 専攻科委員会において、成績評価・単位認定している。	4	
8-1-⑥	修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。	○ 「鶴岡工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」を定めて修了認定を適切に実施している。 ○ 専攻科ガイダンスや学生便覧等により、修了認定について学生に周知している。 ○ 専攻科委員会において修了認定している。	4	

基準	点検項目	現状確認（令和3年度末 ※見込含む）	自己評価	次年度改善・見直し予定事項
8-2	専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。			
8-2-①	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	○ アドミッションポリシーに基づいた適切な専攻科入学選抜が実施されている。 ○ 推薦選抜、学力選抜、社会人推薦選抜やアドミッション・オフィス(AO)選抜を整備しているか、適切に実施している。	4	
8-2-②	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学選抜の改善に役立てているか。	○ 自己点検評価の基本方針、PDCAサイクルに基づいて検証・改善の取組・体制を整えている。 △ 入学者がアドミッション・ポリシーに適合しているか検証するためのアンケートを実施する予定である。	3	
8-2-③	実入学数、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学数との関係の適正化が図られているか。	○ 令和3年度入学者の充足率は1.31である。過去5年間の平均充足率は1.27であり、入学者は大幅に超過しておらず、適正な範囲に収まっている。また、入学選抜方法の改善を図るための体制も整備している。	4	
8-3	修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。			
8-3-①	成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	○ ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果を把握・評価するため、「鶴岡工業高等専門学校専攻科委員会規程」を整備して実施しており、成績評価ならびに修了認定が適切に実施されている。	4	
8-3-②	達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	△ 「専攻科修了時アンケート」、「専攻科修了生アンケート」、「卒業（修了）生就業先アンケート」などの各種アンケートを実施の予定である。平成30年度の就職先アンケートより、修了生のすぐれている点などの結果からディプロマポリシーに沿った成果が身につけていると判断される。	3	
8-3-③	就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	○ 令和3年度の就職率ならびに進学率は100%である。就職先は育成する技術者像にふさわしい製造業等となり、進学先は専攻の分野に関連した大学の研究科等となっている。	4	
8-3-④	修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	○ 令和2年度の修了生の学位取得率は100%である。専門知識を体系的に修得し、多様な価値観と幅広い教養を身に付け総合的な判断力が養われていることが認められる。	4	
選択的評価事項A 研究活動の状況				
A-1	高等専門学校の研究活動の目的に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。			
A-1-①	研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	○ 地域連携センター規程を整備し、その中で、 ・地域企業等との技術・研究交流の推進 ・全国高専の研究拠点として、高専の持つ「ものづくり技術」を駆使して先端科学の社会実装を担うこと が明記されている。 また、あらたに鶴岡工業高等専門学校における研究活動の目的と基本方針・活動方針等についての規程を円滑に運営が進められるようR3年4月に改定した。	4	
A-1-②	研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	○ 副校長（研究・地域連携担当）の下に地域連携センターが組織され、同センター規程が整備されている。 センターの3つの部門のひとつ、地域連携部門の担当業務として、 ・企業等との共同研究や受託研究の促進支援 ・学術情報の提供や技術協力に関する事業 ・競争的資金の獲得支援 などが同センターの規程に明記され、支援体制の構築がなされている。	5	
A-1-③	研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。	○ 研究者の専門分野が網羅されている科研費に関しては、地域連携センターのK-ARC部門長が中心となって科研費講習会、科研費ワークショップを実施している。コロナ禍でいつでも各専門分野の採択者からのアドバイスが聞ける動画コンテンツをフルに活用した取り組みも実施。教員一人当たりの獲得金額に関しては第1ブロックの高専9校中、第1位を記録した。全国の高専と比較しても研究活動は活発であり、外部資金獲得額はトップクラスを維持している。	5	
A-1-④	研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	○ 地域連携・地域貢献活動を担う地域連携センターに3つの部門を設置し、それぞれに部門長と部門員を配置している。部門長は各担当事業に責任を持ち、センター会議や部門会議の席上で問題点の共有を行うことで、次年度に向けた改善を図る体制も整っている。個別の教員に対しては、研究奨励教員制度を導入し、校務負担を軽減、研究を促進させることで論文投稿、外部資金取得（科研費など）や学位取得の手助けを行っている。	5	
選択的評価事項B 地域貢献活動の状況				
B-1	高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。			
B-1-①	地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が定められているか。	○ 地域連携・地域貢献活動の拠点として「地域連携センター」を設置し、同センター規程を整備して、目的等を定めている。また、あらたに鶴岡工業高等専門学校における地域貢献活動の目的と基本方針・活動方針等についての規程を円滑に運営が進められるようR3年4月に改定した。	4	
B-1-②	地域貢献活動等の目的に照らして、活動が計画的に実施されているか。	○ 地域連携センターに3つの部門「地域連携」「人材育成」「K-ARC」を設置し、それぞれに人員を配置している。その上で、4月に開催する同センター会議で当該年度の実施計画を策定して担当者を決め、その計画に沿って各種事業を実施している。また、R3年度より定期的(2.3か月に1回)にセンター会議を実施し、活動状況の経過についても共有している。	5	
B-1-③	地域貢献活動等の実績や活動参加者の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。	○ 主催（参加）事業の大半でアンケートを実施し、参加者の満足度や意見等の聴取に努めており、その結果を次回（次年度）の実施に活かしている。 ○ 定期的に開催するセンター会議にて、活動状況ならびに各教員の活動記録についても共有している。R3年度の半期にて、R2年度一年間と比較して半数以上の活動結果が得られており、また半期で目標値の半分を上回っている。	5	
B-1-④	地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	○ 地域連携・地域貢献活動を担う地域連携センターに3つの部門を設置し、それぞれに部門長と部門員を配置している。部門長は各担当事業に責任を持ち、センター会議や部門会議の席上で問題点の共有を行うことで、次年度に向けた改善を図る体制も整っている。またセンター全体でも定期的(2.3か月に1回)に会議を開催し、情報共有をはかっている。	5	

令和3年度 運営協議会 【学校運営の概要】

鶴岡工業高等専門学校

校長 森 政之

実施日： 令和4年2月17日(木)
場 所： 鶴岡高専 8号館3階

1

目 次



- I 学校運営の方針
 - 1 校訓・基本教育目標
 - 2 校長所信

- II 令和3年度の具体的活動
 - 1 教育活動
 - 2 研究活動
 - 3 地域連携活動
 - 4 学生の活躍
 - 5 学生の確保・進路

■ III 校長としての所感

2

I-1 校訓・基本教育目標



- 校訓
自学自習
理魂工才

- 基本教育目標
 1. 豊かな人間性と広い視野を持ち、社会人としての倫理を身につける
 2. あらゆる学習を通じて思考力を鍛え、創造力に富んだ技術者になる
 3. 専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う
 4. 意思伝達及び相互理解のため、十分なコミュニケーション力を養う

3

I-2 学校運営の方針



鶴岡高専新校長 所信表明

令和3年5月
森 政之

10

4



1. 学校運営の基本方針

- 学生を中心とした学校運営を行う。
- 世界水準の学習環境の構築を目指す。
- 実践的な教育研究、地域連携を通じ技術革新を牽引する。

11



2. 実現のための方策

- ①学生を中心とした学校運営
- 学習者の視点に立った教育課程等の実施、自学自習を支える取組の推進。
 - 学びについて学生の声を聴く場の確保
 - ロボコン、プロコン、ディーコン(DCON)などの大会への学生参加や本校主導の高専生サミットを重視

12



②世界水準の学習環境の構築

- 学習環境改善への資源配分を最優先しつつ、環境を高度化、オープン化。
- 最先端の専門知識や手法を、学生と教職員が共に学び合う環境を創造。
- 海外の協定校との合同授業、研究発表を奨励し英語での議論を日常化。

13



③実践的な教育研究、地域連携

- 「ものづくり」のための工学の基礎を実験実習を通じ全員が身につける。
- 最先端研究や社会実装に果敢に取り組む教職員からの理論と実践の伝授。
- 鶴岡高専技術振興会(会員126社)(R3.5現在)など地域の企業群や高専OB・OG組織と連携した現場体験やフィールドワークの推進。

14

Ⅱ-1 教育活動

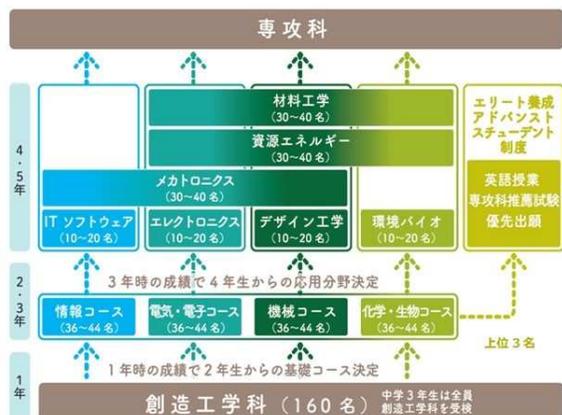


本校では、地域からの要請による産業構造の高度化に対応できる
融合複合技術者の育成を目指し学科の大括り化による再編を行った。

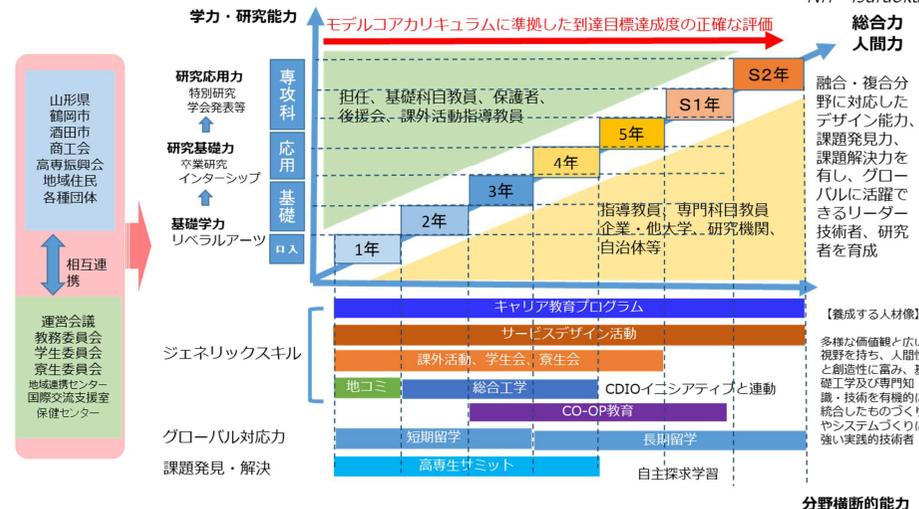
<4・5年次>
応用分野で課題発見・
解決能力など実践力を
育成

<2・3年次>
基本コースで技術者の
素養を育成

<1年次>
混合学級とし4学級に
分けて運営



Ⅱ-1 教育活動



Ⅱ-1 教育活動



- ICTレスキュー隊の創設(R3.9)及び、学生支援活動の実践(ICT何でも質問サイト、説明会)
- 新たな部活動(AMデザイン部)のPR活動及びCAD実演会(R4.1))



Ⅱ-1 教育活動



- 放課後レクチャーの創設(R3.9)及び、全教員持回りでの講義の実施(来年度以降も継続)



日時	講師	演題	日時	講師	演題
21/10/08	山田充昭	鶴岡高専 開校秘話	21/12/10	白砂綱和	Bueno Camino よい旅を — 世界を旅する・毎日を旅する—
21/10/15	森 政之	「学習環境」を科学する	21/12/17	上松和弘	円周率の話(仮題)
21/10/22	佐藤 司	漂着ごみを無くするために私達ができる事	22/01/14	内山 潔	酸化物が拓く近未来社会
21/11/19	渡部誠二	音をあやつる	22/01/28	南 淳	なぜ生物は有性生殖するのか？

“国際的に活躍できる技術者の育成”

- **オンライン交流**
シンガポール、タイ、メキシコ
- **短期/中長期留学〈派遣〉**
シンガポール、ニュージーランド、タイ、台湾、ベトナム、フランス
- **トビタテ！留学JAPAN〈派遣〉**
- **短期/中長期留学生〈受入〉**
シンガポール、台湾、フランス、フィンランド、南米
- **海外教育機関との学術交流協定締結**
- **昼休みラウンジ・英会話レッスン**
昼休みを利用し、ラウンジで外国人講師とフリートーク
- **オンライン英会話〈夏季・冬季〉**
ビデオ通話による外国人講師との英会話レッスン
- **専門分野での英語力強化**
専攻科研究の英文要旨、英語プレゼン、英語での専門授業
- **国際学会等での口頭発表**



昼休みラウンジ・英会話レッスン



オンライン英会話受講中の学生

NIT - Tsuruoka

短期

シンガポール

奨学金
3~10万円

春季休業中
全学年対象：20名程度
費用：約25万円

協定校で2週間の短期留学。
英語と他民族文化を体感。
現地学生とも仲良くなる。

短期

ニュージーランド

奨学金
3~13万円

春季休業中
全学年対象：20名程度
費用：約40万円

協定校で2週間の技術英語実習、
または現地語学校で世界中の
学生と英語研修。
現地学生と交流。
宿泊はホームステイ。

安全に海外渡航
が可能となり次第、
すぐ留学再開でき
るよう万全の準備
を整えています！

中長期

シンガポール
ニュージーランド
ベトナム・タイ・台湾

奨学金
12~20万円

夏季・春季休業中
4・5年生、専攻科対象：12名
費用：15万円～

研究室に配属され、協定の大学で研究を行う。
32日以上滞りで2ヶ月分のJASSO奨学金受給。

他主幹 多様なプログラム

夏季・春季休業中
4・5年生、専攻科対象

機構本部、他高専、山形大学、
技科大等の留学制度も幅広く活用！

＜派遣＞短期、中長期ともに増加傾向



※2019年度春季留学の一部を中止した。

＜受入＞受入の定着化



短期：1ヶ月未満
中長期：1ヶ月以上

学生の国際マインドが定着し、双方向での交流を継続してきた

コロナ禍でも交流を継続するための
新たな取り組み

オンライン交流

〈シンガポール〉
シンガポール・ポリテクニク
ニース・ポリテクニク



オンライン ミニシンポジウム

〈タイ〉 ラジャマンガラ工科大学

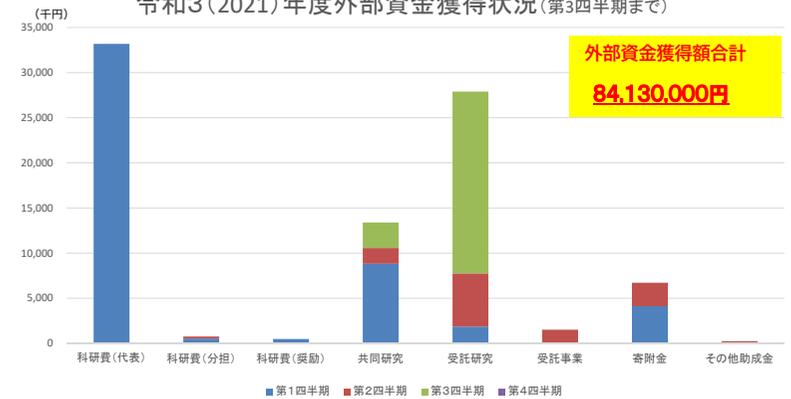


バーチャル異文化交流

〈メキシコ〉 グアナフアト大学

NIT - Tsuruoka

令和3(2021)年度外部資金獲得状況(第3四半期まで)



	科研究費(代表)		科研究費(分担)		科研究費(奨励)		共同研究		受託研究		受託事業		寄附金		その他助成金		合計
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
第1四半期	8	33,181	2	520	1	470	4	8,815	4	1,849	0	0	3	4,110	1	30	48,975
第2四半期	0	0	2	229	0	0	5	1,748	4	5,900	2	1,503	4	2,600	1	200	12,180
第3四半期	0	0	0	0	0	0	4	2,825	1	20,150	0	0	0	0	0	0	22,975
第4四半期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	8	33,181	4	749	1	470	13	13,388	9	27,899	2	1,503	7	6,710	2	230	84,130

※金額は直接経費+間接経費の計とする。

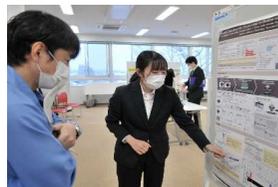
NIT - Tsuruoka

II-3 地域連携活動



NIT - Tsuruoka

- 「**地域企業参加型** - 専攻科生研究発表会」は、地域企業の方に専攻科の研究内容を認知してもらい、本校学生と地域企業の方が直接意見交換できる場として、2022年1月19日（水）に本校8号館を会場に開催しました。
- 研究発表では、学生がポスターセッション形式で自身の研究を説明。教員や企業の方からの質問にも丁寧に答えていました。
- 企業の方からも、学生の発表に対する意欲の高さや真剣さに高評価をいただきました。



21

II-3 地域連携活動



NIT - Tsuruoka

- 2021年2月1日に、山形県最上総合支庁と次の3点の充実を目的として連携協定を締結しました。

- 最上地域の産業振興
- 最上地域に所在する企業の技術革新と人材の確保
- 最上地域出身者の地元定着



山形東亜DKK(株)株式会社説明の様子

- 本協定に基づき、同8月7日（土）に「**最上地区企業見学ツアー**」を開催。

- 大型バスで最上地区の企業を巡るツアーで、参加学生は、企業見学しながら実家への帰省もできるといったイベント。



(株)ムトウ株式会社説明の様子

- 会社概要や求める人材等の会社説明、社内見学や本校OBの社員の方との懇談等が行われた。

- 訪問企業：株式会社ムトウ、山形東亜DKK株式会社、山形航空電子株式会社

- 参加学生：16名

22

II-3 地域連携活動



NIT - Tsuruoka

- 鶴岡青年会議所主催「**Tech For Tsuruoka 2021**」に出展

市民に向けて今必要とされるデジタル技術等の新技術を分かりやすく学び、体験することで理解を深めるイベントに、本校から情報コース・穴戸研究室が出展しました。

※新型コロナウイルス感染拡大に伴い、完全オンラインにて実施。



- 「**YouTube**」での動画配信による学校案内及び研究紹介

VR空間でのUFOキャッチャー操作を行うなど、ユニークな試みに各方面から好評を得ました。



Youtubeで配信された動画の1コマ

23

II-3 地域連携活動



NIT - Tsuruoka

- 第55回産業技術フォーラム** - 2021年12月7日（火）鶴岡駅前マリカ市民ホールにて、東京大学生産技術研究所 准教授川添善行氏をお招きし、『**建築のできること**』と題しご講演いただきました。



川添 善行氏

パネルディスカッションの様子

- 続くパネルディスカッションでは、地域で活躍する市民の方々にもご参加いただき『**学びの空間／歴史的な街の再生～鶴岡高専／鶴岡市をケースとして～**』をテーマに、人づくり・街づくりについて活発な議論が交わされました。



会場のマリカ市民ホール

24

Ⅱ－3 地域連携活動



NIT -Tsuruoka

- 仮設機材工業株式会社様（酒田市）から、鶴岡信用金庫様が発行する寄附型私募債を活用して、本校の「人財育成基金」へご寄附いただきました。
- 地域企業とのネットワークを緊密にし、地域に貢献できる人材の育成にこれからも力を入れるべく、寄附金については、教育環境の改善や学生の教育支援に使わせていただきます。



25

Ⅱ－3 地域連携活動



NIT -Tsuruoka

- 学生や教職員、来訪者が利用できる「学習・交流スペース」を開設。有志の方々が改修費用の一部をご寄附。
- 当該スペースは、従来就職関係資料スペースとして使っていたものを改装。アクティブラーニング、ミニセミナー及びレクチャー等に活用している。
- また、鶴岡高専技術振興会会員企業様への校長の個別訪問を通じ、**経済的に困窮する学生への奨学金**として「人財育成基金」に、約100万円をご寄附いただきました。



26

Ⅱ－4 学生の活躍



NIT -Tsuruoka

- AMデザイン部が、全国高等専門学校デザインコンペティション（デザコン）**2021 AMデザインフィールドで「優秀賞（全国高専連合会会長賞）」を受賞。**
- ロボット・プログラミングに続く高専生向け第3のコンテストと言われている大きな大会で、デザイン力を駆使しより良い生活空間の創出に資する作品を競い合う。
- 「衝撃を吸収せよ！」をテーマに3Dプリンタで製作した造形物がいかに落下衝撃を吸収するかで争われた。落下した鞆が弾むことに着想を得て本校の学生が設計した「まり鶴」が応募約20作品の中で「優秀賞」を受賞。



27

Ⅱ－4 学生の活躍



NIT -Tsuruoka

電気・電子コース4年生のチームが「**第2回セキュリティ・フォレンジック・ワークショップ**」のセキュリティ技術コンテストで初出場ながら**見事3位に入賞。**

このコンテストはサイバーセキュリティ技術の向上とセキュリティ人材の育成を目的に警察庁東北管区警察局が昨年から開催。サイバー犯罪等に対するセキュリティ技術の確かさを競うもの。

東北地域に所在する大学及び高専の学生らチームがエントリー。1月22日にオンライン方式で開催。ログを解析して発信情報や写真の撮影場所を割り出すなど、実際のサイバー犯罪捜査で用いられる技術で、次々と繰り出される難問に挑んだ。



28

Ⅱ-4 学生の活躍



- 2021年12月11日(土)に、日本原子力研究開発機構梶葉遠隔技術開発センターを会場に開催された**第6回廃炉創造ロボコン**に出場しました。
- 『廃炉ミッション！壁を除染せよ』をテーマに、原子炉建屋内高汚染エリアの立体除(高い位置の除染)。実際の現場を想定し、ケーブルが干渉する支柱の先に除染対象の高さ2.7mの壁を除染するロボットを製作。
- 結果は惜しくも予選敗退。



※廃炉創造ロボコン
長期に及ぶ東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業を想定し、課題と解決策を考え製作したロボットで競い合う。

NIT-Tsuruoka

Ⅱ-4 学生の活躍



全国高専体育大会成績

卓球	男子シングルス	3位
テニス	女子シングルス	3位

全国高専体育大会東北地区予選会

ソフトテニス	男子ダブルス	優勝
	女子ダブルス	2位
卓球	男子団体戦	優勝
	男子シングルス	優勝
	男子シングルス	2位
	男子ダブルス	優勝
柔道	男子66kg級	3位
	男子73kg級	3位
剣道	男子団体戦	優勝
	男子個人戦	3位
水泳	男子100m自由形	優勝
	男子200m自由形	優勝
バドミントン	男子シングルス	2位
	女子シングルス	優勝

令和3年度の全国高専体育大会は東北地区が担当地区となり、本校は、バレーボール競技と水泳競技を開催しました。

バレーボール：12月12日・13日
会場／朝日スポーツセンター
庄内町総合体育館
水泳：12月18日・19日
会場／秋田県立総合プール

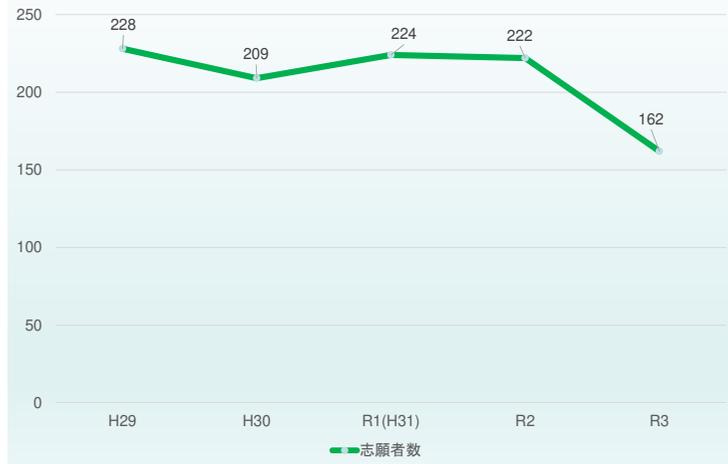


NIT-Tsuruoka

Ⅱ-5 学生の確保・進路



志願者数の推移(過去5年)



NIT-Tsuruoka

Ⅱ-5 学生の確保・進路



進学先一覧

大学名	第50回卒業生 (平成28年度)	第51回卒業生 (平成29年度)	第52回卒業生 (平成30年度)	第53回卒業生 (令和元年度)	第54回卒業生 (令和2年度)
長岡技術科学大学	14	11	16	8	12
豊橋技術科学大学	2	4	1	2	2
室蘭工業大学	2				1
東北大学		1	1		
山形大学			1	1	2
秋田大学	1	1	1		1
福島大学				1	
宇都宮大学		1			
群馬大学	1		1		
茨城大学	1	2			
千葉大学	2		1	2	1
埼玉大学	1				
信州大学					1
東京工業大学				1	
東京農工大学	1				
電気通信大学				1	
新潟大学	3	5	5	3	2
神戸大学					1
金沢大学				1	
京都工芸繊維大学				1	
島根大学		1	1		
公立千歳科学技术大学					1
鶴岡工業高等専門学校専攻科	23	17	16	24	21
都立産業技術高等専門学校専攻科	1				
新潟医療福祉大学	1				
新潟食料農業大学				1	
大東文化大学				1	
東京農業大学	1		1		
東京電機大学	1				
東京情報大学	1				
東海大学		1			
帝京大学					1
計	56	46	48	48	46

NIT-Tsuruoka

II-5 学生の確保・進路



NIT - Tsuruoka

・進学先一覧

大学院名	第13回修了生 (平成28年度)	第14回修了生 (平成29年度)	第15回修了生 (平成30年度)	第16回修了生 (令和元年度)	第17回修了生 (令和2年度)
北海道大学大学院		1	1	1	
山形大学大学院	2	1	1		
東北大学大学院	2		1	1	2
長岡技術科学大学大学院	1			1	1
東京工業大学大学院	1			1	
奈良先端科学技術大学院大学		1	1		
北陸先端科学技術大学院大学	1	1			
筑波大学大学院			1		1
宇都宮大学大学院	1				
首都大学東京大学院	1				
計	9	4	5	4	4

33

就職内定先の一例 (R4.1月現在)



NIT - Tsuruoka

県外

トヨタ自動車東日本
アマゾンジャパン合同会社
JR東日本メカトロサービス
キリンビール
サントリーホールディングス
JX金属
三菱ケミカル
アイリスオーヤマ
日立ビルシステム
東日本旅客鉄道
パナソニックシステムソリューションズジャパン
東日本高速道路
浜松ホトニクス
第一三共ケミカルファーマ
日本ゼオン川崎工場

県内

ヨロズエンジニアリング
東北エプソン
オリエンタルモーター
東北東ソー
東和薬品
JVCケンウッド山形
アライドマテリアル
東北電機鉄工
水澤化学工業
TDK庄内
シンクロン鶴岡工場
日新製薬
マーレエンジンコンポーネンツジャパン
ASEジャパン
日情システムソリューションズ

34

III 校長としての所感



NIT - Tsuruoka

- ・ コロナ対応など危機管理については教職員一体となって効果的に取り組んでいる。
- ・ 研究活動、地域連携活動については、教員の間で温度差はあるものの全体としての活動量、水準は高い。学生の研究レベルも高い。
- ・ 教育活動については、休講頻度、教員間連携などに課題があり、今後、教職員一体となって学生のために改善を図りたい。
- ・ 志願者減少に大きな危機意識を持ち、現状を分析し戦略的に志願者増を図りたい。

35

令和3年度 運営協議会 ◆基準別対応状況 説明資料◆

独立行政法人国立高等専門学校機構
鶴岡工業高等専門学校



目次



- 基準1 教育の内部質保証システム 教務主事
 - 基準2 教育組織及び教員・教育支援者等 教務主事
 - 基準3 学習環境及び学生支援等 学生主事・寮務主事
 - 基準4 財務基盤及び管理運営 事務部長
 - 基準5 準学士課程の教育課程・教育方法 教務主事
 - 基準6 準学士課程の学生の受入れ 教務主事
 - 基準7 準学士課程の学習・教育の成果 教務主事
 - 基準8 専攻科課程の教育活動の状況 専攻科長
-
- 選択的評価事項A 研究活動の状況 地域連携センター長
 - 選択的評価事項B 地域貢献活動の状況 地域連携センター長

【基準1. 教育の内部質保証システム】

1-1

教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。

1-1-①

「鶴岡工業高等専門学校における自己点検評価の基本方針」に基づいて自己点検・評価を実施している。自己点検・評価委員会規定に定める委員が、自己点検・評価の基本方針に定める実施体制に基づき点検を行っている。

- ・鶴岡工業高等専門学校自己点検・評価委員会規程
- ・鶴岡工業高等専門学校における自己点検・評価に関する実施基本方針
- ・鶴岡工業高等専門学校の点検評価に係る教育の内部質保証に関する実施要項

※第百九条 大学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（次項において「教育研究等」という。）の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

学業成績評価に係る資料の保存

NIT - Tsuruoka
1-1-②

この内部 質保証システムに基づいた定期的な自己点検・評価を行うため、**根拠となるデータや資料の収集・蓄積**を実施している。保存する資料の内容について明確に規定している。

保存対象となるもの

講義、演習、実験・実習、
その他(単位追認、追認、学校以外における教育施設等における学修等)

これらの成績評価シート、保存答案、模範解答、提出物等を学年末に提出し、教育点検委員会が提出状況を確認する。

5

本校は、教育理念「**理魂工才**」「**自学自習**」を掲げ、優秀な技術者を卒業生として送り出すとともに、山形県庄内地区唯一の工科系高等教育機関として、地域社会への貢献に努めている。これを確実に実施しつつ本校の発展・向上を図るため、教育、研究、社会連携や管理運営の**継続的な点検評価及び改善**を行っている。

- ・大学評価・学位授与機構 機関別認証評価に基づく点検評価
- ・国立高等専門学校機構中期計画及び年度計画に基づく点検評価
- ・運営協議会による点検評価

毎年度の自己点検・評価の実施並びに結果に関する報告書を取りまとめ、本校公式Webサイトにて公表している。

6

学校構成員および学外関係者の意見の聴取

NIT - Tsuruoka
1-1-③

- 教員からの聴取
運営会議、教員会議、グループ会議、コース会議等
- 在校生からの聴取
「教育改善に関する学生アンケート」及び「学習時間・学修単位に関するアンケート」（毎年実施）
 - ◆ アンケート内容
 - ・シラバスの理解度 ・授業の満足度 ・授業アンケートを受けての改善状況
 - ・成績評価の妥当性 ・オフィスアワーの利用状況 ・試験・レポートの実施状況 等
 - ◆ 将来構想・戦略会議との懇談会
 - ・寮生会との懇談会
 - ・学生会との懇談会

その他、卒業生、卒業時や学外関係者（企業や有識者）を対象に、定期的にアンケートを実施。

7

教育システム改善PDCAサイクル

NIT - Tsuruoka
1-1-④

教育システム改善PDCAサイクルを構築し、学外からの評価を含め継続的に教育改善を実施。

- | | |
|-------|------------------------------------|
| P（計画） | 教務委員会、専攻科委員会、
入学試験委員会、教育改革FD委員会 |
| D（実行） | 教員団 |
| C（点検） | 教育点検委員会 |
| A（改善） | 教育改善委員会 |

8



準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下「三つの方針」という。）が学校の目的を踏まえて定められていること。

三つのポリシー

■ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

学生が身につけるべき資質・能力

■カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

教育課程編成、学修方法・学修課程・学修成果の評価の在り方

■アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

多様な能力を身につけてきた学生を求めため、入学者選抜の在り方を具体化



- (A) 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける。
- (B) 幅広い教養と技術者・研究者としての倫理を身につける。
- (C) 〇〇の基礎としての数学など自然科学の基礎学力を身につける。
- (D) 専門分野の知識と情報技術を身につける。
- (E) ものづくりに関する幅広い対応能力を身につける。
- (F) 論理的表現力と外国語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。
- (G) 〇〇分野を主とした幅広い知識と技術を活用して、実験・実習による実践力を身につける。

※〇〇：機械工学(M)、電気電子工学(E)、情報工学(I)、化学及び生物学(B)



(例)
1-2-②
機械コースでは、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程系統図に示しています。

機械工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育及び実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、創造性豊かな技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観を身につけた人材の育成を行います。

一般科目として人文社会（国語、歴史、地理、政治・経済）、外国語（英語等）、数学、自然科学（物理、化学、生物）、情報処理の基礎教育を行います。また機械の設計や開発を行う技術者となるために必要な基礎となる力学系（工業力学、材料力学）、材料系（材料学、材料化学）、熱・流体系（熱力学、水力学）、運動・制御系（機械力学、制御工学）といった機械工学の専門知識を身につけるカリキュラムを構築しています。特にものづくりのための、設計・製図（機械要素設計）、加工（生産加工学、精密加工学）の知識、そして、機械工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用するエンジニアリングデザイン能力習得に関する科目（機械設計製図、機械工学実験・実習）、グローバルエンジニア育成のためのコミュニケーション力習得に関する科目（アドバンステクノロジー、生産工学）、融合複合によるイノベーション人材の育成と起業家精神の涵養に関する科目（総合工学I~IV）、専門知識の定着と活用力を涵養させるため、全科目で学習プロセス重視の「学習者中心の授業」アクティブラーニング（グループワーク、ティーチング等）に関する科目を体系的に配置します。これらの課程をもとに、自ら課題を発見し解決する能力への発展を促す（卒業研究）ことで、次世代を担う技術者に必要な能力を身につけられるようになります。



- ・ 技術や科学に関心があり、社会に貢献する技術者、研究者への夢を抱いている人
- ・ 学習意欲が高く、数学、理科、国語、社会、英語の基礎力が備わっている人
- ・ 何事にも粘り強さと責任感を持って積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人
- ・ 「ものづくり」に対する専門的知識を身に付けて、将来、課題解決のために活動するリーダーとなることを志す人



1. 養成する人材像

多様な価値観と広い視野を持ち、高度・多様化する先端技術とグローバル化に対応できる実践的で創造力豊かな開発型技術者

2. 達成すべき学修成果

専攻科課程の学生は、下記の普遍的に有用性を持つ能力および専門分野に固有の知識・技術を学修成果として達成するものとする。

- (1) 広い視野を持ち、多様な価値観を理解できる能力
- (2) 自ら考え計画し、能力を総合的に発揮して問題を解決できる能力
- (3) 専門分野に加えて基礎工学をしっかりと身につけた生産技術に関する幅広い対応力
- (4) 英語力を含めたコミュニケーション力

3. 修了要件

専攻科の一般科目、共通専門科目、およびコース毎の専門科目を履修し、所定の単位取得要件を満たして専攻科の学習・教育目標を達成した者は、上記2. の能力を身につけているとして修了証を授与する。



ディプロマ・ポリシーに示された能力を身に付けることにより、社会情勢の変化にも対応して活躍できる技術者や研究者を育成します。また、専門科目だけでなく広い分野にわたる知識や技術も習得できるよう、以下のようなカリキュラム方針に基づいて編成されています。

- (1) 広い視野を持ち、多様な価値観を理解できる能力を育成するため、各コース共通として「日本学特論」、「技術者倫理」、「地域政策論」、「環境地理学特論」の一般科目を編成しています。
- (2) 自ら考え計画し、能力を総合的に発揮して問題を解決できる能力を育成するため、「創造工学実習」、「実践的デザイン工学実習」、「専攻科研究Ⅰ」、「専攻科研究Ⅱ」を編成しています。
- (3) 専門分野に加えて基礎工学をしっかりと身につけた生産技術に関する幅広い対応力を育成するため、「応用代数」、「物理学特論」、「データ解析」、「専攻科実験」、「インターンシップ」等を編成しています。
- (4) 英語力を含めたコミュニケーション力を育成するため、「総合実践英語Ⅰ」、「総合実践英語Ⅱ」を編成しています。英語による論理的な記述、討論などの能力を涵養します。



1. 科学技術への関心が高く、研究に対して意欲がある人

2. 発想に独自性があり、チャレンジ精神に富んだ人

3. 技術や科学の専門基礎力を有し、開発型の実践的な技術

者や研究者を目指す人



学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。

鶴岡工業高等専門学校自己点検・評価委員会規程の第2条(3)にあるように適宜見直しすることが定められている。

(任務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

(3) 学校の目的及び三つの方針の見直しに関すること

【基準 2 . 教育組織及び教員・教育支援者等】

17

2 - 1

学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。

2-1-①

本校では、地域からの要請による産業構造の高度化に対応できる融合複合技術者の育成を目指し、学科の大括り化による再編を行った。

学則第7条

学 科 創造工学科
学級数 4
入学定員 160人

第2学年から次のコースに配属

- ・ 機械コース
- ・ 電気・電子コース
- ・ 情報コース
- ・ 化学・生物コース

コースを基礎として、第4 学年から次の分野を設ける

- ・ デザイン工学分野
- ・ エレクトロニクス分野
- ・ ソフトウェア分野
- ・ 環境バイオ分野
- ・ メカトロニクス分野
- ・ 資源エネルギー分野
- ・ 材料工学分野

18

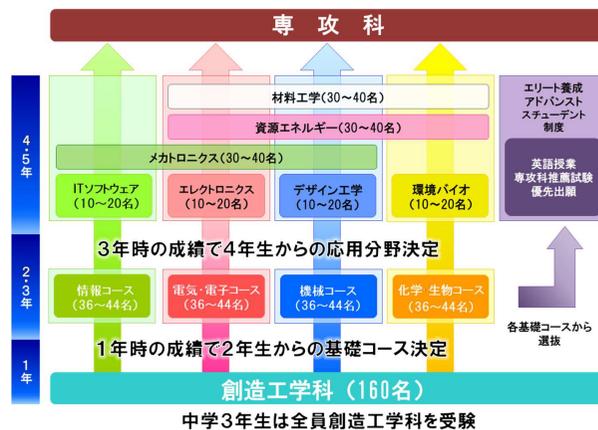
教育体制

本校では、地域からの要請による産業構造の高度化に対応できる融合複合技術者の育成を目指し、学科の大括り化による再編を行った。

<4・5年次>
応用分野で課題発見・
解決能力など実践力を
育成

<2・3年次>
基本コースで技術者の
素養を育成

<1年次>
混合学級とし4学級に
分けて運営



19

機械コース

機械コースでは、様々な産業分野で使用される機械の開発・設計や、信頼性の高い製品を効率良く作るための考え方、製造法等を総合的に学習します。具体的には、機械に利用される材料の性質や強さ、その合理的な加工法、水・熱・空気に関する基礎理論や機械の構造と力の伝わり方などの専門知識を学習します。加えて、実験、実習、設計製図を通して、実践技術を身につけます。



20

電気・電子コース



NIT -Tsuruoka

電気・電子コースでは、現代社会に欠くことのできない『エレクトロニクス』、『情報・通信』、『電気エネルギー』の3分野を教育の柱とし、各分野のバランスのとれた学習で急激に発展する産業界で活躍できる創造性豊かな総合電気電子技術者の養成を目指しています。



21

情報コース



NIT -Tsuruoka

情報工学にかかわるソフトウェア工学、情報ネットワーク工学、コンピュータ工学などのソフトウェア系やハードウェア系、ならびにシステムの制御に関連した専門知識を修得します。情報工学に関する基礎専門知識や実践能力を身につけた高度情報化社会に適応できる技術者、人間の生活向上にかかせない産業ロボットや人間支援ロボットなどを開発、製造できる技術者を養成します。



三次元造形機 (ZPrinter 650) と作品 (野球場)

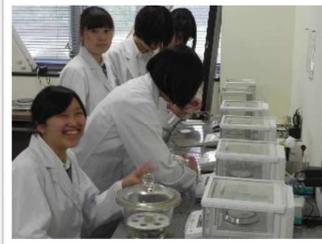
22

化学・生物コース



NIT -Tsuruoka

これまでに無い物質や材料の開発、またすでにある製品のリサイクル方法や効率の良い生産方法の開発は重要な課題です。そのような課題に対応することが出来る技術者を養成することを目的として、物資・材料に関する化学やバイオテクノロジーの基礎を学ぶために必要な学習環境を提供します。



23

学生の定員及び現員



NIT -Tsuruoka

創造工学科の定員は160名、2年次から基礎コースである機械コース、電気・電子コース、情報コース、化学・生物コースの定員は36~44名

本科

令和3年5月1日現在

区分	創造工学科		コース別内訳				計
	定員	現員	機械コース	電気・電子コース	情報コース	化学・生物コース	
第1学年	160	160 (29)					160 (29)
第2学年	160	159 (31)	35 (7)	36 (2)	44 (10)	44 (12)	159 (31)
第3学年	160	163 (30)	40 (5)	44 (0)	40 (8)	39 (17)	163 (30)
第4学年	160	160 (31)	37 (9)	43 (4)	43 (9)	37 (9)	160 (31)
第5学年	160	159 (31)	40 (9)	35 (4)	41 (9)	43 (9)	159 (31)
計	800	801 (152)	152 (30)	158 (10)	168 (36)	163 (47)	801 (152)

24

学生在籍状況（令和3年5月現在）



NIT -Tsuruoka

全学生数 ()内女子学生
 本科生 801名(152)
 専攻科生 45名(4)

庄内地域出身
 590名(73.6%)

新潟県
 3名

海外からの留学生
 7名
 (モンゴル)



宮城県
 10名

内陸地区出身
 183名(22.8%)

県内合計 773人 96.5%

その他
 秋田県、宮城県、福島県、
 神奈川県、新潟県
 21名

専攻科の構成



NIT -Tsuruoka

本校は1専攻3コース制を採用

機械・制御コース

2-1-②

機械工学及び制御情報工学の高度な専門知識を習得し、これらを応用したシステムなどの設計や開発技術能力を持った実践的開発型技術者を育成します。機械や材料、エネルギー、計測・制御等の分野についての教育研究を行い、各種機械、ロボット、制御機器等を、資源や環境にも配慮して開発できる能力を養います。

電気電子・情報コース

電気電子工学及び情報工学の高度な専門知識を習得し、これらを応用したシステムなどの設計や開発技術能力を持った実践的開発型技術者を育成します。社会基盤の構築に重要なパワーエレクトロニクス、エネルギー変換工学、半導体工学、通信工学、情報ネットワーク、プログラミング言語、アルゴリズムなどの専門知識を系統的、有機的に習得します。

応用化学コース

物質工学及び生物工学の高度な専門知識を習得し、これらを応用した新素材などの設計や開発技術能力を持った実践的開発型技術者を育成します。化学や材料を中心にエネルギー、環境、生物に至るまで、教育研究の分野は多岐に渡ります。新素材や機能性材料、医薬品や農薬等の化学物質などを資源や環境にも配慮して開発できる能力を養います。

専攻科学生の定員及び現員



NIT -Tsuruoka

学年の入学定員は16名

専攻科

区分	生産システム工学専攻		コース別内訳			計
	定員	現員	機械・制御コース	電気電子・情報コース	応用化学コース	
第1学年	16	21(2)	3(0)	9(0)	9(2)	21(2)
第2学年	16	24(2)	5(0)	12(2)	7(0)	24(2)
計	32	45(4)	8(0)	21(2)	16(2)	45(4)

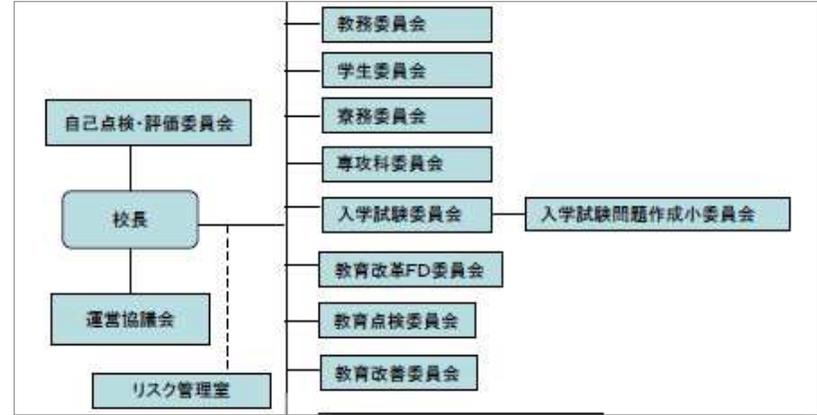
運営体制図



NIT -Tsuruoka

2-1-③

- 教育展開を支援するために教務委員会、学生委員会、寮務委員会、教育改革FD委員会、教育点検委員会、教育改善委員会などが組織されている。





教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること NIT-Tsuruoka

2-2-①~③

教員構成と配置

教員の年齢構成(所属別)

	60代	50代	40代	30代	20代	計
校長	1	0	0	0	0	1
基盤教育グループ	1	6	5	4	0	16
機械コース	0	3	3	3	0	9
電気・電子コース	1	5	4	3	0	13
情報コース	2	4	5	0	0	11
化学・生物コース	1	4	3	4	0	12
計	6	22	20	14	0	62

教員の年齢構成(職名別)

	60代	50代	40代	30代	20代	計
校長	1	0	0	0	0	1
教授	4	11	3	1	0	19
准教授	0	11	10	5	0	26
講師	0	0	4	1	0	5
助教	0	0	3	7	0	10
特任教授	1	0	0	0	0	1
計	6	22	20	14	0	62

- 適切な専門分野の教員が授業科目を担当している
- 外国人教員を3人配置している。また、専門科目においては、実務経験者が3割程度以上となるように配置している。
- 博士の学位取得者が9割以上となるように、専門分野が偏らないように授業科目担当教員として配置している。
- 特例適用認定専攻科審査において合格をした教員で研究業績を有する教員を特別研究担当教員として配置している。



全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。

2-3-①、②

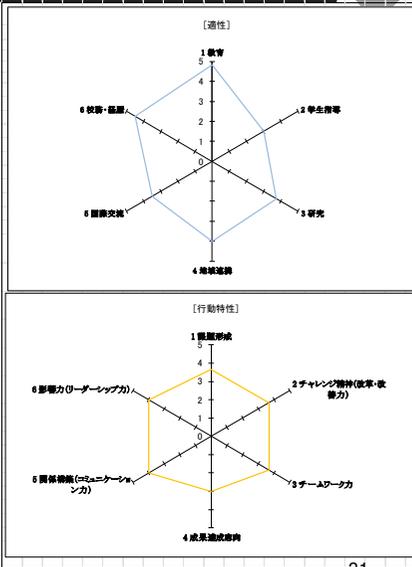
- 教員業績評価委員会
定期的に収集、管理された人事管理データベースに基づいて評価を行う
- 教員選考委員会
採用や昇格手続きを行う
- 教員選考規程
新規採用（公募）を行うための規程
- 内部昇任規程
- 教員選考基準
昇格手続きを行うための規程

教員評価シート(例)



鶴岡高専 教員評価シート(評価者が作成) ※個々の教員が作成するものではない

【教員評価シート】						
対象者	OO OO	職位	教員	記入日	2018.9.25	
所属	創造工学科 OOコース	役職	OO主任	評価者	学校長	田
◎適性						
内容	A	ポイント	備考			
1 教育	4.8	68	OO主任としてOO業務に専念			
2 学生指導	3	30	OO主任と連携			
3 研究	3.8	76	外部資金獲得多数			
4 教職専攻	4	24	企業自治体、企業との連携、共同研究			
5 国際交流	3.5	21	国際交流と連携し、留学生を支援			
6 校務・経理	4.5	27	年間忙			
		合計		66		
◎行動特性(個人の強み・強み・強み)						
総合評価及び育成計画等を記載して下さい						
(コメント)						



教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。

教育の質の向上や授業の改善を図る取組

2-4-①

FD研修会の実施

- 教育改善 F D委員会が保健センター、教務委員会など他の組織と連携して、毎年度、数回の F D研修会を計画及び実施し、教育の質的向上に努めている。F D研修会終了後はアンケートを行い、研修の効果が得られているか確認している。



教員の教育能力の向上を図るための取組



○教員相互授業参観
令和3年11月17日~12月17日

○第1回FD研修会
「高等専門学校機関別認証評価の概要と認証評価委員会専門委員から見た本校教育システムの問題点」
日時:令和3年9月30日(木)15:00~17:00
会場:8号館2階 大講義室
講師:戸嶋 茂郎 先生(教育点検委員長)
対象者:全教員

○自殺予防研修会(オンデマンド)
「いのちの学習 —自分のいのちと人のいのちを大切にするには—」
山形県立保健医療大学特任教授 佐竹真次氏
令和3年 10月21日~11月12日

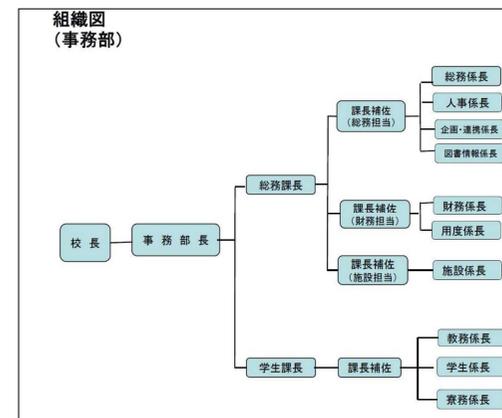
○ハラスメント防止研修(オンデマンド)
株式会社フォーブレン
令和3年 7月27日~9月10日

教育支援者等の配置



学生課に教務係、学生係、寮務係を置き、必要な教育支援者などが適切に配置されている。

(鶴岡工業高等専門学校事務組織等
規程第11条より)



事務職員及び技術職員の構成



- 学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されている。
- 技術職員は教育研究技術センターに所属し、3つの班に組織化されそれぞれの分野での教育研究活動を支援している。
- 図書館には、その機能を十分に発揮させるために必要な専任の総務課所属の職員を置いており、現在、事務補佐員も勤務している。

職員数・年齢構成

	男	女	計	60代	50代	40代	30代	20代
事務系	17	11	28	0	5	6	13	4
技術技能系	0	0	0	0	0	0	0	0
医療系	0	1	1	0	1	0	0	0
教務系	10	1	11	0	1	3	7	0
計	27	13	40	0	7	9	20	4

教育支援者等の資質の向上を図るための取組



- 東北地区国立高等専門学校技術職員研修
期日:令和3年8月26日(木)
主管校:福島工業高等専門学校
出席者:遠田 明広 鈴木 大介 伊藤 眞子 佐藤 大輔 木村 英人 佐藤 真人 遠藤 健太郎 志村 良一郎
技術発表
『学寮食堂における新型コロナ感染対策』遠田 明広
『新型コロナウイルス感染症対策の剣道用マウスシールドの製作』 鈴木 大介
- 鶴岡高専技術発表会(年度内に実施予定)

【基準 3. 学習環境及び学生支援等】

- 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。また、ICT環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。

3 - 1 施設・設備の整備と有効活用



- 実験室、研究室の作業環境を点検
作業環境チェックシートの記入を月1回実施

- バリアフリーへの対応



建物入り口のスロープ



エレベータ5か所
(2,7,8号館、図書館、厚生会館)



多目的トイレ

3 - 1 施設・設備の整備と有効活用



- 授業以外における学校施設の活用状況

学校施設	使用団体	学校施設	使用団体
グラウンド	サッカー部 ラグビーフットボール部	野球場	野球部
第1体育館	卓球部	弓道場	弓道部
	バドミントン部 ハンドボール部	LL教室	E.S.S 茶道部
第2体育館	バスケットボール部	多目的交流室	美術・写真部 ソフトウェア開発部
	バレーボール部	陶芸室	吹奏楽部
	女子バレーボール部	物理実験室	天文部
武道館	柔道部	応用微生物実験室	化学部
	剣道部	実習工場	ロボット技術研究部
テニスコート	ソフトテニス部	図書館1階展示室	サービス・デザイン部
	テニス部		
トレーニングセンター	令和3年度はコロナ対応のため使用内規を設け曜日で2部交代制とした		

冬季(12月～2月)は別途割振りして屋内施設を使用している

3 - 1 ICTの有効活用

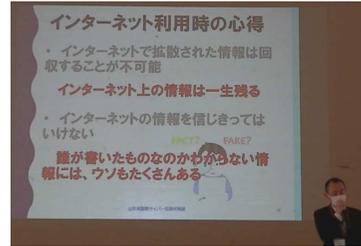


NIT -Tsuruoka

- ・アンチウィルスソフトの導入
- ・「すぐやる三箇条」の掲示の徹底
- ・ネットワーク利用のモラルやエチケットの啓蒙活動
 - ☞ サイバースキル講座（講師：山形県警察本部サイバー犯罪対策課）
 - ☞ 生活指導講演会（講師：少年サポートセンター庄内 少年補導専門官）
（令和3年度はコロナ対応のため学年ごとに実施）



「すぐやる三箇条」の掲示



令和3年度サイバースキル講座

41

3 - 1 ICTの有効活用



NIT -Tsuruoka

- ・情報処理演習室の昼休みと放課後の開放



利用時間と諸注意



授業での使用状況の提示



情報処理演習室の様子

42

3 - 1 資料の収集、整理、有効活用



NIT -Tsuruoka

- ・教員推薦図書や学生の選書による希望図書の充実化
- ・視聴覚資料は、著作権処理済み資料を準備
- ・校内LANを通じて蔵書検索が可能
- ・資格試験等のコーナーを設け学生が利用しやすい配慮



視聴覚資料用のメディアルーム



蔵書検索と利用方法の提示



資格試験のコーナー

43

3 - 2



NIT -Tsuruoka

- ・教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。

44

3-2 学習支援



教育に必要なガイダンスを実施し周知している

NIT -Tsuruoka
3-2-①、②

- ・担任ガイダンス
- ・新入生オリエンテーション
- ・特別活動(1~3年)
- ・コース選択支援ガイダンス
- ・分野選択支援ガイダンス
- ・本校HPに学生便覧の掲載

学習支援の実施事例

- ・学生アンケート(教育改革FD委員会)
- ・オフィスアワー(授業相談に応じる時間)
- ・担任制(1~5年生)
- ・指導教員制(5年生)
- ・オンラインを活用したきめ細やかな学習支援
- ・学生会、寮生会との懇談
- ・自学自習スペースの開設
- ・資格試験受験料の支援(同窓会による事業)

また、マイクロソフトOffice365のアカウントを発行し、オンラインを利用したきめ細やかな情報伝達(教材配信、諸連絡、質疑応答)を行っている。

3-2 学習支援の一例(自学自習スペース開室)



学習支援体制の強化

学生の各種学習相談も兼ねて、主に低学年を対象に開設

NIT -Tsuruoka

自学自習スペース開室のお知らせ

日頃から勉強する習慣を定着させるために、自学自習スペースを開放します。

開室時間に教員・専攻科生が常駐します。勉強の悩みや相談も受けれます。マナーを守って利用してください。

対象：1~3年生
曜日：試験準備期間の月、火、木曜日に開室
場所：合同講義室
時間：7:30~8:30
※開室日は違ってお知らせします。

9月の開室予定日

9日(木) 7:30~8:30 合同講義室
13日(月) 7:30~8:30 合同講義室
14日(火) 7:30~8:30 合同講義室
16日(木) 7:30~8:30 合同講義室
21日(月) 5~8校時 合同講義室
22日(火) 7:30~8:30 合同講義室
24日(金) 5~8校時 合同講義室
※学校行事等により予定が変更される場合があります。

<利用上の注意>
自学自習スペース内では、スマホ、タブレット他、通信機器の使用は禁止です。良識、マナーと目的意識をもって利用しましょう。



3-2 特別な学習および生活支援



NIT -Tsuruoka

- ・留学生担当教員、学生チューターの留学生支援
- ・特別支援の要望に応じて、その必要性を検討し支援チームを作り支援
- ・保健センター/相談室で心身の健康をサポート

☞ 学生が相談しやすい相談環境を整備

- ・対面相談、電話相談、メール相談、オンライン相談(相談受付はオンラインでも対応しています)

☞ こころと体の健康調査の実施

- ・調査結果に応じて保健センター員が学生と個別面談

☞ 専門のカウンセラーとの相談体制

- ・精神科医 月1回(要予約)
- ・特別支援教育士 週1回 月曜日
- ・カウンセラー(オンライン相談) 週2回(要予約)
- ・教育相談員 週1回 金曜日



保健センター



相談室

3-2 学生生活の指導・相談等



NIT -Tsuruoka

- ・学生主事による生活ガイダンス(令和3年4月21日実施)
- ・年度初めの担任/指導教員による個人面談の実施
- ・年4回のいじめアンケートの実施(5月、7月、10月、1月に実施)
- ・学校HPおよび学内掲示板で奨学金等の経済支援の情報提供

学生個人面談の実施報告

担当の学生(1年生から4年生までは担任、5年生以上は指導教員)の個人面談の終了後、下記にご返信いただきご報告をお願いします

返信は学生主事、保健センターで把握します

こんにちは、貴二。このフォームを送信すると、所有者に名前とメールアドレスが表示されます。

* 必須

1.実施した学生区分を選んでください*

クラス学生

研究室学生

次へ

個人面談実施の報告フォーム

令和3年度 第4回いじめアンケート

<回答期間：令和4年1月13日(木)~令和4年1月20日(木)>

学生のみならずへ

このアンケートは、みなさんが楽しく学校生活を送るようするために実施します。日頃の学校生活を振り返って、思いを伝えてください。

福岡工業大学専門学校 学校長

以下の質問に対し、前回(令和3年10月)のアンケート結果の状況で答えてください。なお、回答内容は学生主事とクラス担任(専攻科の場合はコース長)が確認し、厳密に守ります。学生が今後どうしに活用されます。

* 今回は匿名と無記名(匿名)の選択式となっています。最後の質問で選択してください。

* 必須

1.学年を選んでください*

学年を選択

いじめアンケート回答フォーム(第4回)

3-2 進路指導・キャリア教育



NIT -Tsuruoka

・令和3年度の進路指導・キャリア教育の実績と予定

日付	就職	進学	内容	備考(会場等)
令和3年				
12/8 (水) 15:20~	○	○	進路ガイダンス、進路希望調査票配付・誓書・求職調査票配付(専攻科1年)	視聴覚室 (全 員)
12/11 (土) (予定)	○		仕事・職種研究会(学研教育みらい)	WEB開催 (希望者のみ)
12/12 (日) (予定)	○		高専生のための仕事研究&インターンシップフェア(マイナビ)	WEB開催 (希望者のみ)
12/18 (土)	○		鶴岡高専企業研究セミナー(午前 県内企業、午後 県外企業)	7・8号館 (全 員)
令和4年				
1/4 (火)	○		求人票公開開始・専攻科生就職活動開始	(全 員)
1/9 (日) (予定)	○		業界研究会(学研教育みらい)	WEB開催 (希望者のみ)
1/12 (水)	○		キャリアカウンセラーによるセミナー(履歴書・エントリーシート作成指導)	合同講義室 (希望者のみ)
1/13 (木)	○		" (面接やグループディスカッション指導)	合同講義室 (希望者のみ)
1/14 (金)	○	○	進路希望調査票提出期限、誓書・求職調査票指導教員に提出(専攻科1年)	(全 員)
1/20 (木)	○		キャリアカウンセラーによるセミナー(1/12と同様の内容)	合同講義室 (希望者のみ)
1/21 (金)	○		" (1/13と同様の内容)	合同講義室 (希望者のみ)
1/22 (土) (予定)	○		東北地区高専生のための仕事研究セミナー(メディア総研)	仙台市 (希望者のみ)
3/1 (火)	○		誓書・求職調査票配付(本科4年)	(全 員)
4月始業日	○		本科生就職活動開始・誓書・求職調査票指導教員に提出(本科5年)	(全 員)
4月上旬	○	○	進路調査	(全 員)
4月上旬	○		進学ガイダンス	合同講義室 (進学希望者全員)
4月中旬	○		保護者懇談会	(全 員)

は学外でのイベント

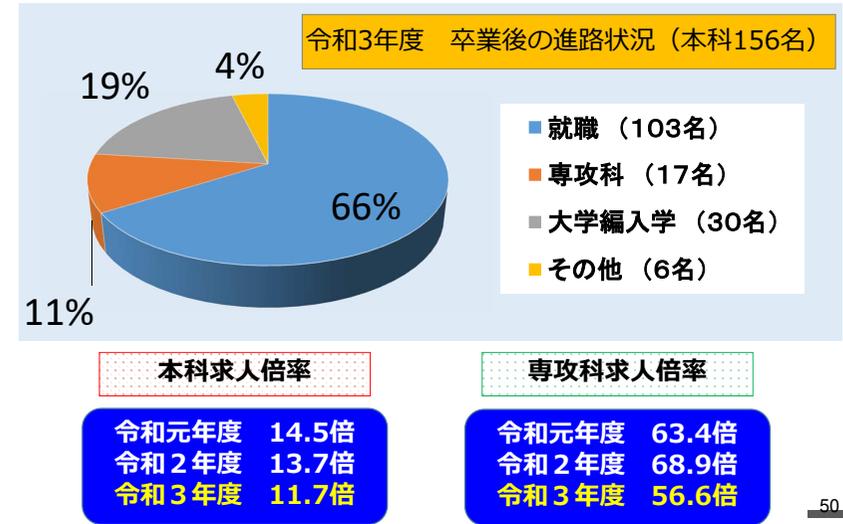
49

3-2 進路指導・キャリア教育



NIT -Tsuruoka

・令和4年1月31日現在の進路状況



50

3-2 進路指導・キャリア教育



NIT -Tsuruoka

・企業研究セミナー (令和3年12月18日実施)

- ☞ 県内60社、県外60社、計180社が参加
- ☞ コロナ対策 (三密回避) を徹底し実施
 - ・会場の分散 (7号館・8号館) ・対面とリモート参加のハイブリット形式
 - ・事前予約システムの導入



対面の様子



リモート対応の様子

51

3-2 課外活動指導



NIT -Tsuruoka

- ・課外活動安全管理指導業務の手引きに基づく指導
- ・新型コロナウイルス感染症予防のガイドラインの制定
- ・希望調査を実施の上、全クラブへの顧問配置

	正規顧問	協力教員	非常勤教員		正規顧問	協力教員
陸上競技	2名	1名		テニス	2名	
バスケットボール(★)	3名			弓道	2名	
バレーボール(★)	4名			ハンドボール	2名	
女子バレーボール(★)	3名					
ソフトテニス	2名			吹奏楽部	1名	1名
卓球	2名			音楽	1名	
柔道	2名		1名	天文	1名	
剣道	2名			化学	1名	
野球(★)	3名	1名	1名	美術・写真	1名	
サッカー	3名			E.S.S	1名	
水泳	3名	1名		茶道	1名	
バドミントン	2名			ロボット技術研究	3名	
テニス	2名			ソフトウェア開発	1名	
ラグビーフットボール	2名		1名	サビズ・デザイン	1名	

(★)高専体育大会(地区・全国)担当種目

52

3-2 課外活動指導



NIT-Tsuruoka

全国高専デザインコンペティション2021
優秀賞（全国高専連合会会長賞）を受賞

2021年度のテーマ：「衝撃を吸収せよ！」

鶴岡高専AMデザインチーム「まり鶴」



受賞作の「まり鶴」



校長室での受賞報告

※ AMデザインチームは令和4年度からAMデザイン部として活動

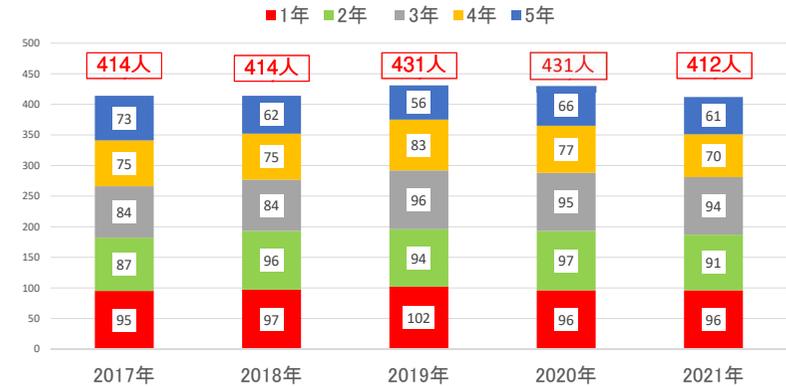
53

3-2 学生寮関連



NIT-Tsuruoka

寮生数について 学年別寮生数の推移



1,2年生の希望を優先的し、スタイルで入寮者を受け入れ
実際には、3年生以上も相当数が学寮生活を送っている。

54

3-2 学生寮関連



NIT-Tsuruoka

寮生数について 寮生率の推移



本科生の半分以上が、同じサイクルやシステムで生活
⇒ 寮生活は、鶴岡高専学生生活のスタンダード

55

3-2 学生寮関連①



NIT-Tsuruoka

学寮運営の基本

- 生活寮として
 - 学生たちが安心してより快適に生活のできる場。
 - ⇒ 新型コロナウイルス感染症対策
 - ⇒ 対策を講じた上で実施したイベント（寮生会企画・運営）
- 教育寮として
 - 社会生活上のモラルやマナーなどについて学ぶ場。
 - ⇒ 居室の共有（低学年は2,3名で1室）
 - ⇒ 食堂・浴場等の共有
 - ⇒ 一定のタイムテーブルに沿った生活
 - 学習の場
 - ⇒ 1年生を対象学習会（毎週水曜実施。指導寮生企画・運営）

56

3-2 学生寮関連



■感染症対策について(2020~)

- 手洗い・うがい、マスク着用、換気の呼びかけ
- 朝夕の体調チェック
- 食堂・男子浴室の二交代利用、食堂は対面NG、仕切りを設置
… 学校の時間割も変更
- 隔離スペース設置（男子寮1、女子寮1）
… 濃厚接触者の経過観察に使用



宿日直教員や学寮スタッフ教職員が必要な物品を置く台

3-2 学生寮関連



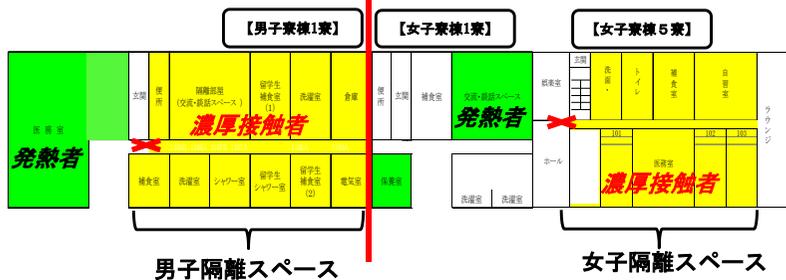
6:45	【起床】	
7:00	【朝点呼】	
7:15	【校通・報告】 ※7:30までに専用フォームへ入力	
7:15~8:00	【朝食】 南寮(2・3・4寮)	【朝食】 北寮(1寮・7寮・女子寮)
8:00	※朝食は昼食・夕食と違い、寮棟毎に食事時間が分かれま	
8:45	【登校】 ※授業がない場合・道開校舎の場合でも寮内には残れませ	
9:00	【授業】	
12:10	【昼食】 12:10~12:45 前半	【昼食】 12:45~13:20 後半
12:45	【授業】	
13:40	※昼休み終了(13:40)までは寮舎に入ることばせませ	
17:00	【校通・報告】 ※21:00までに専用フォームへ入力	
17:20~18:20	【夕食】 前半	【夕食】 後半
18:20~19:20	【入浴】 第一浴場 (前半) 17:00~19:30まで (後半) 19:30~22:00まで	【入浴】 第二浴場 (前半) 17:00~19:30まで (後半) 19:30~22:00まで
20:20	※シャワーは終日利用可(ただし、22:00~7:00までは利用不可)	
20:30	【門限】 ※門限後の外出・帰寮は認めませ	
24:00	【消灯】	

新型コロナウイルス感染症対策用日課表

3-2 学生寮関連



■感染症対策について(2020~)



隔離スペースがあっても、入ることができる人数は限られている
収容施設(アパート、ホテル等)について、学外の協力を得られないか?

3-2 学生寮関連



■実施できたイベント

- 寮生体育大会(7月27・28日)
ソフトバレー、ドッチボール、スポーツチャンバラ
2日間にわけて分散開催
- 寮生肝試し(8月4日)
大声を出すことのできない肝試し
- 寮生競技会(12月15・16日)
ポッチャ、射的、ストラックアウト
2日間にわけて



寮生体育大会



寮生肝試し

※分散開催やルールの工夫で感染症対策

【基準4. 財務基盤及び管理運営】

【財務基盤】

4-1、4-2 運営費交付金

■ 運営費交付金の現状

- 毎年、高専機構全体で効率化係数（前年度比△1%）（一般管理費△3%）の削減
- 鶴岡高専への予算配分額
 - ・当初予算配分額：前年度とほぼ同額（約2万8千円減）（人件費を除く）
 - ⇒ **約2億3千万円**（R3年度）

■ 当初予算への反映（毎年度予算配分方針を定め、4区分に分類して配分）

- **共通経費**（光熱水費、消耗品、清掃委託費等）は前年度比△5%削減（約8,300万円）
- **教育・研究経費**は前年度同額（約9,900万円）
- **教育研究支援経費**（教育・研究を支援するための施設運営費等）は前年度比△5%削減（約1,600万円）
- **一般管理費**（事務費、環境整備費、広報活動費等）の前年度比△5%削減（約3,200万円）

■ 予算削減への対応

- 共通経費のうち、特に光熱水費（電気・ガス・水道・軽油）の削減
 - ・**光熱水費**についてはコロナ禍以前の令和元年度比△3.0%削減を目標
（機構配分額 R3年度(当初) 約4,900万円、R2年度(実績) 約4,500万円、R元年度(実績) 約4,800万円）
- 業務の効率化により対応
 - ・関連性のある**業務を集約し経費節減**（他高専と共同購入・契約など）
- 競争性を確保した契約の推進
 - ・**複数年度契約**による経費節減・業務軽減
- 競争的資金などの外部資金の積極的獲得に向けた取り組み
 - ・**「科研費特別セミナー」の実施**（科研費採択経験者等を講師として招聘）
 - ・**産学官連携活動の報奨制度**（R3～間接経費の総額が35万円以上の場合に、間接経費の3%を支給。）

4-1 特別教育研究経費

■ GEAR 5.0及びCOMPASS 5.0によるSociety 5.0時代に即した新たな高専高度化モデル事業の推進

- **GEAR 5.0 (24,850千円)** (R2 5,480千円)
（高専の高度な研究を通して、優れた技術を持つ人材を育てる事業）
- ・マテリアル分野：14,850千円（2020.04～）
中核拠点校 鈴鹿、協力校 鶴岡、小山、呉、大分
- ・防災・減災・防疫分野：10,000千円（2021.04～）
中核拠点校 沖縄、協力校 鶴岡、長野、和歌山、宇部

■ 高専高度化推進経費 (14,286千円) (R2 9,265千円) （各高専のニーズに応じた機動的な取組を推進するための経費）

- 学校改善事業（7,707千円）
 - ・地域特性を踏まえた産学連携を活用する研究支援 4,617千円
 - ・教育の質保証定着に向けた取組 3,090千円
- 学生指導体制の充実 4,830千円
 - ・精神科医、カウンセラー、特別支援教育士、看護師の配置
- 教職員の業務負担軽減に向けた取組 1,749千円
 - ・学生寮業務、課外活動指導員の人件費補助

■ 基盤的設備の整備 (14,300千円)

- ガスクロマトグラフィー質量分析装置（GC-MS）



ガスクロマトグラフィー質量分析装置（GC-MS）

4-2 外部資金の獲得



- 科学研究費助成事業（科研費）**（研究分担者を含む、R3年度）
 （科研費の取得推移：R3年度 約2,972万円 R2年度 約2,540万円、R元年度 約3,170万円）
 NIT-Tsuruoka
- 継続課題
 - ・再生・修復機能を付与した低摩擦ソフトトライボロジー材料の開発 ほかに19件 **23,140千円**
 - 新規課題
 - ・現実とリンクする思考実験支援シミュレーション教材の開発 ほかに4件 **6,840千円**
 - 政府系外部資金（主なもの）**
 - 国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST） **6,955千円**
 - ・戦略的創造研究推進事業（CREST）（6,500千円）
 （超低摩擦ポリマーブラシの摩擦現象の階層的理解と制御）
 - ・研究成果展開事業（ASTEPトライアウトタイプ標準型）（455千円）
 - 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO） **17,000千円**
 - ・カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発（4,000千円）
 - ・イオン液体構造を有するアイオノマーによる革新的低白金技術の研究開発（13,000千円）
 - 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構（NARO） **2,900千円**
 - ・戦略的イノベーション創造プログラム（スマートバイオ産業・農業基盤技術）SIP
-
- （参考）** ○国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）（R2年度）
 ・ウイルス等感染症対策技術開発事業（基礎研究支援） **99,000万円**
- 寄附金（主なもの）**
- K-ARC拠点化推進協議会
 - ・K-ARC(高専応用科学研究センター)の機能強化と広域的拠点化を推進するため **2,000千円**
 - フロンティア・ラボ株式会社
 - ・教育研究支援のため **1,000千円**

4-1 施設整備



- 《H30年度予算配分》**
 ・校舎8号館新営工事
- 《令和元年度予算配分（補正予算）》**
 ・寄宿舎第2寮改修工事
- ◆ 高専機構本部経費 / 特別教育研究経費による学修環境の改善**
- 持続的な学修環境への改善
 - ・6号館他実験室空調設備取設工事
 （※本校舎全て空調暖房が可能となり、校舎でのボイラー暖房廃止）
 - ・寄宿舎ボイラー設備更新工事
 - ・外灯設備改修工事（※構内の全ての外灯をLED化）
- 《令和2年度予算配分》**
 ・第2体育館床改修工事（営繕工事）
 ・機械実習工場トイレ改修（補正予算）（※女子トイレ新設）
 ・構内ネットワーク改修工事（補正予算/GIGAスクール構想）
- 《令和3年度予算配分》**
 ・テクノセンター等空調設備改修工事（営繕事業）
 （※テクノセンター、7号館、福利施設（食堂、保健センター）の空調設備更新）
 ・**寄宿舎第7寮改修工事（I期・東側）（補正予算）**
 《令和4年度概算要求 ⇒ 令和3年度補正予算(前倒し)》
- 《令和4年度概算要求》**
 ・校舎4号館改修工事 当初予算配分無し ⇒ 今後の予算要求で検討



第2体育館床改修



機械実習工場女子トイレ新設

【管理運営】

4-2 4-3 危機管理、情報発信



- 危機管理への対応（主なもの）**
- ・鶴岡工業高等専門学校危機管理規程（H23年制定）
 - ・常設・・・危機管理を総合的かつ計画的に推進するための組織 ⇒ **リスク管理室**
 - ・危機事象発生時・・・危機事象に対処するための組織 ⇒ **危機対策本部**
 - ・毎年、防災訓練の実施、インフルエンザ対応を確認
- （新型コロナウイルス感染症対策）**
- ・安否確認システム（さくら連絡網）の導入（R元年～）
 （**新型コロナ感染症対策等の学生及保護者への緊急連絡対応にも活用**）
 - ・新型コロナウイルス感染症対策のため、学生及び教職員の体調管理システムを構築
 （Office365 Forms）（R2.09～）
- （参考）**
 ・1月9日及び12日に判明した学生の新型コロナウイルス感染者の対策について、校長の適切かつ的確な指示のもと着実に実施。
- 積極的な情報発信（主なもの）**
- ・記者発表（適宜）や記者懇談会（年4回）
 - ・鶴岡高専メールマガジンの発信（月1～2回）
 - ・鶴岡高専ホームページ上で、学校案内や教育・研究情報を積極的に発信
 - ・**新型コロナウイルス感染予防対策情報や緊急連絡を発信（R2.05～）**
 - ・**入学案内等の受験情報を充実（個別キャンパスツアーや各種学校情報）（R3.10～）**
 - ・各種公開講座・講演会、シンポジウム、イベントなどを開催
 - ・市民サロン、K-ARCシンポ、産業技術フォーラム、科学フェスタ（児童生徒対象）ect



4-2 教職員の質的向上



NIT -Tsuruoka

■研究奨励教員制度、先端教育推進教員制度

研究活動の活性化、教育プログラム開発をより推進できるように、担任・課外活動顧問等校務負担の一部免除

(研究奨励) R3 - 名 (R2 - 名、R元 3名、H30 3名)
(先端教育) R3 1名 (R2 1名、R元 2名、H30 2名 (新設~))

■公募による多様な背景を持つ教員(定員)の採用

・他大学、民間企業経験者等を採用

R3 : 採用4名 (R2 : 採用4名、R元 : 採用1名)

・女性教員の割合 約10% (60名中 6名) (単位:人)

教員	校長		教授		准教授		講師		助教		特任教授		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
現員	1	-	19	-	25	1	4	-	4	5	1	-	54	6	60

■事務職員の人事交流の推進

・事務職員の国立大学等(山形大学)との人事交流(事務部長職は除く)

R3年度 受入交流者 7人 (R2年度 8人、R元年度 9人)

69

4-2 教職員の質的向上



NIT -Tsuruoka

■教職員の能力開発

○教員

・高専機構本部主催の各種研修への派遣

※ R3年度 延べ8名 (R2年度 延べ2名、R元年度 延べ6名)

・全国高専フォーラムへの参加 (R3年12月 オンライン開催)

※ R3年度 1.4名 (全国平均 1高専 10名超程度)

・FD (Faculty Development : 教員能力開発) 研修を実施

※ 本校独自で「認証評価に関する研修会」etc

R3年度 延べ3.5名 (R2年度 延べ178名、R元年度 延べ78名)

(エントリーは35名であるが、教職員向けWebページで研修動画及び研修資料を配信)

○事務職員及び技術職員

・高専機構、国立大学協会、人事院主催等の各種研修へ参加

※ R3年度 延べ2.8名 (R2年度 延べ2.4名、R元年度 延べ2.6名)

◆事務職員及び技術職員メンター制度実施要項を整備 (R2年度)

メンティ(指導される者)及びメンター(指導する者)双方について、自身の能力向上を図るとともに、鶴岡高専の持続的な発展の原動力となる人材育成風土の醸成を図る

◆SD (Stuff Development : 教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させる) を検討及び計画する組織(委員会)の規程を整備 (R2年度)

70

【基準5.準学士課程の教育課程・教育方法】

5-1



NIT -Tsuruoka

準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。

5-1-①、②

- ・学年進行に応じて専門科目を増やすよう配置(くさび型教育)
- ・ディプロマポリシーに対応した科目を学年進行に応じて体系的に編成
- ・モデルコアカリキュラム*に沿った教育水準を設定

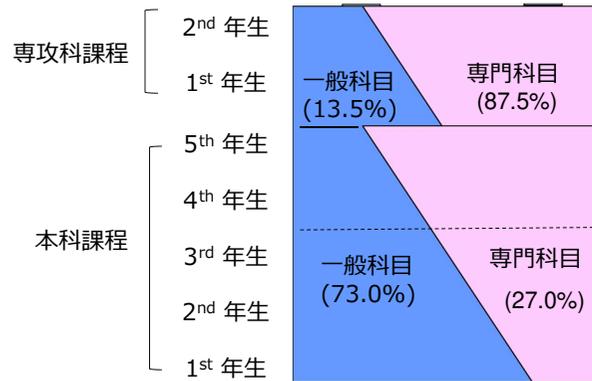
*国立高専のすべての学生に到達させることを目標とする最低限の能力水準・修得内容「コア」と、より一層の高度化を図るための指針「モデル」とが提示されている

71

72



“くさび型教育” 学年進行で専門科目を増やしてある



(例 化学・生物コース(材料工学分野)の科目系統図)

創造工学科 化学・生物コース・材料工学分野

ディプロマポリシー	1年	2年	3年	4年	5年
想 統 A 決 合 け け を す 知 身 題 に 多 構 識 を 面 を	総合工学 I 地域コミュニティ学	総合工学 II	総合工学 III	総合工学 IV	卒業研究 アドバンステクノロジー
者 B 理 幅 を 広 身 い に 教 つ 養 づ と づ の づ 倫 づ 術	倫理 地理 保健・体育 I 音楽	歴史 I 保健・体育 II 美術	歴史 II 政治経済 保健・体育 III	保健・体育 IV	保健・体育 V
し C て の の 学 学 力 を お を 身 につ づ け る	数学 I 数学 II 化学 I 生物	数学 III 数学 IV 化学 II 物理 I	数学 V 数学 VI 物理 II 応用物理 I	応用数学 I	応用数学 II 応用物理 II

D 専門分野の知識と情報技術を身につける	分析化学	物理化学	物理化学	環境とエネルギー
	化学工学	化学工学	化学工学	
E ものづくりに関する幅広い対応能力を身につける	無機化学	無機化学	計測制御	
	有機化学	有機化学	有機化学	有機材料化学
	基礎生物学	生物化学	機器分析	
	物質化学実験	物質化学実験	材料化学	バイオテクノロジー
			生物工学基礎	生物物理化学
			分子生物学	無機材料化学
			生物工学実験	有機電子論
			計算機実習	情報処理演習
			電気化学(B)	生産工学
			材料工学実験	機械工学概論
			材料化学(M)	
			外国語補修会	
			地球環境科学(B)	
		半導体工学	半導体工学	
		薬学概論	薬学概論	



F 国語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける	国語 I	国語 II	国語 III		
	英語 I	英語 III	英語 V	ドイツ語 I	ドイツ語 II
	英語 II	英語 IV	英語 VI	英語 VII	語学演習
G 化学および生物分野の知識と実践力を身につける	創造基礎実習	工学実験・実習 I	工学実験・実習 II	工学実験・実習 III	工学実験・実習 IV
				インターンシップ	
				校外実習	

講義必修科目 選択科目 演習系科目 実験実習系科目



・創造基礎実習(1年生)

技術者として必要な基礎知識, スキルを得るため, 情報, 電気・電子, 機械, 化学・生物, および基礎製図に関する実習を行う

・地域コミュニティ学(1年生)

「鶴岡高専」、「鶴岡市の産業」、「鶴岡市の現状と課題」の3つのテーマに関する講義やグループワークを通じて、自分たちの住んでいるコミュニティについて理解を深める。アクティブラーニング形式の授業を通し、主体性やコミュニケーション力を育成する。

・総合工学(1~4年生)

技術者倫理、知的財産、起業、キャリアプランなど、専門知識以外での技術者として必要な素養を身につける。グループディスカッションを取り入れる事で、コミュニケーション力、発言力、思考力を総合的に育む。

・卒業研究(5年生)

指導教員の指導の下に各学生毎に1つの研究テーマが与えられ、5年間で学んだ知識、技術、能力を総合的に発揮してテーマの課題解決に取り組む。

研究成果を口頭発表し論文としてまとめる。



情報

C言語
C言語の基本
C言語による実習
(総和、平均を求める)
(2次方程式の解を求める、2つの直線の交点を求める)
2次関数、指数関数
三角関数、放物線運動
総和、2次方程式の解、2つの直線の交点

機械実習

安全教育
手仕上げ
フライス盤
旋盤
3DCAD, 3Dプリンター

製図

投影図, 模写
等角図, キャビネット図

電気・電子実習

テスターの製作
導電ペンによる電気回路製作
テスターを使用した測定実験
豆電球を使った回路の実験
ダイオードの実験

化学・生物実習

高分子に関する実験
化学電池に関する実験
遺伝子に関する実験
生命の不思議や遺伝の仕組み
メッキに関する実験
生物に関する実験
化学・生物コースの紹介

「地域コミュニティ学」(1年生) 授業スケジュール



授業日	内容	進め方
第1回 (4/22)	ガイダンス、山形県を調べる・知る・考える	面接@クラスルーム
第2回 (5/13)	社会や企業で求められる人材	遠隔授業:教材配信型
第3回 (5/27)	地元企業経営者講演	遠隔授業:ライブ配信型@クラスルーム
第4回 (6/10)	鶴岡の地域振興を考える ～ 歴史資源をいかした観光プラン ～	遠隔授業:教材配信型
第5回 (7/1)	身の周りの生物・食文化などから地域季節を感じる	面接@8号館
第6回 (7/15)	庄内地域の伝統芸能	遠隔授業:教材配信型
第7回 (8/5)	伝統芸能の比較解析	遠隔授業:教材配信型
第8回 (9/16)	振り返り	面接@8号館

総合工学I~IV(1~4年生)



1年生

AI・データサイエンスについて
ペア・インタビュー
リストーリー
知的財産
先端材料と地球環境

2年生

情報リテラシーとセキュリティ
PROG試験
グループワーク入門
知的財産
キャリアプラン

3年生

アントレプレナーシップ
ビジネスプランを考える

4年生

パテントコンテスト1~3
キャリアプラン1~7
低学年学生(第2学年)とのグループワーク





CO-OP教育

学校での講義と、企業での就業を繰り返しながら企業の現場で経験を重ねることで、コミュニケーション能力や技術力を高める教育(夏休み、春休みを利用した就業、企業訪問、企業講師による授業)。

高専生サミット ~つながろう高専生、ひろげようサイエンス~

主に低学年の高専生が主体的に研究を行い、その成果を発表する。バイオ・材料、それらと融合した機械、電気、情報を含む科学と工学分野を対象。優秀な発表は表彰、学会で発表する機会を得られる。

第6回高専生サミット
令和4年3月15日(火)
オンライン開催



- ・ トップサイエンティスト&社長講義
- ・ 鶴岡工業高等専門学校以外の教育施設等における学修等

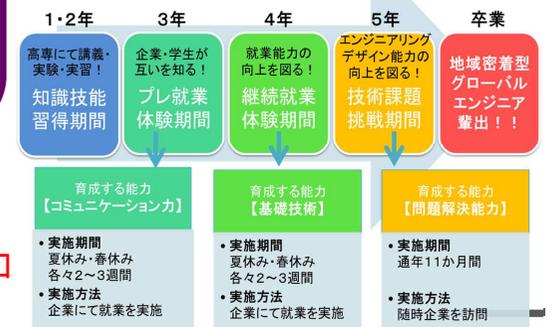


【CO-OP教育の概要】



【鶴岡高専におけるCO-OP教育】

学校での講義と、企業での就業を繰り返しながら企業の現場で経験を重ねることで、コミュニケーション能力や技術力を高める教育



・H24年度春から開始
・これまで延べ、
28社に142名が参加



資格試験や実習・活動の成果に応じて、進級・卒業に必要な単位に加算している。

- ・ 実用英語技能検定試験
- ・ TOEIC
- ・ 社会実習
- ・ 技術英語能力検定試験
- ・ 甲種危険物取扱者試験
- ・ 電気工事士
- ・ 電気主任技術者
- ・ 技術士第一次試験
- ・ インターンシップ
- ・ CO-OP 実習
- ・ 校外実習
- ・ 海外技術英語研修
- ・ 自主探究活動



準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

5-2-①

各コースとも、
低学年(1年~3年)は講義:約90%、演習:約3%、実験・実習:約7%、
高学年(4年~5年)は講義:約60%、演習:約10%、実験・実習:約30%
に設定。

座学で得た知識を演習により深め、実験・実習で体験として身に付ける授業形態である。



シラバス(例)

NIT -Tsuruoka

鶴岡工業高等専門学校	開講年度	令和03年度(2021年度)	授業科目	物理化学
科目基礎情報				
科目番号	0043	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	創造工学科(化学・生物コース)	対象学年	3	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	アトキンス・物理化学要論(第7版)/東京化学同人			
担当教員	佐藤 司			
目的・到達目標				
1. 気体の状態方程式を用いて気体の圧力や体積を求めることができる。また実在気体の状態方程式の特徴や違いを説明できる。 2. 物理変化および化学変化にともなう、エンタルピー変化、エントロピー変化ならびにギブズエネルギー変化を求めることができる。 3. 純物質の相平衡について理解できる。				

教育方法等	
概要	化学変化のもとになっている物理的な現象を理解するとともに、原子構造や物質の状態変化、それに伴うエネルギー変化を理解する。特に気体の性質と熱力学第一～第三法則を中心に詳しく学ぶ。
授業の進め方と授業内容・方法	物理的、化学的現象についての法則を学び、関係する式を用いて計算を行う。その結果をもとにエネルギー量を求めたり化学的性質を予想する。適時章末問題の解説をおこなう。 なお令和3年度は新型コロナウイルス感染防止対策として遠隔授業(オンライン授業)で実施する場合もある。
注意点	法則を理解し物質の様々な現象の予測を説明できるとともに、計算に当たっては単位や有効数字に常に留意すること。また授業では必ず電卓を用意する事。
事前・事後学習、オフィスアワー	
開講前の準備学習として、化学IIで学んだ気体の諸性質について復習しておくこと。	
オフィスアワー: 基本的に講義日の午後2時半～午後5時とするが、教員室に在室の際はいつでも対応するので気軽に質問等に来ること。またメールやTeams等でも随時受け付ける。	

85

各授業の初回にはシラバスに基づいて説明を行い、達成目標、成績評価などについて学生に周知している。



NIT -Tsuruoka

授業計画			
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
1stQ	1週	基本概念	物理量・化学量およびSI単位について理解できる。
	2週	状態方程式1	状態方程式を用いた計算ができる。
	3週	状態方程式2	混合気体の分圧や物質量を計算できる。
	4週	気体運動論モデル	気体運動論モデルの概念を理解でき、気体分子の平均速度を求めることができる。
	5週	実在気体1	分子間力相互作用、臨界状態および圧縮因子の説明ができる。
	6週	実在気体2	実在気体の状態方程式を用いた計算ができる。
	7週	中間試験	
	8週	熱力学第一法則1	仕事、熱および熱容量の計算ができる。

評価割合						
	前期中間試験	前期末試験	後期中間試験	学年末試験	課題提出	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	100
基礎的能力	5	5	5	5	0	20
専門的能力	15	15	15	15	20	80
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

86

5-3



NIT -Tsuruoka

準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)並びに卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。

5-3-①、②

- 授業の初回に単位認定の基準を示している。
- 学則及び「学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規程」として定められ、**学生に配布される学生便覧によって学生に周知**されている。
- 前期末及び学年末に試験解説指導期間を設けるとともに、**全科目の試験答案や総合成績評価表を保存**し、毎年適切に評価が行われていることを点検・確認している。
- **進級判定会議及び卒業判定会議**に関して、内規に定められているとおり教員会議によって厳正に評価し認定及び判定がなされている。

87

【基準6.準学士課程の学生の受入れ】



88



入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。

6-1-①

入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）

- 技術や科学に関心があり、社会に貢献する技術者、研究者への夢を抱いている人
- 学習意欲が高く、数学、理科、国語、社会、英語の基礎力が備わっている人
- 何事にも粘り強さと責任感を持って積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人
- 「ものづくり」に対する専門的知識を身に付けて、将来、課題解決のために活動するリーダーとなることを志す人



- 入学者の受入れに関する方針に沿って、入学者選抜方法として推薦選抜、帰国子女特別選抜及び学力選抜を採用しそれぞれの選抜方法を定めている。本選抜方法にそって入試委員会により入学者を決定している。



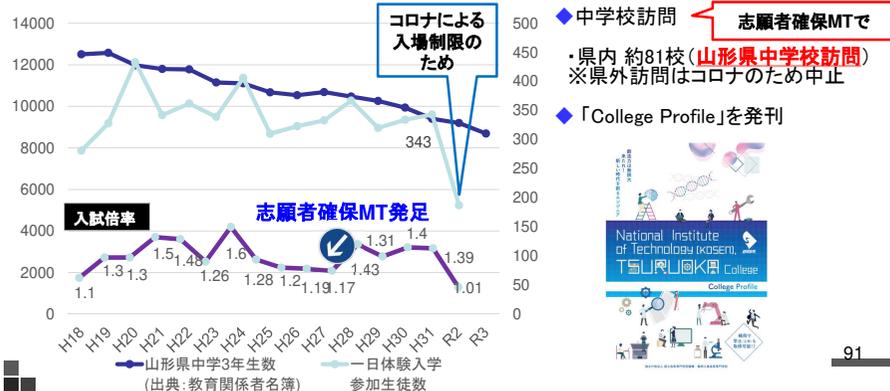
「**学生募集要項**」と入学者選抜（推薦・帰国子女／学力）試験実施要項、入学者選抜に関する申し合わせに選抜方法が明示され、**入試委員会**と**運営会議**により入学者を決定している。

入学者受入方針の検証



入試分析を毎年4月に入試委員会において実施
 <令和3年度検討項目>
 1. 推薦選抜の募集人員割合及び推薦基準の検討
 2. 募集要項願書の見直し
 3. 口頭試問の見直し 等

志願者確保マーケティングチームによる志願者確保



入学定員と実入学者数との関係の適正化



- 学則（学則第7条；学生便覧p7）に入学定員は**創造工学科160人**と定めている。
- 入学者選抜方式として定められた選抜方法により、実入学者数は、定員と同じ数である。推薦選抜試験については、面接方法、口頭試問実施方法など、毎年度、入試委員会で改善を図っている。

【基準 7. 準学士課程の学習・教育の成果】

93

7-1



卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育の成果が認められること。

卒業認定の方針(ディプロマ・ポリシー)

- (A) 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける。
- (B) 幅広い教養と技術者・研究者としての倫理を身につける。
- (C) 〇〇の基礎としての数学など自然科学の基礎学力を身につける。
- (D) 専門分野の知識と情報技術を身につける。
- (E) ものづくりに関する幅広い対応能力を身につける。
- (F) 論理的表現力と外国語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。
- (G) 〇〇分野を主とした幅広い知識と技術を活用して、実験・実習による実践力を身につける。

※〇〇：機械工学(M)，電気電子工学(E)，情報工学(I)，化学及び生物学(B)

94

ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果の確認

NIT-Tsuruoka
7-1-①

- 本校では、学生の成績評価・卒業認定の結果を、把握・評価する体制が整備され、実行され、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められる。
- 体制は、ディプロマ・ポリシーに基づいて授業科目系統図が設定され、授業科目シラバスに基づいて、科目担当者が、科目毎の成績を評価し、内規に基づいて、教員会議の議を経て校長が、卒業を認定する。
- 教員会議議事録、卒業判定資料、取得単位一覧から、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められる。

95

卒業生時・卒業生を対象としてアンケート

7-1-② NIT-Tsuruoka

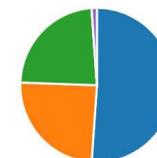
卒業時学生を対象としたアンケートと、卒業生を対象としたアンケートを実施

平成31年3月実施

7. 【A. 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力について】 職場では多様な関係者とチームで課題を解決する能力が必要とされますか。

詳細

● 大いに必要	46
● ある程度必要	22
● どちらとも言えない	21
● あまり必要ない	0
● 全く不要	1



必要性を感じる割合(必要性と表記)と役に立っていると感じる割合(実用性と表記)に整理することで、卒業時の感覚と就職・進学後の感覚(充足率)に大きな差の見られる項目があった。これはいわゆる、「世の中に出てから実感する本校の教育の価値」と読み替えられるものである。また、卒業後の回答で必要性に対する実用性の充足率が高い項目ほど、「高専で学んだことが役に立っている」と実感している項目に対応する。

「数学、自然科学の基礎学力と実験・実習による実践力」の評価が高い。
→卒業前後の充足率がいずれも90%以上
「論理的表現力と英語力について」の評価は芳しくない。

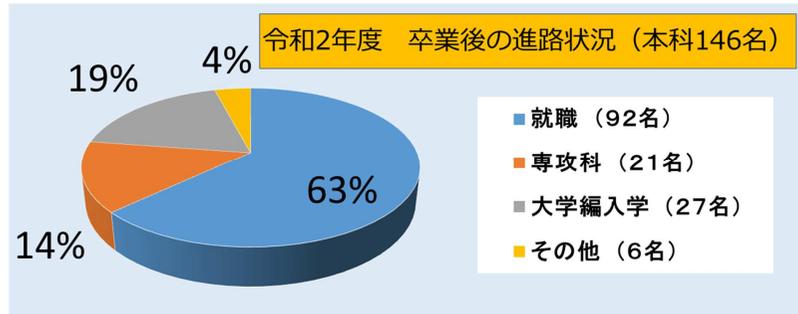
96

卒業後の進路の状況



NIT - Tsuruoka
7-1-③

本校では、就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められ、各コースの養成しようとする人材像に適したものとなっている。各コースに関連した産業は95%以上、各コースに関連した大学の学部は95%以上であり、各コースの養成しようとする人材像に適したものとなっている。



97

就職内定先の一例 (R4.1月現在)



NIT - Tsuruoka

県外

トヨタ自動車東日本
アマゾンジャパン合同会社
JR東日本メカトロサービス
キリンビール
サントリーホールディングス
JX金属
三菱ケミカル
アイリスオーヤマ
日立ビルシステム
東日本旅客鉄道
パナソニックシステムソリューションズジャパン
東日本高速道路
浜松ホトニクス
第一三共ケミカルファーマ
日本ゼオン川崎工場

県内

ヨロズエンジニアリング
東北エプソン
オリエンタルモーター
東北東ソー
東和薬品
JVCケンウッド山形
アライドマテリアル
東北電機鉄工
水澤化学工業
TDK庄内
シンクロン鶴岡工場
日新製薬
マーレエンジンコンポーネンツジャパン
ASEジャパン
日情システムソリューションズ

98

大学進学先の一例 (R4.1月現在)



NIT - Tsuruoka

鶴岡工業高等専門学校 専攻科

長岡技術科学大学	群馬大学
豊橋技術科学大学	埼玉大学
北海道大学	岡山大学
東京農工大学	弘前大学
筑波大学	室蘭工業大学
京都工芸繊維大学	北見工業大学
千葉大学	新潟工科大学
新潟大学	慶應義塾大学大学院
山形大学	電気通信大学
秋田大学	九州工業大学
北陸先端科学技術大学院大学	
奈良先端科学技術大学院大学	

99

【基準8.専攻科課程の教育活動の状況】

100

8-1 教育活動の視点



- 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。

101

8-1 教育課程・授業形態



広い視野を持ち、多様な価値観を理解できる能力

- 社会や環境に対する問題意識と倫理観を涵養する「環境化学」、「技術者倫理」

R1.10.4

第1回技術者倫理ワークショップ(鶴岡市職員研修会館)で、社会人とのコミュニケーションから学ぶ(専攻科1年生全員)



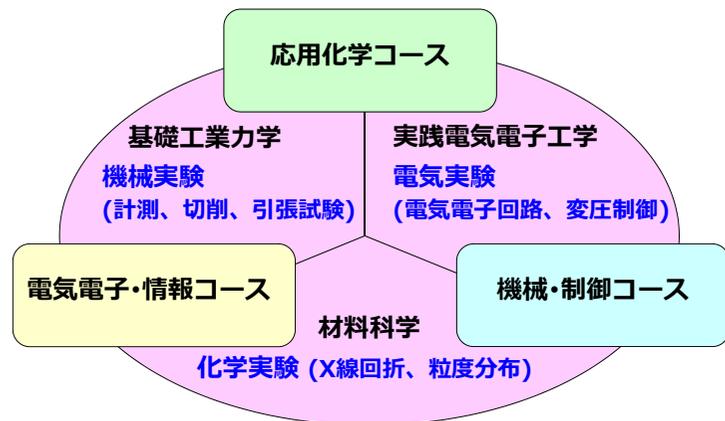
- 「総合実践英語」、「日本学特論」の教養教育
- 先端科学技術を紹介する「総合技術論」
 - 非接触給電技術の最前線(東北大学-教授)
 - 海洋研究開発機構(JAMSTEC)の研究活動(主任技術研究員)
 - ドローンの現状と課題(JAXA-チーフエンジニア)など

102

8-1 教育課程・授業形態



- 工学基礎科目の必修(技術者倫理、データ解析、経営工学、総合技術論)
- 他分野の専門基礎や実験技術の修得(融合複合科目、専攻科実験)



103

8-1 教育課程・授業形態



自ら考え計画し、能力を総合的に発揮して問題を解決できる能力

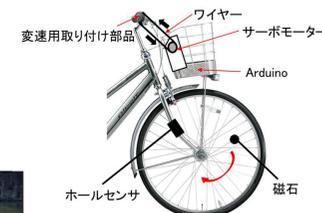
- グループワークによる課題発見と解決(実践的デザイン工学実習)
- 専門課題解決(創造工学実習)
- 「インターンシップ」での就業体験と報告会

専攻科1年必修



地域を知って地域に貢献

「実践的デザイン工学実習」
飛島でのフィールドワーク(漂着ゴミ収集装置) 海洋汚染のマイクロプラスチック削減の取組み



「創造工学実習」

チーム力と創造力の育成

104

8-1 教育課程・授業形態



NIT -Tsuruoka

専門分野に加えて基礎工学をしっかり身につけた生産技術に関わる幅広い対応力

令和3年度の学会発表件数 23件

国際会議等 4件

国内学会 19件

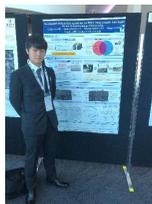


地域企業参加型-専攻科研究Ⅰ R4.1.19



第29回日本MRS年次大会 R1.11.27-29

奨励賞(ACコース2年 渡会祐馬君)



国際会議UMRS-IGA2019 R1.9.22-26

ポスター発表(ACコース2年 佐野綾哉君)

105

8-1 教育課程・授業形態

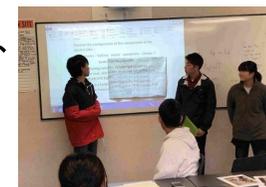


NIT -Tsuruoka

英語力を含めたコミュニケーション力

・海外短期留学(1~2カ月)
シンガポール、ニュージーランド、ベトナム、タイ、台湾、南米・メキシコ、フィンランド、フランス

・海外インターンシップ(3週間~)
フィンランド、シンガポール(トビタテ! 留学JAPAN)



ニュージーランドでの研修成果発表

・英語力の強化

専攻科研究の英文要旨、英語プレゼンの推奨

学内での国際交流活動

TOEIC受験の義務化

R3.1月 1年生のTOEICスコアの平均396

最高点605, 最低点230

全員が450点クリアを目標

106

8-1 成績評価・単位認定・修了認定



NIT -Tsuruoka

- 専攻科CPに基づく成績評価・単位認定基準
- 専攻科委員会において修了認定基準を策定
- 新入生ガイダンス(入学式)、学生便覧等で学生へ周知
学生便覧:「専攻科の授業科目の履修等に関する規程」他
- 専攻科委員会において成績評価・単位認定・修了認定

修了に必要な要件(R3 学生便覧より)

コース名	一般科目		コース専門科目		共通専門科目		計
	必修	選択	必修	選択	選択	必修	
機械・制御 コース	4	2以上	8	12以上		36	62以上
電気電子・情報 コース	4	2以上	8	12以上		36	62以上
応用化学 コース	4	2以上	4	16以上		36	62以上

107

8-2 教育活動の視点



NIT -Tsuruoka

- 専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー : AP) に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。

108

8-2 入学者受入方針（アドミッションポリシー）



NIT-Tsuruoka

- (1) 科学技術への関心が高く、研究に対して意欲がある人
- (2) 発想に独自性があり、チャレンジ精神に富んだ人
- (3) 技術や科学の専門基礎力を有し、開発型の実践的な技術者や研究者を目指す人

109

8-2 適切な入学者選抜方法



NIT-Tsuruoka

- ・推薦選抜
面接（口頭試問含む）、推薦書、調査書等の総合判定
- ・学力選抜
学力試験、面接（口頭試問含む）、TOEICスコア、調査書等の総合判定
- ・アドミッションオフィス（AO）選抜
面接（研究プレゼンテーション、口頭試問含む）、取り組み報告書、自己推薦書、調査書等の総合判定
- ・社会人推薦選抜
面接（口頭試問含む）、調査書、推薦書の総合判定

110

8-2 入学定員充足率



NIT-Tsuruoka

入学定員と実入学者数

入学年度	入学定員	入学者数	入学定員充足率	入学定員に対する平均比率
H28	16	20	1.25	1.27
H29	16	23	1.43	
H30	16	18	1.12	
R1	16	16	1.00	
R2	16	24	1.50	
R3	16	21	1.31	

111

8-3 教育活動の視点



NIT-Tsuruoka

- ・ 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー：DP）
に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。

112

8-3 修了認定の方針（ディプロマ・ポリシー）



NIT -Tsuruoka

1. 養成する人材像

多様な価値観と広い視野を持ち、高度・多様化する先端技術とグローバル化に対応できる実践的で創造力豊かな開発型技術者

2. 達成すべき学修成果

専攻科課程の学生は、下記の普遍的に有用性を持つ能力および専門分野に固有の知識・技術を学修成果として達成するものとする。

- (1) 広い視野を持ち、多様な価値観を理解できる能力
- (2) 自ら考え計画し、能力を総合的に発揮して問題を解決できる能力
- (3) 専門分野に加えて基礎工学をしっかりと身につけた生産技術に関する幅広い対応力
- (4) 英語力を含めたコミュニケーション力

3. 修了要件

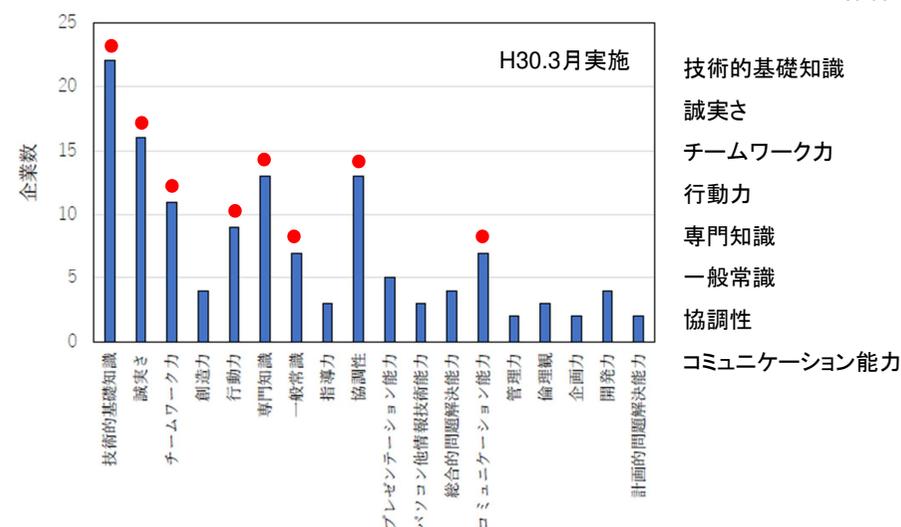
専攻科の一般科目、共通専門科目、およびコース毎の専門科目を履修し、所定の単位取得要件を満たして専攻科の学習・教育目標を達成した者は、上記2. の能力を身につけているとして修了証を授与する。

113

8-3 修了生就職先アンケートの結果



NIT -Tsuruoka



114

8-3 DPから見た教育成果（就職）



NIT -Tsuruoka

・学校推薦と自由応募

・本科と同じ就職支援体制

青色：R3年度

求人倍率：R2年度(772社) 68.9倍

R3年度(682社) 56.6倍 (R2.12月現在)

内定率：100%(県内就職率 40%)

庄内地区：東北東ソー化学、オリエンタルモーター、東北エプソン、TDK庄内
 内陸地区：ミクロン精密、エンデベッドソリューション、東和薬品、チノー
 県外：ENEOS、パナソニックアプライアンス、富士フィルムメディカル
 三井化学分析センター

など

115

8-3 DPから見た教育成果（大学院への進学）



NIT -Tsuruoka

・一般入試の他に推薦制度や専攻科特別推薦枠あり

・複数校の受験が可能(5月～9月、二次募集もあり)

青色：R3年度

・進学者：R1年度 4名、R2年度 4名、R3年度 10名

本科からの継続的な研究と実績を高く評価

大学院：東北大学、山形大学、筑波大学、埼玉大学、豊橋技術科学大学、
 慶応義塾大学、北陸先端科学技術大学 など

116



修了年度	学位取得者	修了者	学位取得率 %
H27	24	25	96
H28	24	24	100
H29	20	20	100
H30	22	22	100
R1	18	18	100
R2	16	16	100

ディプロマポリシーに沿った学習・教育・研究の成果が認められる。

【選択的評価A 研究活動等の状況】

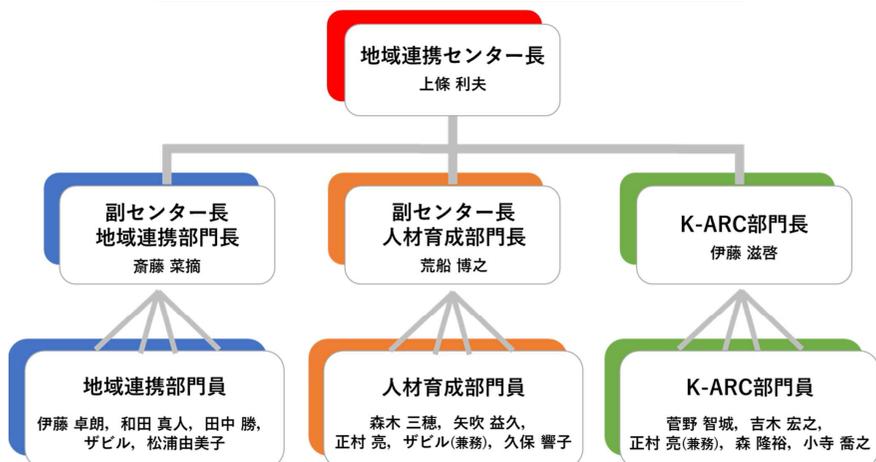
高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。



令和3年 地域連携センターの体制



副校長（研究・地域連携担当） 1名



地域連携センターの規程



鶴岡工業高等専門学校地域連携センター規程

制定 平成26年3月31日
最終改正 平成28年2月3日

（趣旨）

第1条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第7条第2項及び第8条第4項に基づき、地域連携センター（以下「センター」という。）の組織及び運営等に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第2条 センターは、地域企業等との技術・研究交流及び地域の中小高等学校に対する科学技術教育を推進することにより、地域社会の発展に寄与するとともに、地域企業等と連携して学生のキャリア教育を推進することにより、鶴岡工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究の充実発展に資することを目的とする。また全国の高等専門学校（以下「全国高専」という。）の研究拠点として、高専の持つ「ものづくり技術」を駆使して先端科学の社会実装を担う。

鶴岡高専, 研究活動の目的と基本方針・活動方針等



R2制定, R3改定

研究活動 点数(数値化)で振り返り

NIT - Tsuruoka

(目的)
鶴岡工業高等専門学校(以下「本校」という。)における研究活動は、学生への教育内容の充実や社会貢献、自己研鑽等に寄与することを目的とする。

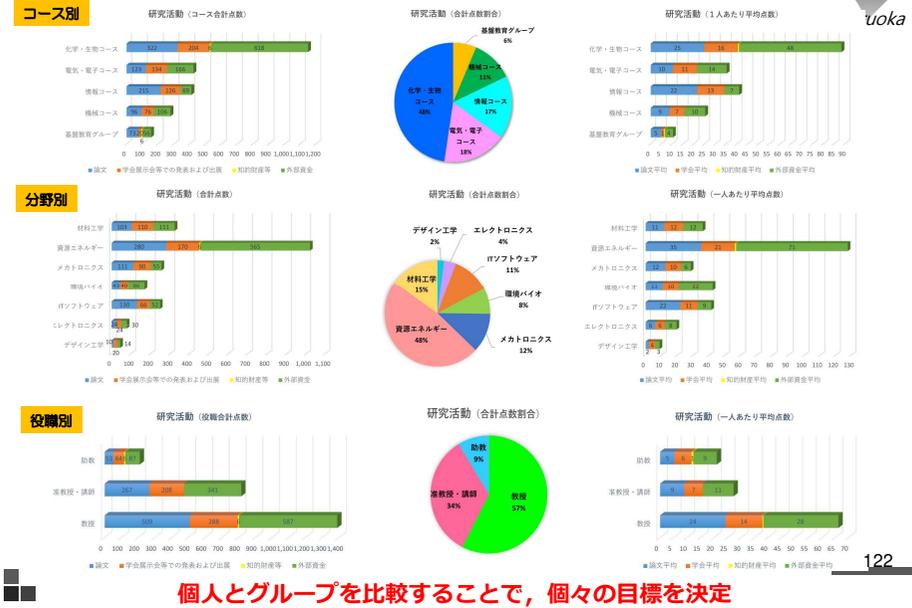
(基本方針)
本校の学則で定めた目的及び関係法令に則り、教育水準の維持向上・学術進展への即応、共同研究を通じた社会貢献等の総合的な研究(以下「研究活動」という。)を行うに当たり、次に掲げる方針を定める。
1 教員は、上記の目的を達成するために、必要な研究活動を行わなければならない。
2 教員は、上記の目的を達成及び研究意識の向上のため、全教員が科研費申請を行うことを原則とする。
3 教員は、研究成果を卒業研究のほか、学会やシンポジウム等での発表など教育活動に寄与するよう努めなければならない。

(活動方針)
研究活動の基本方針に基づき、本校で研究活動をするものには以下に掲げる活動方針を定める。
1. 研究活動の倫理性
人権やプライバシーを守り、個人情報の保護及び著作権の取扱いには十分注意する。また、法令等で定められた倫理規範と関係規程等を遵守し、不正行為を行ってはならない。
2. 研究活動の公開性
研究成果を、論文や特許等の知的財産または著書として明文化し、researchmapにより公表しなければならない。
3. 研究成果の帰属
研究によって得られた知的財産は、原則として本校に帰属する。研究者は知的財産に関わる研究成果の公表や特許の出願等について関係規程等を遵守する。
4. 研究費の使用
研究者は、研究費の使用に当たっては、法令や関係規程等を遵守する。
5. 研究成果の利用促進
支援を受けた研究又は開発から生じた発明及び知見を公共利益に活かし、その社会実装に努める。
6. 外部機関との協働
自治体、民間企業、大学等高等教育機関および国立研究開発法人、その他非営利団体と良好な関係を築き、研究活動を効率的に遂行するように努める。
7. 利益相反の回避

(活動目標)
研究活動の基本方針に基づき、以下に掲げる1~4の活動項目において年間2.0点以上(研究費運営をしていない教員は年間1.0点以上)となるよう実施することを目標とする。

- 論文発表 ※「要エビデンス」
 - 1) 査読有り論文(英語): [10点/件] ※基本点10*IF(IFが1以下の場合は1)
 - 2) 査読有り論文(日本語): [8点/件] ※基本点8*IF(IFが1以下の場合は1)
 - 3) 査読無し論文(日本語): [8点/件]
 - 4) 査読無し論文: [5点/件]
 - 5) 著書: [6点/件]
 - 6) 鶴岡高専紀要: [2点/件]
 - 7) 論文査読経験: [5点/件]
- 学会・展示会等での発表および出展 ※「要エビデンス」
 - 1) 国内学会でのポスター発表: [2点/件]
 - 2) 国内学会での口頭発表: [4点/件]
 - 3) 国内学会での招待講演: [6点/件]
 - 4) オポソール・フォーラム、成果報告会などの発表: [4点/件]
 - 5) 国際会議での発表: [6点/件]
 - 6) 国際会議でのポスター発表: [4点/件]
 - 7) 国際会議での招待講演: [8点/件]
 - 8) 学協会からの表彰: [6点/件]
 - 9) 展示会への出展: [4点/件]
 - 10) 学生の学会発表指導: [4点/件]
- 知的財産等 ※「要エビデンス」
 - 1) 高専機構/鶴岡高専での産業財産権出願: [6点/件]
 - 2) 産業財産権出願: [6点/件]
 - 3) 産業財産権取得: [8点/件]
- 外部資金 ※「要エビデンス」
 - 1) 科研費(採択) [採表 8点/件]、[採担 4点/件] (申請 ※査読チェック後の修正版) [代表 4点/件]、[分担 2点/件]
 - 2) JST等の補助金: (採択) [採表 6点/件]、[採担 3点/件] (申請) [代表 3点/件]、[分担 1点/件]
 - 3) 各省市の助成金: (採択) [採表 8点/件]、[採担 4点/件] (申請) [代表 4点/件]、[採担 1点/件]
 - 4) 助成金等: (採択) [採表 4点/件]、[採担 2点/件] (申請) [代表 2点/件]
 - 5) その他競争的外部資金: (採択) [採表 4点/件]、[採担 2点/件] (申請) [代表 2点/件]

教員研究活動記録(3パターンで集計結果を開示)



魅力ある学校として鶴岡高専の10年ビジョン



地域から羽ばたくグローバルエンジニアの育成

◆研究する高専

- ・研究と教育は両輪(K-ARC)
- ・研究成果の教育へのフィードバック

◆地域に貢献する高専

- ・地域を知ること(講義とCO-OP教育)
- ・卒業生の地元就職
- ・融合複合技術分野へのアプローチ

◆国際通用性を持ったエンジニアを育成する高専

- ・海外研修、学会発表(国際交流支援室)
- ・英語力強化



①学科再編、②研究と教育の連携

K-ARC: 高専機構の研究拠点として



K-ARCの新構成 (R3運用)



トライボマテリアル エナジーマテリアル バイオマテリアル



教員・職員・学生・地域住民が
遊びながら科学・技術を学べる
オープンスペースとして活用

遊んで学べる・自分も作れる
をコンセプトに



鶴岡高専 in マインクラフト 非接触UFOキャッチャー VR体験コーナー
VR/バーチャルリアリティ シミュレーション体験コーナー 新奇材料体験コーナー ドローン体験コーナー

遊んで学べる高専ならではの知育の場 として地域に貢献
継続的な運営のため、**教育系の外部資金獲得や企業との連携**を目指す

令和4年度 文部科学省概算要求のポイント



https://www.mext.go.jp/content/20210827-mxt_kouhou02-000010167_1.pdf

令和4年度要求・要望額 732億円 + 事項要求
(前年度予算額 624億円)

国立高等専門学校の高度化・国際化

高専60周年を迎えるにあたり、我が国のものづくりを支える高専の高度化・国際化を強力に推進

<p>方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Society5.0を先導し、社会的ニーズに対応した人材を育成するための 高専教育の高度化 ○ “KOSEN”の海外展開と海外で活躍できる技術者育成による 国際化の推進 ○ 「ものづくり」を先導する人材育成の場にあふらしい 設備の整備 	<p>高度化</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高専発！「Society5.0型未来技術人材」育成事業 <ul style="list-style-type: none"> ・1法人51高専の組織特性を活かし、AIと他分野を融合し課題解決につながる人材育成体制を構築 ・これまでの介護・医工、防災・防疫等に加え、農水、エネルギー・環境分野の拠点整備への拡大を予定。 ◆ イノベーションを起こすものづくり人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・設計から製品化までデジタルで完結するものづくり教育への対応とともに、その技術を生かした起業家教育等を実施。 ◆ 社会ニーズを踏まえた高専教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズが高いが人材不足の情報セキュリティ、航空技術者、海洋に係る人材育成を引き続き推進。 ◆ 学生の学びの基盤となるサポート体制強化 <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー等の専門職の全校配置や、学生支援におけるDX活用により、学びをサポート。 	<p>国際化</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ KOSENの海外展開と国際標準化 <ul style="list-style-type: none"> ・重点3カ国（モンゴル・タイ・ベトナム）における高専制度導入支援を継続 ・新たに留学先の本国語教育体制を強化 ・KOSENの国際的な質保証に向けて、教材開発、教員育成等の国際的モデルづくりを推進 ◆ 海外で活躍できる技術者育成 <ul style="list-style-type: none"> ・海外インターンシップや単位互換協定校への留学を一層推進する体制を構築 	<p>設備整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高度設備の共同利用拠点の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・特に高度な設備を拠点校に導入し、デジタル技術など幅広い分野に活用し、遠方の高専からも利用可能とするなど、効率的に高専教育の高度化を図る。 ◆ 学習環境の基盤となる設備整備 <ul style="list-style-type: none"> ・安全性の観点から老朽設備を更新 ・機能の高度化に資する先端設備の整備
<p>練習船更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大島商船高専練習船「新大丸」、弓削商船高専練習船「新弓削丸」の建造 <ul style="list-style-type: none"> ・代船建造により学生等の安心安全な教育環境の整備を行い、新たな設備等の搭載により産業界が求める海洋人材の高度化を図る。 		<p>整備イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年計画で整備 ・船舶に関する法令対応、女性に配慮した設備整備、遠隔地対策、災害支援機能の充実 	

GEAR 5.0 (未来技術の社会実装教育の高度化)



高専発！「Society5.0型未来技術人材」育成事業

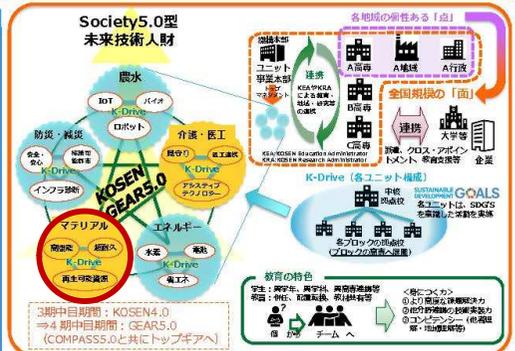
①GEAR5.0 未来技術の社会実装教育の高度化

背景

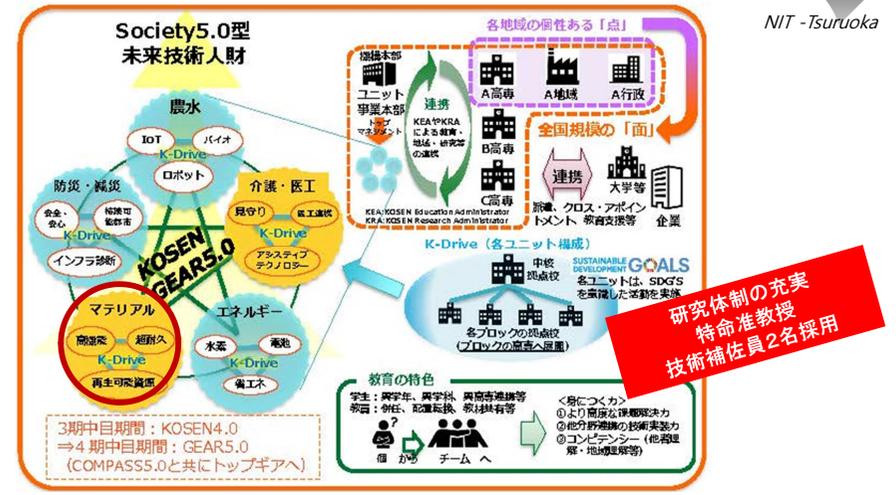
- 各高専は、3期中目期間までに各専攻分野毎に共通の教育の質保証、地域特性等を踏まえた特色形成を進め、各地域の個性ある「点」（種子）として特色ある教育を展開する体制を整えた。
- 4期中目期間は、地域密着型・課題解決型・社会実装型など従来型の高専としての特長を活かしつつ、Society5.0時代の未来技術の核となる**人材育成**という、より大きな経済社会の要請に応えるため、51国立高専＝1法人の組織特性を最大限に活かし、法人のトップマネジメントの下、体制の変革を図る。具体的には、オール国立高専及び広範な企業・自治体・大学等との連携体制という全国規模の「面」（基盤）としての体制の下、**高専だからこそできる人材育成の質的転換を図る。**

目的 Society5.0により実現する未来技術の時代をリードする、高専発！の未来技術人材育成モデルを開発・展開する。

- 事業特色**
- 1. クロスオーバー型**
全国51高専＝1法人のスケールメリットを最大限に活かし、オール国立高専の強みを駆使した新たな人材育成モデルを構築する。
 - 2. オープン・イノベーション型**
企業、大学、研究機関等と幅広く連携し、事業への参画・支援を得て、ユーザーサイド視点も取り入れた効果的な人材育成を目指す。
 - 3. トップマネジメント型**
高専機構本部が司令塔となり、社会の要請を踏まえつつ、機動的に実装体制の構築と事業管理を行う。
 - 4. 高専教育の強みの発揮**
高専教育がその特長とする**地域密着型・課題解決型・社会実装型**手法を活かす。



R2採択 GEAR5.0/マテリアル K-Drive



- ◆ **マテリアル分野**：中核拠点校 **鈴鹿高専** 協力校 **鶴岡高専、小山高専、呉高専、大分高専**
- ◆ **介護・医工分野**：中核拠点校 **熊本高専** 協力校 **函館高専、長野高専、富山高専、徳山高専**

学生の外部発表での功績



R3 学外の発表 50件以上



設計工学会東北支部設立45周年記念研究発表講演会

学生優秀発表賞

本間飛翔

「形状記憶ゲルの粘着力を用いた把持装置の開発」

東北・北海道地区高等専門学校専攻科産学連携シンポジウム



特別賞(会長賞)

庄司伶太

「イオン液体とナノ粒子の複合によるトライボロジー特性への影響」

MRS-J 主催：日本MRS 後援：横浜商大

第31回日本MRS年次大会
2021年12月13日(月)～15日(水)
https://www.mrs-j.org/meeting2021/jp/

【総合テーマ】With/Afterコロナウイルス時代のマテリアルズイノベーション強化：マテリアルDXとプロセスイノベーション
横浜みなとみらい国際コンベンションセンター
パシフィコ横浜/ノース
http://www.pacifico.co.jp/

開催方法 リアル開催を予定していますが、オンライン参加も(予定)

開催趣旨 リアル開催を予定していますが、オンライン参加も(予定)

申込受付 8月22日

奨励賞

矢嶋 祐介

「IT-SOFCアノード用のブラウンミラライト酸化物アノード反応活性助触媒の電気的特性と電極性能」

佐藤 瑠星

「PEFC用電解質への応用に向けたプロトン性イオン液体型ポリマーの合成および電気的特性評価」

G-CON



私たちには、技術がある。未来は変えられる



SDGs (持続可能な開発目標)の観点から、自分たちの研究やアイデアが社会課題解決に向けてどのように貢献できるかを競うコンテスト「高専GIRLS SDGs × Technology Contest」。

1月22日(土)に開催する本選では、一次審査を通過した12チームが出場。高専女子たちが培った技術とチャレンジが、今まさに未来を変えようとしています。



高専GIRLS SDGs × Technology Contest

本選 2022年1月22日(土) 13:00～16:45(予定) 日経チャンネルでライブ配信!
(https://channel.nikkei.co.jp/)

本選進出チーム

- | | |
|-------------------------------|---|
| 仙台高等専門学校 / Loss prediction | 奈良工業高等専門学校 / チームキャスター |
| 群馬工業高等専門学校 / Crane's Cell | 奈良工業高等専門学校 / MINA-SIYA |
| 群馬工業高等専門学校 / ネルンストに懸せられて | 米子工業高等専門学校 / B&C (@Biology&Chemistry) 研究同好会 |
| 富山工業高等専門学校 / うきくすابل | 北九州工業高等専門学校 / Nit@Kit イチゴLAB |
| 富山高等専門学校 / エシカルUNIT in TOYAMA | 佐世保工業高等専門学校 / ファインパブルLab. |
| 鈴鹿工業高等専門学校 / SUZUKA DRIVERS | 佐世保工業高等専門学校 / UNITS |

42チームから選出され、最終審査まで進出、オンラインで発表

【選択的評価B 地域貢献活動等の状況】

高等専門学校地域貢献活動等に関する目的等に照らし、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。

鶴岡高専、地域貢献の目的と基本方針・活動方針等



R2制定, R3改定

(目的)
鶴岡工業高等専門学校(以下「本校」という)における地域貢献活動は、本校の人材及び設備を活用することにより、地域の小中高等学校に対する科学技術教育を推進することにより、地域社会の発展に寄与するとともに、市民や地域企業等へ科学情報の提供によって地域社会に貢献することを目的とする。

(基本方針)
本校の地域貢献活動の目的及び関係法令に則り、本校の人材育成の成果を提供することで、地域社会の発展や、地域企業等の技術者教育の支援を行う。その際、人権やプライバシー保護等の倫理規範と関係規程等を遵守しなくてはならない。

(活動方針)
地域貢献活動の基本方針に基づき、以下に掲げる活動について本校の資源等を動員した上で実施する。

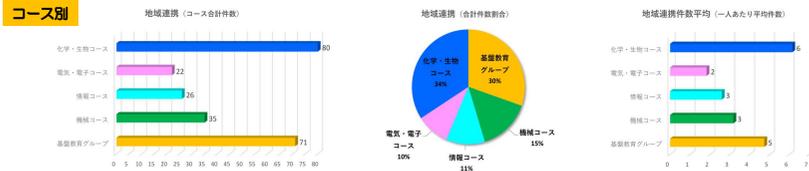
- 1 地域社会の課題に対する提言や支援活動
- 2 地域教育に対する講師(教員・技術職員・学生)の派遣
- 3 地域企業等の技術者教育支援
- 4 公開講座

(活動目標)
地域貢献活動の活動方針に基づき、以下の活動を通年で3回以上実施する。

- 1) 鶴岡高専技術振興会主催事業(市民サロン等)の講師
- 2) 公開講座の企画・立案
- 3) 公開・人材育成・出前講座等における講演
- 4) 有識者としての地域審議会等への参加
- 5) 地域主催事業・中学生一日体験入学・科学フェスタへの参加
- 6) CO-OP教育での企業訪問指導への参加
- 7) 地域企業訪問研修の引率
- 8) ボランティア活動の企画・立案
- 9) ボランティア活動への参加
- 10) 公的資格取得
- 11) 小中学校等への出前授業等の講師
- 12) 地域企業との共同研究の実施
- 13) 鶴岡高専技術振興会主催事業(ものづくり企業支援講座等)の講師
- 14) 地域産業振興の組織・事業への参加
- 15) 地域企業・山形県内からの技術相談(報告書付技術指導等)
- 16) 地域企業・山形県内からの技術相談(技術相談対応)
- 17) その他、地域貢献に関わる活動

地域貢献 回数で振り返り 3回を各教員の目標値に設定

教員研究活動記録(3パターンで集計結果を開示)



個人とグループを比較することで、個々の目標を決定

地域連携センター 年間の学外向け発表企画



企画	回数	全9回
市民サロン	2回	(9, 10月)
K-ARCシンポジウム	1回	(11月)
産業技術フォーラム	2回	(11, 12月)
地域企業参加型専攻科研究発表会	1回	(1月22日)
産学交流の日	1回	(3月10日)
産学連携セミナー	2回	(2, 3月)
+	庄内 知の拠点	1回 (12月)

鶴岡高専技術振興会
 鶴岡高専と地域産業界との連携を促進し、また、鶴岡高専の研究教育機能の充実支援を目的に、企業や市民を対象としたフォーラムの開催や鶴岡高専の研究活動に関する情報の提供などの各種事業を行っております。

・地域企業等との技術・研究交流 市民サロン

◎市民サロン→鶴岡高専と地域内研究機関等の研究者・技術者を講師に、各専門分野の最新情報をわかりやすく提供する市民講座です。どなた様もお気軽にご参加ください。



2021年9月10,21日 庄内日報掲載



第1講 鶴岡 講義内容:満足度 92%(39回答分)

参加者73名 (オンライン参加含む)

2021年9月18日(土) 10:30~12:15
 鶴岡市先端研究産業支援センター レクチャーホール
 (鶴岡市寛岸寺字水246-2) ※オンライン併催

- 10:35~ 講義1 「まちづくりはチャレンジ一筋めずに続けること」
 NPO法人公益のふるさと創り鶴岡 常務理事 阿部 等 氏
- 11:15~ 講義2 「知育・サイエンスを通したひとづくり、まちづくり」
 鶴岡高専 創造工学科 化学・生物コース 教授 上條 利夫

土曜の午前中に実施することで過去最高の参加数を達成!

・地域企業等との技術・研究交流 産業技術フォーラム

地域企業への有益な技術情報等を提供する事を目的に、専門家を招き鶴岡・酒田2会場で開催



第54回 酒田 講義内容:満足度 100%(31回答分)

参加者51名 (オンライン参加者含む)

2021年11月12日(金)15:30~17:00
 山形県立産業技術短期大学校 庄内校 ※オンライン併催



参加者の声
 会ってコミュニケーションが大切とトップの方の考えていることを知り、大変、納得しました。ありがとうございました。話が面白いのもっと聞きたかったです。

第55回 鶴岡 講義内容:満足度 52%(25回答分)

参加者59名 (オンライン参加者含む)

2021年12月7日(火)15:30~17:00
 マリカ市民ホール (鶴岡市東広町3-1 マリカ西館3階) ※オンライン併催



参加者の声
 建築に関する専門的なお話を聞くことができ、有意義なフォーラムだった。

例年 18:30開催 → 15:30開催

・小中高等学校に対する科学技術教育
訪問実験, 科学フェスタ, 産業まつり



出前訪問実験 NIT - Tsuruoka
本校教職員が、山形県内の児童館・小学校・中学校へ訪問して、**H7より実施**、近年では毎年延べ**1500名以上**（コロナ禍のR2,R3でも2年間で**1500以上**）、これまでに延べ**31500名**を超える児童・生徒連に実験の原理や解説を含めた科学出前実験を実施



科学フェスタ

本校教職員が**H14より実施**、R2,R3は人数制限、時間制にて実施。これまで延べ**18700名以上**を超える児童連に科学に関する面白実験を実施

2021年
参加者 **360人**(人数制限、先着順)
満足度 **100%**
アンケート回収率 **100%**



2021/11/5 荘内日報掲載



2021/11/13 山形新聞掲載

産業まつり R2,R3中止

本校教職員が**H14より実施**、これまで延べ**17000名**を超える児童連に科学に関する面白実験を実施



K-ARCシンポジウム

主催：国立高等専門学校工業高等専門学校 / 共催：K-ARC拠点校長協議会、国立高等専門学校GARSO / 後援：鶴岡市

K-ARCシンポジウム2021
～今、考える・取り組むSDGsとサステナブルな社会実現のための研究～

2021年**11月24日**(水) 13:00～17:00
鶴岡市先端研究産業支援センター レクチャーホール
(山形県鶴岡市堤岸寺字水246-2)
定員：70名 ※新型コロナウイルス感染症予防のため事前申込みが必要となります
申込締切：11月17日(水)

13:10 基調講演
「社会を駆動する大学のSDGs」
京都先端科学大学 バイオ環境学部長・教授 福田 裕穂 氏

14:20 招待講演
「微細薬類/バイオマスの大規模生産とその社会実装に向けた取り組み」
筑波大学大学院 生命環境科学研究科 教授 鈴木 石根 氏

研究事例紹介
15:20 「GEAR50【脱炭・減炭・脱炭】の取組と学生生活者達SDGsの糧」
神戶工業高等専門学校 生物資源工学科 教授 田嶋 真由 氏
15:50 「材料の脱炭性、脱プラスチック、脱バイオプラスチックと、その詳細な・産業上の取組について」
鶴岡工業高等専門学校 材料工学科 教授 東松 浩行 氏
16:20 「バイオエコノミー社会の実現を目指す「鶴岡バイオコミュニティ」」
鶴岡工業高等専門学校 創造工学科 化学・生物コース 准教授 齋藤 誠博

お問合わせ
お申込み
鶴岡工業高等専門学校 総務課企画・連携係
TEL: 0235-25-9453 FAX: 0235-24-1840
E-mail: k-arc@nits-hiroshima.ac.jp

「今、考える・取り組むSDGsとサステナブルな社会実現のための研究」をテーマに、SDGs(持続可能な開発目標)や2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略について有識者からご講演



2021/11/18 荘内日報掲載 2021/12/2 山形新聞掲載



地域企業訪問研修

企業見学及び本校OB・OGと懇談。企業を知り進路選択に役立てる。 NIT - Tsuruoka



㈱オリエンタルモーター様の企業見学



㈱ソーシーセミコンダクタマニュファクチャリング様での本校OBとの懇談

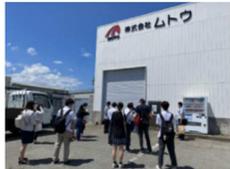
- ・庄内地方にある4社を訪問
 - ・参加学生 延べ26名
- 工場見学や本校OBとの対談により地元企業についてより深く学ぶ

講義内容: 満足度 94% (7回答分)

学生コメント: HPなどで一通り調べ、大まかな業務内容を見たが、実際に行ってみると雰囲気や現物を見たり企業の方の説明を聞いたりなどして、得られる情報が桁違いだった。OBの方々の話とてもためになった。リアルな企業の話や就職する際の助言、社会に出るまでにしておきたいことなどを聞いて良かったと思った。

最上・新庄地区企業見学バスツアー

講義内容: 満足度96% (16回答分)



㈱ムトウ様 見学の様子



山形東亜DKK(株)様会社内案内の様子 山形航空電子(株)様での本校OBとの懇談の様子

- ・最上新庄地方にある3社を訪問
 - ・参加学生 延べ20名
 - ・最上総合支庁、新庄市役所との連携により開催
- ((株)ムトウ、山形東亜DKK、山形航空電子)

学生コメント: どの企業でも、麗しの連続とても貴重な体験をすることができました。コロナ禍でこのような企業訪問も難しい中、参加することができて良かったです。資料だけでなく、実際にできることで様々なことを学ぶことができました。ありがとうございました。

学年横断型のキャリア教育の取り組み

総合工学Ⅱ・Ⅳ合同 「キャリアプラン」

2年生2名+4年生2名の4名1チーム編成、参加いただいた**48企業**の協力のもと、

- ①各参加企業の情報を掲載した特設サイトの調査
- ②各参加企業との対面+webインタビュー

様々な業種・企業について見識を深め、取材結果をポスターで成果発表、優秀賞を選出



キャリアプラン後、全学生からアンケートして集計(5段階評価)
キャリアプラン前後での企業に対する理解度の深まり: **4.3±0.9↑**
R2: **4.2±0.8**
自分が好む業界・企業の傾向に対する具体性の深まり: **3.9±1.0↑**
R2: **3.6±1.0**

← 2021/8/1 荘内日報に掲載された成果発表の様子



学生コメント: 「これまで学校の勉強が社会で何に役立つかわからないまま漠然と勉強してきたが、社会では考え、気づき、能動的に動くことが大事でそのための学びだと思えるようになった」「興味がある会社の求める人材像など、自分が聞きたいことを自由に聞けたので、就職するイメージがとても鮮明になった」

令和2年度運営協議会における各委員からの意見、要望等とその対応状況等について

【基準1】教育の内部質保証システム	対応状況等 (担当：教務主事)
<p>1-1-③ 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。</p> <p>【委員コメント】 田川中学校長会長に委員を委任するのではなく、代表として委員を選出することを校長会に一任していただきたい。</p>	<p>いただいたご意見に沿って、令和3年度と同委員は、田川地区中学校長会に適任者の推薦を依頼し、ご推薦いただいた方に委員を委嘱する手続きを採らせていただきました。</p>
【基準3】学習環境及び学生支援等	対応状況等 (担当：学生主事)
<p>3-2-⑥ 学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。</p> <p>【委員コメント】 教員数に応じた適切な対応がなされている。ただし、対応する教員数の不足による各種活動の抑制が感じられる。</p>	<p>高専体育大会（地区・全国）の担当種目のような業務過多になるクラブに対しては顧問教員を増員し、また比較的規模が大きいクラブ等に対しては協力教員を配置するなどして、普段の活動が抑制されることがないように対応させていただきました。 学生が安全安心な活動を行うために、引き続き指導ならびに支援体制を整えていきたいと思います。</p>
【基準5】準学士課程の教育課程・教育方法	対応状況等 (担当：教務主事)
<p>5-1-② 教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。</p> <p>【委員コメント】 課題として昨年同様英語力の向上が挙げられていますが、力を入れて向上されることを期待します。</p>	<p>今年度から、学校食堂で昼休みの時間に英国公共放送BBCのニュースをディスプレイから流し、英語が自然と耳に入ってくるような環境を作りました。 また、週に1度昼休みに外国人講師と学生がフリートークを楽しむ英会話レッスンを開催し、授業よりも気楽に英語に親しめる環境を作りました。</p>
【基準7】準学士課程の学習・教育の成果	対応状況等 (担当：教務主事)
<p>7-1-③ 就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。</p> <p>【委員コメント】 「数学、自然科学の基礎学力と実験・十種による実践力」に高い評価が得られている。一方で英語力については低い評価に留まることから、英語力の向上が図られることを期待します。</p>	<p>今年度から、学校食堂で昼休みの時間に英国公共放送BBCのニュースをディスプレイから流し、英語が自然と耳に入ってくるような環境を作りました。 また、週に1度昼休みに外国人講師と学生がフリートークを楽しむ英会話レッスンを開催し、授業よりも気楽に英語に親しめる環境を作りました。</p>

【基準 8】専攻科課程の教育活動の状況	対応状況等 (担当：専攻科長)
8-2-② 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。	
<p>【委員コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者へのアンケート調査の実施によりアドミッションポリシーへの適合がさらに改善されることを期待します。 ・今後の進捗に期待します。 	5年生を対象に実施した進路指導において、専攻科のアドミッションポリシーの理解を深めてもらえるよう説明を行いました。
8-3-③ 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	
<p>【委員コメント】</p> <p>域外就職後のUターン人材の地域定着の取組をより一層進められるよう期待する。</p>	現在、学校HPに鶴岡地区雇用対策協議会と連携したU・ターン就職情報提供窓口の案内を設けていますが、十分な支援体制とはなっていないと感じております。今後、卒業生のUターン等の希望に応えることができるよう、学内対応等の整備をしていきたいと思っております。

【選択的評価事項 A】研究活動の状況	対応状況等 (地域連携センター長)
A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	
<p>【委員コメント】</p> <p>補助金や科研費の獲得など高い実績を挙げられていると認識している。ただ、高専教員は教育と研究を併せて行うため、研究活動の進捗が遅れる可能性もあることから、高専機構においては、研究実績にみあった人的支援をお願いしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、高専機構において競争的研究費の直接経費からの研究以外の業務の代行（いわゆる「ハイアウト制度」）の運用指針が制定されました。本校におきましても、教員の研究時間確保の観点から、他高専や近隣国立大学等の利用実績や運用状況を踏まえ、規程の策定について準備を進めているところです。 ・R4文部科学省概算要求のポイントでも取り上げられている高専機構が進めているGEAR 5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）の事業にR2、R3と2年連続で鶴岡高専が採択され、教員2名（1名募集中）、技術補佐員3名を追加で雇用でき、教育・研究基盤が定着しつつあります。ただ、これは期限があるものであるため（現時点ではR5年度までの予定）、継続して教育・研究をフォローする人件費を確保する外部資金の獲得と、学内での予算措置ができる体制を整備していく予定です。人材については募集をかけても求めている人材が集まらないことも課題として出てきているため、人材確保できるPR活動も合わせて進めていく予定です。

入学試験実施状況（過去5カ年）

資料 5

令和4年2月17日
鶴岡高専運営協議会

(1) 本科

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	創造工学科	創造工学科	創造工学科	創造工学科	創造工学科
定員	160	160	160	160	160
志願者	228	209	224	222	162
受験者	225	209	224	222	162
入学者	160	160	160	160	160
倍率	1.43	1.31	1.40	1.39	1.01

(2) 編入学

区分	平成29年度					平成30年度					令和元年度					令和2年度					令和3年度				
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	物質工学科	合計	創造工学科				合計	創造工学科				合計	創造工学科				合計	創造工学科				合計
						機械	電気・電子	情報	化学・生物		機械	電気・電子	情報	化学・生物		機械	電気・電子	情報	化学・生物		機械	電気・電子	情報	化学・生物	
志願者	5	0	3	1	9	0	1	1	1	3	0	1	1	0	2	0	0	1	1	2	0	0	1	0	1
受験者	5	0	3	1	9	0	1	1	1	3	0	1	1	0	2	0	0	1	1	2	0	0	1	0	1
入学者	4	0	3	1	8	0	1	1	1	3	0	1	1	0	2	0	0	1	1	2	0	0	1	0	1

(3) 専攻科

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	生産システム工学専攻	生産システム工学専攻	生産システム工学専攻	生産システム工学専攻	生産システム工学専攻
定員	16	16	16	16	16
志願者	27	28	23	39	45
受験者	27	23	23	33	45
入学者	23	18	16	24	21
倍率	1.69	1.75	1.44	2.44	2.81

入試説明会等実施状況（過去5カ年）

1 中学校訪問

年度	県内	県外	合計	備 考
29	88	33	121	宮城県22校, 秋田県11校
30	66	56	122	宮城県23校, 秋田県13校, 新潟県20校
令1	89	48	137	宮城県18校, 秋田県13校, 新潟県17校
令2	82	0	82	新型コロナウイルスの影響により県内中学校のみを対象に訪問を実施。
令3	81	0	81	新型コロナウイルスの影響により県内中学校のみを対象に訪問を実施。

2 高等学校訪問

年度	県内	県外	合計	備 考
29	0	0	0	
30	0	0	0	
令1	0	0	0	
令2	0	0	0	
令3	0	0	0	

3 入試説明会（中学校教員対象）

年度	県内	県外	合計	備 考
29	3	1	4	山形市, 新庄市, 鶴岡市, 仙台市
30	3	1	4	山形市, 新庄市, 鶴岡市, 仙台市
令1	3	1	4	山形市, 新庄市, 鶴岡市, 仙台市
令2	3	0	3	山形市, 新庄市, 鶴岡市 (新型コロナウイルスの影響により県内のみを対象に実施。)
令3	3	0	3	山形市, 新庄市, 鶴岡市 (新型コロナウイルスの影響により県内のみを対象に実施。)

4 学校説明会（中学生及び保護者対象）

年度	県内	県外	合計	備 考
29	8	3	11	山形市, 米沢市, 新庄市, 酒田市, 鶴岡市(4回), 仙台市, にかほ市, 由利本荘市
30	6	2	8	山形市, 米沢市, 新庄市, 酒田市, 鶴岡市(2回), 仙台市, 由利本荘市
令1	6	1	7	山形市, 米沢市, 新庄市, 酒田市, 鶴岡市(2回), 仙台市(新発田市中止)
令2	0	0	0	新型コロナウイルスの影響によりオンライン上での動画公開に変更。
令3	6	0	6	山形市, 米沢市, 新庄市, 酒田市, 鶴岡市(2回), オンライン説明会 (新型コロナウイルスの影響により県内及びオンラインにて実施。)

5 中学校主催高校（高専）説明会（中学生対象）

年度	県内	県外	合計	備 考
29	13	0	13	鶴岡市9, 三川町, 庄内町, 酒田市2
30	14	0	14	鶴岡市8, 三川町, 庄内町1, 酒田市2, 長井市, 白鷹町
令1	15	0	15	鶴岡市6, 三川町, 酒田市4, 村山市1, 尾花沢市1, 南陽市1, 長井市1
令2	8	0	8	鶴岡市3, 酒田市4, 村山市1
令3	11	0	11	鶴岡市4, 酒田市6, 尾花沢市1

6 中学生一日体験入学参加者数（中学生, 保護者及び中学校教員対象）

年度	生徒	保護者	教員	合計	備 考
29	320	167	0	487	
30	334	195	3	532	
令1	343	209	0	552	
令2	188	133	0	321	新型コロナウイルス感染対策として定員を制限して実施。
令3	184	139	0	323	新型コロナウイルス感染対策として定員を制限して実施。

卒業生進路状況（本科）

資料 7-1

令和 4年 2月17日
鶴岡高専運営協議会

平成29年3月卒業生進路状況調

上段：（）は女子で内数

学 科 名	卒業生数	進 学 希望者数	就 職 希望者数	進学者数	就職者数	就職者内訳		その他 自 営	求人数	求人倍率
						県内	県外			
機 械 工 学 科	(2) 42	() 13	(2) 28	() 13	(2) 28	() 6	(2) 22	() 1	402	14.4
電 気 電 子 工 学 科	(2) 42	() 8	(2) 34	() 8	(2) 34	() 7	(2) 27	() 0	452	13.3
制 御 情 報 工 学 科	(3) 41	() 20	(3) 21	() 18	(3) 21	(1) 3	(2) 18	() 0	303	14.4
物 質 工 学 科	(10) 42	(3) 19	(7) 23	(3) 18	(7) 23	(3) 8	(4) 15	() 0	201	8.7
合 計	(17) 167	(3) 60	(14) 106	(3) 57	(14) 106	(4) 24	(10) 82	() 1	1,358	12.8

平成30年3月卒業生進路状況調

上段：（）は女子で内数

学 科 名	卒業生数	進 学 希望者数	就 職 希望者数	進学者数	就職者数	就職者内訳		その他 自 営	求人数	求人倍率
						県内	県外			
機 械 工 学 科	(1) 41	() 8	(1) 33	() 7	(1) 32	() 10	(1) 22	() 0	390	11.8
電 気 電 子 工 学 科	() 34	() 14	() 20	() 14	() 20	() 4	() 16	() 0	424	21.2
制 御 情 報 工 学 科	(5) 41	() 13	(5) 28	() 12	(5) 28	(2) 6	(3) 22	() 0	309	11.0
物 質 工 学 科	(12) 38	(1) 14	(11) 24	(1) 13	(11) 24	(4) 8	(7) 16	() 0	190	7.9
合 計	(18) 154	(1) 49	(17) 105	(1) 46	(17) 104	(6) 28	(11) 76	() 0	1,313	12.5

平成31年3月卒業生進路状況調

上段：（）は女子で内数

学 科 名	卒業生数	進 学 希望者数	就 職 希望者数	進学者数	就職者数	就職者内訳		その他 自 営	求人数	求人倍率
						県内	県外			
機 械 工 学 科	(2) 36	(1) 10	(1) 25	(1) 10	(1) 25	() 6	(1) 19	() 1	473	18.9
電 気 電 子 工 学 科	(3) 38	() 15	(3) 23	() 14	(3) 23	(1) 5	(2) 18	() 0	488	21.2
制 御 情 報 工 学 科	(5) 40	(1) 13	(4) 27	(1) 12	(4) 27	() 5	(4) 22	() 0	366	13.6
物 質 工 学 科	(10) 40	(3) 13	(7) 27	(3) 12	(6) 26	(2) 7	(4) 19	() 0	250	9.3
合 計	(20) 154	(5) 51	(15) 102	(5) 48	(14) 101	(3) 23	(11) 78	() 1	1,577	15.6

令和2年3月卒業生進路状況調

上段：（）は女子で内数

コ ー ス 名	卒業生数	進 学 希望者数	就 職 希望者数	進学者数	就職者数	就職者内訳		その他 自 営	求人数	求人倍率
						県内	県外			
機 械 コ ー ス	(3) 40	() 8	(3) 32	() 8	(3) 32	(1) 8	(2) 24	() 0	426	13.3
電 気・電 子 コ ー ス	(1) 37	() 13	(1) 24	() 13	(1) 24	() 8	(1) 16	() 0	450	18.8
情 報 コ ー ス	(7) 33	(2) 15	(5) 17	(2) 13	(5) 17	(1) 1	(4) 16	() 3	324	19.1
化 学・生 物 コ ー ス	(11) 40	(3) 14	(7) 25	(3) 14	(7) 25	(3) 7	(4) 18	() 1	219	8.8
合 計	(22) 150	(5) 50	(16) 98	(5) 48	(16) 98	(5) 24	(11) 74	(0) 4	1,419	14.5

令和3年3月卒業生進路状況調

上段：（）は女子で内数

コ ー ス 名	卒業生数	進 学 希望者数	就 職 希望者数	進学者数	就職者数	就職者内訳		その他 自 営	求人数	求人倍率
						県内	県外			
機 械 コ ー ス	(3) 36	(0) 12	(3) 24	(0) 12	(3) 24	(2) 12	(1) 12	() 0	380	15.9
電 気・電 子 コ ー ス	(1) 34	(0) 9	(1) 24	(0) 9	(1) 24	(0) 11	(1) 13	() 1	390	16.3
情 報 コ ー ス	(5) 38	(1) 15	(3) 20	(1) 15	(3) 19	(1) 8	(2) 11	(1) 3	303	15.1
化 学・生 物 コ ー ス	(12) 38	(3) 12	(9) 25	(3) 12	(9) 25	(0) 3	(9) 22	() 1	197	7.9
合 計	(21) 146	(4) 48	(16) 93	(4) 48	(16) 92	(3) 34	(13) 58	(1) 5	1,270	13.8

修了者進路状況（専攻科）

資料 7-2

令和4年2月17日
鶴岡高専運営協議会

平成29年3月修了者進路状況調

上段：（）は女子で内数

専攻名	修了者数	進学希望者数	就職希望者数	進学者数	就職者数	就職者内訳		その他 自営	求人数	求人倍率
						県内	県外			
機械・制御コース	6	3	3	3	3	1	2	0	261	87.0
電気電子・ 情報コース	(3) 10	4	(3) 6	4	(3) 6	(1) 1	(2) 5	0	303	50.6
応用化学コース	8	2	6	2	6	1	5	0	137	22.9
合計	(3) 24	9	(3) 15	9	(3) 15	(1) 3	(2) 12	0	702	46.8

平成30年3月修了者進路状況調

上段：（）は女子で内数

専攻名	修了者数	進学希望者数	就職希望者数	進学者数	就職者数	就職者内訳		その他 自営	求人数	求人倍率
						県内	県外			
機械・制御コース	7	1	6	1	6	1	5	0	270	45.0
電気電子・ 情報コース	9	1	8	1	8	3	5	0	315	39.3
応用化学コース	4	2	2	2	2	0	2	0	136	68.1
合計	20	4	16	4	16	4	12	0	721	45.0

平成31年3月修了者進路状況調

上段：（）は女子で内数

専攻名	修了者数	進学希望者数	就職希望者数	進学者数	就職者数	就職者内訳		その他 自営	求人数	求人倍率
						県内	県外			
機械・制御コース	5	2	3	2	3	1	2	0	308	102.7
電気電子・ 情報コース	12	2	10	2	10	1	9	0	347	34.7
応用化学コース	(1) 5	1	(1) 4	1	(1) 4	1	(1) 3	0	163	40.8
合計	(1) 22	5	(1) 17	5	(1) 17	3	(1) 14	0	818	48.1

令和2年3月修了者進路状況調

上段：（）は女子で内数

専攻名	修了者数	進学希望者数	就職希望者数	進学者数	就職者数	就職者内訳		その他 自営	求人数	求人倍率
						県内	県外			
機械・制御コース	1	0	1	0	1	1	0	0	332	332.0
電気電子・ 情報コース	11	3	8	3	8	2	6	0	332	41.5
応用化学コース	(1) 6	1	(1) 4	1	(1) 4	1	(1) 3	1	161	40.3
合計	(1) 18	(0) 4	(1) 13	(0) 4	(1) 13	(0) 4	(1) 9	(0) 1	825	63.5

令和3年3月修了者進路状況調

上段：（）は女子で内数

専攻名	修了者数	進学希望者数	就職希望者数	進学者数	就職者数	就職者内訳		その他 自営	求人数	求人倍率
						県内	県外			
機械・制御コース	2	0	2	0	2	1	1	0	326	162.8
電気電子・ 情報コース	(1) 9	2	(1) 7	2	(1) 7	2	(1) 5	0	343	48.9
応用化学コース	(1) 5	(1) 2	(1) 3	(1) 2	(1) 3	(1) 2	(1) 1	0	159	53.0
合計	(2) 16	(1) 4	(1) 12	(1) 4	(1) 12	(0) 5	(1) 7	(0) 0	827	68.9

本科

資料7-3a

令和4年2月17日
鶴岡高専運営協議会

1. 卒業予定者進路状況

上段：()は女子で内数

(令和3年12月31日現在)

コース名	卒業 予定者数	就職 希望者数	就職 内定者数	就職内定者数内訳			進学 希望者数	進学 決定者数	その他 自営	求人 会社数	求人数	求人倍率	求人 数前年度比
				県内	(うち庄内地区)	県外							
機 械	(8) 39	(7) 32	(7) 31	(2) 7	(2) 6	(8) 24	(1) 7	(0) 6	(0) 0	(718)	354	11.1	—
電気・電子	(4) 35	(3) 21	(3) 20	(0) 6	(0) 5	(3) 14	(1) 10	(1) 10	(0) 3	(745)	371	17.7	—
情 報	(9) 40	(5) 22	(5) 21	(2) 8	(2) 6	(3) 13	(3) 17	(3) 16	(0) 1	(639)	292	13.3	—
化学・生物	(9) 42	(8) 26	(8) 24	(3) 6	(2) 3	(5) 18	(0) 14	(0) 13	(1) 1	(469)	184	7.1	—
合 計	(30) 156	(23) 101	(23) 96	(7) 27	(6) 20	(19) 69	(5) 48	(4) 45	(1) 5	1,201	1,201	11.9	—

求人会社数の()は求人会社数の希望学科の内数

2. 規模別就職内定状況

コース名	就職 内定者数	従業員数規模別						資本金規模別						備 考
		100人 未満	100人 ～ 499人	500人 ～ 999人	1,000人 ～ 4,999人	5,000人 以上	官公庁等	5,000万円 未満	5,000万円以上 ～ 1億円未満	1億円以上 ～ 10億円未満	10億円以上 ～ 50億円未満	50億円 以上	官公庁等	
機 械	31	3	8	5	8	7	0	4	2	9	7	8	0	
電気・電子	20	1	6	2	5	6	0	2	3	5	3	7	0	
情 報	21	2	6	2	8	3	0	7	2	5	3	4	0	
化学・生物	24	1	5	1	12	4	1	1	5	4	2	11	1	
合 計	96	7	25	10	33	20	1	14	12	23	15	30	1	

3. 産業別就職内定状況 (本科)

(令和3年12月31日現在)

コース名	第2次産業																第3次産業						合計		
	鉱業	建設業	食料品	繊維工業	出版・印刷	化学工業	石油製品	鉄鋼業	非鉄金属	金属製品	機械	電子・電機	輸送用機械	精密機械	その他	小計	卸・小売業	金融・保険・不動産	運輸通信業	電気・ガス・水道業	サービス 情報処理関係含)	公務		小計	
機 械	県内	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	5	0	0	0	0	2	0	2	7
	県外	0	6	1	1	0	0	1	0	0	1	1	2	0	0	1	14	3	0	0	0	7	0	10	24
	合計	0	7	1	1	0	0	1	0	0	1	2	3	1	1	1	19	3	0	0	0	9	0	12	31
電気・電子	県内	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6
	県外	0	0	0	0	0	4	2	1	0	0	0	1	0	1	1	10	0	0	1	0	3	0	4	14
	合計	0	1	0	0	0	4	2	1	0	0	2	2	0	3	1	16	0	0	1	0	3	0	4	20
情 報	県内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4	0	0	0	0	4	0	4	8
	県外	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	6	0	0	0	0	7	0	7	13
	合計	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	4	0	10	0	0	0	0	11	0	11	21
化学・生物	県内	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	1	1	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7
	県外	0	0	1	3	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	2	14	0	0	0	2	0	1	3	17
	合計	0	0	1	3	0	13	0	0	0	0	0	0	1	1	2	21	0	0	0	2	0	1	3	24
合 計	県内	0	2	0	0	0	4	0	0	0	0	3	2	2	7	0	20	0	0	0	0	5	0	5	25
	県外	0	6	3	4	0	13	3	1	0	0	1	5	1	1	4	42	3	0	1	2	16	1	23	65
	合計	0	8	3	4	0	17	3	1	0	0	4	7	3	8	4	62	3	0	1	2	21	1	28	90

専攻科

1. 修了予定者進路状況

上段：（ ）は女子で内数

(令和3年12月31日現在)

専攻名	修了 予定者数	就職 希望者数	就職 内定者数	就職内定者数内訳			進学 希望者数	進学 決定者数	その他 自営	求人 会社数	求人数	求人倍率	求人数 前年度比
				県内	(うち庄内地区)	県外							
機械・制御コース	(0) 5	2	2	1	1	1	3	3	0	(633)	306	153.1	—
電気電子・情報コース	(2) 12	(1) 6	(1) 6	2	2	4	1 6	1 6	0	(653)	331	55.1	—
応用化学コース	(0) 7	6	6	1	1	5	1	1	0	(422)	155	25.9	—
合計	(2) 24	(1) 14	(1) 14	(0) 4	(0) 4	(1) 10	(1) 10	(1) 10	(0) 0	682	792	56.6	—

求人会社数の（ ）は求人会社数の希望専攻の内数

2. 規模別就職内定状況

専攻名	就職 内定者数	従業員数規模別						資本金規模別						備考
		100人 未満	100人 ～ 499人	500人 ～ 999人	1,000人 ～ 4,999人	5,000人 以上	官公庁等	5,000万円 未満	5,000万円以上 ～ 1億円未満	1億円以上 ～ 10億円未満	10億円以上 ～ 50億円未満	50億円 以上	官公庁等	
機械・制御コース	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	
電気電子・情報コース	6	0	1	1	3	1	0	1	0	2	2	1	0	
応用化学コース	6	0	3	0	2	1	0	0	0	1	1	4	0	
合計	14	0	4	2	5	3	0	1	0	3	4	6	0	

3. 産業別就職内定状況(専攻科)

(令和3年12月31日現在)

専攻名	第2次産業																第3次産業						合計		
	鉱業	建設業	食料品	繊維工業	出版・印刷	化学工業	石油製品	鉄鋼業	非鉄金属	金属製品	機械	電子・電機	輸送用機械	精密機械	その他	小計	卸・小売業	金融・保険・不動産	運輸通信業	電気・ガス・水道業	サービス(情報処理関係含)	公務		小計	
機械・制御コース	県内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	県外	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	合計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
電気電子・情報コース	県内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
	県外	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	0	0	0	1	0	1	4	
	合計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	5	0	0	0	0	1	0	1	6	
応用化学コース	県内	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	県外	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5	
	合計	1	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6	
合計	県内	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	
	県外	1	1	1	0	0	2	1	0	0	0	1	0	1	1	9	0	0	0	0	1	0	1	10	
	合計	1	1	1	0	0	3	1	0	0	0	2	0	3	1	13	0	0	0	0	1	0	1	14	

就職内定先一覧(本科・専攻科)

(令和3年12月31日現在)

コース名						コース名								
会社名 (※太字は県内企業)	機 械	電 気 ・ 電 子	情 報	化 学 ・ 生 物	専 攻 科	合 計	会社名 (※太字は県内企業)	機 械	電 気 ・ 電 子	情 報	化 学 ・ 生 物	専 攻 科	合 計	
【建設業】						【電子・電機】								
(株) 日立ビルシステム	1					1	TDK庄内 (株)	1					1	2
(株) 三信	1					1	(株) JVCケンウッド山形	1						1
(株) J-POWERハイテック	1					1	浜松ホトニクス (株)	1						1
裕幸計装 (株)	1					1	電源開発 (株)		1					1
レイズネクスト (株)	1					1	ASEジャパン (株)		1					1
東日本高速道路 (株)	1					1	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング (株)			1				1
(株) メカニック	1					1	ファナック (株)			1				1
東北電機鉄工 (株)		1				1	パナソニック (株) アプライアンス社						1	1
(株) マイスターエンジニアリング			1		1	2								
【食料品】						【輸送用機械】								
サントリービール (株)	1					1	マーレエンジンコンポーネンツジャパン (株)	1						1
雪印メグミルク (株)			1			1	トヨタ自動車東日本 (株)			1				1
キリンビール (株)				1		1	ティーピーアール (株)				1			1
サントリースピリッツ (株)					1	1								
【繊維】						【精密機械】								
日清紡ホールディングス (株)	1					2	(株) アライドマテリアル	1						1
旭化成 (株)				1		1	東北エプソン (株)	1	2	1	1	1	6	
平岡織染 (株)				1		1	アキム (株)		1					1
							オリエンタルモーター (株) 鶴岡中央事業所				1		1	2
							(株) ニシカワ			2				2
							テルモ (株)						1	1
【化学工業】						【電気・ガス・水道】								
三菱ケミカル (株)	1					1	東京水道 (株)					1		1
花王 (株)	1					1	東京ガス (株)					1		1
(株) NBCメッシュテック	1					1								
東和薬品 (株)	1	1				2								
第一三共ケミカルファーマ (株)				1		1	【その他】							
日触テクノファインケミカル (株)				1		1	王子マテリア (株) 鈮路工場	1						1
水澤化学工業 (株)				1		1	日東電工 (株)		1					1
(株) クレハ				1		1	日本ゼオン (株) 川崎工場					2		2
住友精化 (株)				1		1								
東亜合成 (株) 横浜工場				1		1	【卸・小売業】							
日新製薬 (株)				3		3	アイリスオーヤマ (株)	2						2
川研ファインケミカル (株)				1		1	アマゾンジャパン合同会社	1						1
ライオン (株)				1		1	榊ヴィノスやまざき						1	1
東洋インキS Cホールディングス (株)				1		1								
(株) 三井化学分析センター					1	1	【運輸通信業】							
D I C (株)					1	1	東日本旅客鉄道 (株)		1					1
東北東ソー化学 (株)				1	1	2	【サービス (情報処理関係含)】							
【石油製品】						(株) ヨロズエンジニアリング								
富士石油 (株)	1					1	(株) J R 東日本メカトロサービス	1	1	1				3
出光興産 (株)		2				2	キヤノンメディカルシステムズ (株)	1						1
ENEOS (株)					1	1	NTT東日本グループ会社	1						1
							三菱電機ビルテクノサービス (株)	1						1
【鉄鋼業】						(株) プレステージ・インターナショナル山形BPOカーデーン								
(株) 山陽精機	1					1	サンリツオートメイション (株)	1						1
J X 金属 (株)					1	1	第一工業 (株)	1						1
							(株) 日産オートモーティブテクノロジー	1						1
【機械】						アイフォーコム (株)								
(株) 昭和真空	1					1	(株) 松村エンジニアリング			1				1
斎藤マシン工業 (株)	1					1	成田空港給油施設 (株)			1				1
(株) シンクロン鶴岡工場		2				2	パナソニック L S エンジニアリング (株)		1					1
							(株) アルファシステムズ				1			1
							(株) 日情システムソリューションズ				2			2
							パナソニックシステムソリューションズ ジャパン (株)				1			1
							富士フィルムメディカル (株)						1	1
						【公務員】								
							自衛隊						1	1

鶴岡工業高等専門学校運営協議会規程

制 定 平成14年 2月 6日
最終改正 令和 2年 5月29日

(設置)

第1条 鶴岡工業高等専門学校（以下「本校」という。）に鶴岡工業高等専門学校運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(目的)

第2条 協議会は、次の事項について点検・評価をし、助言、指導を与える。

- 一 教育の内部質保証システム（3つの方針（DP,CP,AP）に関する項目、及び校内PDCAサイクルに関する項目を含む）に関すること
- 二 教育組織及び教員・教育支援者等に関すること
- 三 学習環境及び学生支援等に関すること
- 四 財務基盤及び管理運営に関すること
- 五 準学士課程の教育課程・教育方法に関すること
- 六 準学士課程の学生の受入れに関すること
- 七 準学士課程の学習・教育の成果に関すること
- 八 専攻科課程の教育活動の状況に関すること
- 九 その他、正副委員長が必要と認める事項

(組織)

第3条 協議会は、次に掲げる者のうちから、校長が委嘱した委員及び校長をもって組織する。

- 一 本校の所在する地域の関係者
- 二 大学その他の教育研究機関の職員
- 三 その他高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者

(正副委員長)

第4条 協議会に正副委員長を置き、委員長は委員の互選により選出し、副委員長は校長をもって充てる。

2 正副委員長は、共同して協議会を掌理し会議等を招集し、議長となる。

(任期)

第5条 第3条各号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(オブザーバ)

第6条 本校副校長（総務・教務担当）及び事務部長は、オブザーバとして会議等に出席することができる。

(幹事)

第7条 協議会に幹事を置き，総務課長をもって充てる。

(事務)

第8条 協議会の事務は，総務課において処理する。

(改正手続)

第9条 この規程の改正は，校長の発議により，運営会議の議を経て校長が定める。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか，協議会の運営に関し必要な事項は，別に定める。

附 則

この規程は，平成14年2月6日から施行する。

附 則

この規程は，平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成18年4月3日から施行し，同年4月1日から適用する。

附 則

この規程は，平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，令和2年5月29日から施行する。

鶴岡工業高等専門学校における自己点検・評価に関する実施基本方針

自己点検・評価委員会
制 定 平成31年4月24日
最終改正 令和 2年5月29日

1 趣旨・目的

本校は、教育理念「理魂工才」「自学自習」のもとに、教育目標として

- 1) 豊かな人間性と広い視野を持ち、社会人としての倫理を身につける
- 2) あらゆる学習を通じて思考力を鍛え、創造力に富んだ技術者になる
- 3) 専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う
- 4) 意思伝達及び相互理解のため、十分なコミュニケーション力を養う

を掲げ、優秀な技術者を卒業生として送り出すとともに、山形県庄内地区唯一の工科系高等教育機関として、地域社会への貢献に努めている。

これを確実に実施しつつ本校の発展・向上を図るためには、教育、研究、社会連携や管理運営の継続的な点検評価及び改善が不可欠である。

本基本方針は、学校教育法第109条第1項に規定する点検及び評価並びに独立行政法人国立高等専門学校機構中期計画等の策定及び評価に関する規則第7条第1項に規定する事業年度毎の評価（以下「自己点検・評価」という。）に対応するため、「鶴岡工業高等専門学校自己点検・評価委員会規程」（以下「規程」という。）第2条に基づき、内部質保証のために本校が実施する自己点検・評価の指針を示すものである。

2 実施体制

規程第3条に定める自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を中心に関係組織の協力を得て、本校における自己点検・評価を実施する。

3 実施方法

(1) 以下の項目に関して実施計画などを策定し、自己点検・評価を行う。

- イ) 学校教育法第109条第1項に基づき本校が定めた点検項目
- ロ) 独立行政法人国立高等専門学校機構中期計画及び年度計画に基づく実施項目

(2) (1)のイ) の点検項目については、以下の8つの基準について行うものとし、それらの具体的な項目は「鶴岡高専自己点検・評価表」に定める。

1. 教育の内部質保証システム（3つの方針（DP,CP,AP）に関する項目、及び校内PDCAサイクルに関する項目を含む）
2. 教育組織及び教員・教育支援者等

3. 学習環境及び学生支援等
 4. 財務基盤及び管理運営
 5. 準学士課程の教育課程・教育方法
 6. 準学士課程の学生の受入れ
 7. 準学士課程の学習・教育の成果
 8. 専攻科課程の教育活動の状況
- (3) 「鶴岡高専自己点検・評価表」に基づき、以下の評価の基準により、その実施状況を確認して点検・評価を行う。
- 5：期待を上回って実施している
 - 4：十分に実施している
 - 3：実施している
 - 2：十分には実施していない
 - 1：実施していない
- (4) 自己点検・評価委員会は、毎年度に自己点検・評価を実施し、年度末に結果に関する報告書を取りまとめ、本校公式Webサイトにて公表する。
- (5) 校長は、自己点検・評価委員会が行った自己点検・評価等の結果について、必要に応じ、外部評価を実施するものとする。外部評価については、鶴岡工業高等専門学校運営協議会を設置して評価を行う。
- (6) 校長は、自己点検・評価委員会が行った自己点検・評価等の結果及び外部評価に基づき、改善が必要と認められるものについては、自らその改善に努めるものとし、必要がある場合は関係する組織等にその改善策の検討を指示する。

4 点検及び評価に関する事務は、総務課で行う。

附 則

この基本方針は、平成31年4月24日から施行する。

附 則

この基本方針は、令和元年10月30日から施行する。

附 則

この基本方針は、令和2年 5月 1日から施行する。

附 則

この基本方針は、令和2年 5月29日から施行する。

鶴岡工業高等専門学校自己点検・評価委員会規程

制 定 平成31年2月7日
最終改正 令和 2年5月1日

(設置)

第1条 鶴岡工業高等専門学校に、自己点検・評価委員会（以下「委員会」という）を置く。

(任務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 自己点検・評価に関する基本方針並びに実施計画等の策定に関すること
- (2) 自己点検・評価の実施並びに結果に関する報告書の作成及び公表に関すること
- (3) 学校の目的及び三つの方針の見直しに関すること
- (4) その他自己点検・評価に関する必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 各副校長
- (3) 各コース長、基盤教育グループ長
- (4) 事務部長
- (5) その他校長が指名する者

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもってあてる。

- 2 委員長は、委員会を招集しその議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第6条 委員会に特定事項について審議するため、専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会に関し必要な事項は、委員会が定める。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の定めるところによる。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 鶴岡工業高等専門学校評価・改善委員会規程（平成24年2月29日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、令和2年5月1日から施行する。

令和3年度 鶴岡工業高等専門学校運営協議会報告書

令和4年3月

独立行政法人国立高等専門学校機構

鶴岡工業高等専門学校

〒997-8511 山形県鶴岡市井岡字沢田 104

TEL 0235(25)9453 (総務課企画・連携係)

FAX 0235(24)1840 (総務課共通)

URL <https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/>
